

和田岩坪遺跡

— 和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う発掘調査報告書 —

2020年2月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

和田岩坪遺跡

— 和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う発掘調査報告書 —

2020年2月

公益財団法人 和歌山県文化財センター



調査遺構全景（真上上空から：モザイク写真）左側が北

序

和歌山市和田所在の和田岩坪遺跡は、和歌山県北部を西流する和田川の流れによって形成された低湿なラグーン性低地から小丘陵に挟まれた浅い開析谷に位置しています。

和田岩坪遺跡の北東側には神前遺跡や井辺遺跡など、東側には和田遺跡や和田II遺跡などの弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡が展開しています。遺跡の西側に位置する丈六山の山塊には和田古墳群が、北東に位置する福飯ヶ峯の山塊には井辺八幡山古墳を含む井辺前山古墳群が所在しており、集落と墓域の解明が期待されているところです。また、和田岩坪遺跡の立地する和田川周辺には、県内でも著名な河南条里・和田川条里が広がり、古代から中世にかけての開発史の中でも注目される地域の一つに挙げられます。

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、和歌山平野農地防災事業「名草排水機場建設工事」に伴い平成30年度に和田岩坪遺跡の発掘調査を実施しました。ここでは、弥生時代から鎌倉時代に断続的に続く生活遺構や自然流路（川）を発見し、往時の一景観を明らかにすることができました。

平成31年度（令和元年度）に出土遺物等整理業務を行い、このたびその成果をまとめることができましたので、発掘調査報告書として刊行する次第です。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたりご指導・ご協力を賜りました関係各位、地元の皆様に対し厚くお礼申しあげます。

令和2年2月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 櫻井 敏雄

例 言

- 1 本書は、和歌山県和歌山市和田に所在する和田岩坪遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に先立つもので、平成30年度に発掘調査業務を行い、同31年度（令和元年度）に出土遺物等整理業務を実施した。
- 3 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、近畿農政局の委託を受けた公益財団法人和歌山文化財センターが、和歌山県教育委員会の指導のもとに実施した。
- 4 発掘調査及び出土遺物等整理業務に要した経費は、近畿農政局が負担した。
- 5 現地調査に際し、近畿農政局和歌山平野農地防災事業所をはじめ、和歌山市・関係機関及び和田地区自治会・隣接する地元の方々から多大なご協力を得た。
- 6 発掘調査及び出土遺物等整理業務に際し、以下の方々からご助言を得た。記して、謝意を表す次第である。
大木 要（和歌山市）、大野左千夫（元和歌山市教育委員会）、佐々木由香（明治大学黒曜石研究センター）、西村 歩（歴史館いすみさの）、能城修一（明治大学黒曜石研究センター）、前田仁暉（京都大学大学院）、村上由美子（京都大学総合博物館）（所属は当時）
- 7 本書は、土井が執筆・編集した。但し、付章第1節は、能城修一、佐々木由香、村上由美子、前田仁暉氏に、第2節は金原美奈子に執筆して頂いた。
- 8 写真図版に使用した遺構写真及び遺物写真は、土井が撮影した。
- 9 発掘調査及び出土遺物等整理業務で作成した図面・写真及び台帳等の記録資料は、公益財団法人和歌山文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が保管している。
- 10 発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は、以下に示すとおりである。

調査組織

事務局	平成30年度	平成31年度（令和元年度）
事務局長	井上 拳宏	井上 拳宏
事務局次長	——	寺本 就一
管理課長	井上 拳宏	井上 拳宏
埋蔵文化財課		
埋蔵文化財課長	丹野 拓	丹野 拓
発掘調査業務・出土遺物等整理業務担当		
副主査	土井 孝之	土井 孝之

凡 例

- 1 遺構実測図及び地区割の基準線は、平面直角座標系第VI系（世界測地系）に基づき、値はm単位で使用している。また、図面に示した北方位は、座標北を示す。
- 2 遺構実測図の基準高は、東京湾標準潮位（T.P.+）表示である。
- 3 座標北は、磁北から $6^{\circ} 54' 13''$ 東偏する。また、座標北は、真北から $0^{\circ} 26' 47''$ 西偏する。
- 4 発掘調査及び整理作業で使用した調査コードは、以下のとおりである。
18-01-302 (2018年度一和歌山市・和田岩坪遺跡)
出土遺物・記録資料の整理に当って、全て上記の調査コードを使用している。
- 5 本書における地区名及び遺構番号は、全て調査時のものをそのまま使用した。
- 6 本書の遺構・断面土層実測図は、特に縮尺を統一していないが、各々に明示している。
- 7 遺物番号は、本文・実測図・写真図版において一致する。
- 8 遺物実測図の縮尺は、土器類は原則として1/4で、それ以外の場合は必要に応じて縮尺を明示している。遺物写真的縮尺は、特に統一していない。
- 9 調査時の土層の色調・土壤の粒径区分及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(2010年版)を使用した。
- 10 土層名で2種類以上の記載のある場合は、前者が主体で、後者が副になることを示す。

本 文 目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 位置と地理的環境	3
第2節 歴史的環境	5
第3節 既往の調査と文献史料	9
第3章 発掘調査の方法と資料整理	10
第1節 調査現場の記録作業等	10
1 遺構番号及び出土遺物登録番号	10
3 実測図作成作業	10
第2節 出土遺物等資料の整理	11
1 出土遺物応急整理	11
第3節 調査区の設定	13
1 地区割	13
2 調査方法	14
第4章 調査成果	15
第1節 2区の調査成果	15
1 2区の調査概要	15
3 各遺構の調査成果	17
(1) 弥生時代前期の検出遺構	17
(2) 古墳時代の検出遺構	22
(3) 鎌倉時代の検出遺構	22
第2節 1区の調査結果	36
1 1区の調査概要	36
2 各遺構の調査成果	36
第5章 まとめ	56
出土遺物一覧	61
付章	
第1節 和田岩坪遺跡出土木材の樹種	75
第2節 和田岩坪遺跡における大型種実同定	85

写真図版 検出遺構・出土遺物

報告書抄録・奥付

挿図目次

図 1 和歌山平野と周辺の地形分類図	3	図 27 2 区 出土遺物実測図 1	33
図 2 古墳時代の和歌山平野と和田岩坪遺跡の位置	4	図 28 2 区 出土遺物実測図 2	34
図 3 和田岩坪遺跡と周辺の地形分類図	4	図 29 2 区 出土遺物実測図 3	35
図 4 和田岩坪遺跡と周辺の遺跡	6	図 30 1-1 区の基本層序 (1 自然流路 : 調査区南壁断面土層)	37
図 5 区画割模式図 (1 km 区画)	13	図 31 1-1 区・1-2 区 1 自然流路第 6 層系堆積層内 遺物等検出・出土状況図	38
図 6 調査位置と区画割 (100 m 区画)	13	図 32 1-1 区 調査区北壁断面土層図 (1 自然流路)	39
図 7 調査範囲と地区割 (4 m 区画)	14	図 33 1-2 区の基本層序 (1 自然流路 : 調査区 南壁断面土層)	40
図 8 2-1 区の基本層序 (調査区南壁断面土層)	15	図 34 2-1 区・2-3 区 1 自然流路東側肩口等 断面土層実測図	41
図 9 調査遺構全体図	16	図 35 1-1 区 1 自然流路第 6 層系堆積層内 筒状木杭列等実測図	42
図 10 2-1 区 12 土坑実測図	17	図 36 1-1 区 1 自然流路内 3 木組み構造物実測図	44
図 11 2-3 区 102・109 土坑実測図	18	図 37 1 区 1・2 自然流路出土遺物実測図	45
図 12 2-3 区 107 土坑実測図	19	図 38 1 区 1 自然流路出土遺物実測図 1	46
図 13 2-3 区 147 土坑実測図	20	図 39 1 区 1 自然流路出土遺物実測図 2	47
図 14 2-3 区 143 溝実測図	21	図 40 1 区 1 自然流路出土遺物実測図 3	48
図 15 2-1 区 13 区画溝、2-3 区 112 区画溝断面 土層実測図	23	図 41 1 区 1 自然流路出土遺物実測図 4	49
図 16 2-1 区 14・15 土坑実測図	24	図 42 1 区 1 自然流路出土遺物実測図 5	50
図 17 2-3 区 123 土坑実測図	25	図 43 1 区 1 自然流路出土遺物実測図 6	51
図 18 2-1 区 17 土坑実測図	25	図 44 1 区 1 自然流路出土石器・石製品実測図	52
図 19 2-1 区 16 水溜実測図	26	図 45 1 区 1 自然流路出土木器・木製品実測図 1	53
図 20 2-3 区 105 土坑実測図	27	図 46 1 区 1 自然流路出土木器・木製品実測図 2	54
図 21 2-3 区 144・148 土坑実測図	28	図 47 1 区 1 自然流路出土木製品実測図	55
図 22 2-1 区 63 柱穴実測図	28	図 48 土錐の法量分布	59
図 23 2-3 区 103 溝断面土層実測図	29		
図 24 2-1 区 92 土坑実測図	30		
図 25 2-1 区・2-2 区 据立柱柱穴実測図	31		
図 26 2-2 区の基本層序 (調査区北壁・ 西壁断面土層)	32		

表目次

表 1 発掘調査・出土遺物等整理業務工程	2	表 3 土錐法量計測値一覧	59
表 2 和田岩坪遺跡と周辺の遺跡地名一覧	7		

写真目次

写真 1 土壌検査のための試料採取	2	写真 8 坂田遺跡出土の琴柱形石製品	8
写真 2 1 区 1 自然流路掘削状況 (北西から)	2	写真 9 神前遺跡 2011-7・8 区 (北東から)	9
写真 3 現地公開の開催状況	2	写真 10 1 区 1 自然流路遺物等出土状況図 作成状況	10
写真 4 神前遺跡と和田岩坪遺跡遠景 (北北東から)	5	写真 11 遺物の洗浄作業	11
写真 5 神前遺跡出土の弥生土器	5	写真 12 遺物への注記作業	11
写真 6 和田遺跡と和田岩坪遺跡遠景 (東から)	8	写真 13 樹種同定のための切片採取作業	12
写真 7 坂田遺跡と龜山神社 (北から)	8		

付章 図・表・写真目次

第1節

表1 和田岩坪遺跡出土木製品類と自然木の樹種	80	写真3 和田岩坪遺跡出土木材の顕微鏡写真(3)	83
写真1 和田岩坪遺跡出土木材の顕微鏡写真(1)	81	写真4 和田岩坪遺跡出土木材の顕微鏡写真(4)	84
写真2 和田岩坪遺跡出土木材の顕微鏡写真(2)	82		
第2節			
表1 和田岩坪遺跡における種実同定結果	88	表2 和田岩坪遺跡におけるモモ核の計測値	89
図1 モモ核の計測値分布	89	写真1 和田岩坪遺跡の種実	90

写真図版目次

巻頭写真図版 調査遺構全景（真上上空から：モザイク写真）

写真図版1 調査地遠景・調査前の現況

- 1 調査地遠景（北から）
- 2 1区 調査前の現況（北北東から）
- 3 2区 調査前の現況（北北東から）

写真図版2 検出遺構 2区

- 1 2-1区 調査遺構全景（北北東寄り北上空から）
- 2 2-1区 調査遺構全景（東北東から）
- 3 2-1区 調査遺構全景（西北西から）

写真図版3 検出遺構 2区

- 1 2-3区 調査遺構全景（真上上空から）
- 2 2-3区 南半側 調査遺構全景（西北西寄り西から）
- 3 2-3区 北半側 調査遺構全景（北北東寄り北から）

写真図版4 検出遺構 2区

- 1 2-3区 南南東側 調査遺構全景（東南東から）
- 2 2-1区 B8s16 12 土坑完掘状況と調査区東・南壁断面上層（北西から）
- 3 2-1区 B8s16 12 土坑北東-南西断面上層（北西から）

写真図版5 検出遺構 2区

- 1 2-3区 B8q・r12 102・109 土坑完掘状況（東南東寄り東から）
- 2 2-3区 B8q・r12 109 土坑に伴う標石か（東南東寄り東から）
- 3 2-3区 B8q・r12 109 土坑東西断面上層（南から）

写真図版6 検出遺構 2区

- 1 2-3区 B8s12 107 土坑完掘状況（東南東から）
- 2 2-3区 143溝完掘状況（北北東寄り北から）
- 3 2-3区 B8s・t11 143溝東西断面上層（南南西寄り南から）
- 4 2-3区 B8t12 143溝東西断面上層（南南西寄り南から）

写真図版7 検出遺構 2区

- 1 2-3区 B8s12 147 土坑完掘状況（北東から）
- 2 2-3区 B8s12 147 土坑北東-南西断面上層（北西から）

3 2-1区 B8v13 84溝円方形状痕跡検出状況（北北東から）

写真図版8 検出遺構 2区

- 1 2-1区 13区画溝完掘状況（北北東から）
- 2 2-1区 B8t・u16 13区画溝調査区南壁東西断面上層（北西から）
- 3 2-1区 B8s・t・u15 13区画溝東西断面上層（南南西から）
- 4 2-3区 B8u11・12 112区画溝南北断面上層（東南東寄り東から）

写真図版9 検出遺構 2区

- 1 2-1区 B8r・s14 14・15 土坑上層下位遺物等出土状況（東南東から）
- 2 2-1区 B8r・s14 14・15 土坑上層下位遺物等出土状況（北北東から）
- 3 2-1区 B8r・s14 14・15 土坑上半東西断面上層（南南西から）
- 4 2-1区 B8r・s14 14・15 土坑下半東西断面上層（南南西から）

写真図版10 検出遺構 2区

- 1 2-1区 B8r・s16 16 水溜硬化面完掘状況と調査区東壁断面上層（西北西から）
- 2 2-1区 B8r・s16 16 水溜調査区東壁断面上層（斯ら割り後：西北西から）
- 3 2-3区 B8s12 123 土坑完掘状況（東から）

写真図版11 検出遺構 2区

- 1 2-1区 B8x14・15 92 土坑完掘状況（西北西から）
- 2 2-1区 B8x14・15 92 土坑南北断面上層（東南東から）
- 3 2-3区 B8s12 123 土坑東西断面上層（南から）
- 4 2-1区 B8u4 63 柱穴根石検出状況（南南西から）
- 5 2-3区 B8s・t11 144 土坑完掘状況（北北西寄り北から）
- 6 2-3区 B8s・t11 144 土坑南北断面上層（西南西寄り西から）

- 7 2-1 区 B8s13・14 17 土坑完掘状況（南から）
- 8 2-1 区 B8s13・14 17 土坑東西断面上層（南から）
- 9 2-3 区 B8r10 103 溝南北断面上層（東寄り東南東から）
- 10 2-3 区 B8s10 103 溝調査区西壁断面上層（東寄り東南東から）

写真図版 12 検出遺構 2区

- 1 2-2 区 調査区全景（南東から）
- 2 2-2 区 B8y16 調査区北壁断面上層（南南西から）
- 3 2-2 区 B8y16 調査区西壁断面上層（東南東から）

写真図版 13 検出遺構 1区

- 1 1-1 区・1-2 区 調査地と周辺部の状況（北北東上空から）
- 2 1-1 区 1 自然流路第6層系堆積層内 遺物等検出・出土状況（北北西寄り北から）
- 3 1-1 区 1 自然流路第6層系堆積層内 遺物等検出・出土状況（南南西から）

写真図版 14 検出遺構 1区

- 1 1-1 区 1 自然流路第6層系堆積層内 箭状木杭列等検出状況（西北西から）
- 2 1-1 区 1 自然流路第6層系堆積層内 箭状木杭列等検出状況（東南東から）
- 3 1-1 区 C8a12・13 1 自然流路第6層系堆積層内 箭状木杭列等検出状況細部（北北東から）

写真図版 15 検出遺構 1区

- 1 1-1 区 調査区北壁断面上層（西南西から）
- 2 1-1 区 B8v11・w10・11（調査区北東側） 調査区北壁断面上層細部（西南西から）
- 3 1-1 区 C8a・b9（調査区北西侧） 調査区北壁断面上層細部（南東から）

写真図版 16 検出遺構 1・2区

- 1 2-3 区 B8v11 1 自然流路東肩口調査区北壁断面上層細部（南南西から）
- 2 1-1 区 C8a・b14 調査区南壁上半部断面上層細部（北北東から）
- 3 1-1 区 C8a・b14 1 自然流路 調査区南壁下半部断面上層細部（北北東から）

写真図版 17 検出遺構 1区

- 1 1-1 区 C8b12 中央～南半 1 自然流路第6層系堆積層下端 6-3 内遺物等出土状況（北北東から）

- 2 1-1 区 C8b11 南端 1 自然流路第6層系堆積層内 3木組み構造物 檻出状況（東南東から）
- 3 1-1 区 C8b11 南端 1 自然流路第6層系堆積層内 3木組み構造物 杭打ち割り状況（東南東から）

写真図版 18 検出遺構 1区

- 1 1-1 区 C8a10 南端 1 自然流路第6層系堆積層内 農具W8 出土状況（東から）
- 2 1-1 区 C8a・b11 南端 1 自然流路第6層系堆積層内 建築部材 W16 出土状況（南東から）
- 3 1-1 区 C8a13 北東半 1 自然流路第6層系堆積層内 建築部材 W17 出土状況（北北西から）

写真図版 19 検出遺構 1区

- 1 1-1 区 C8a10 西側法面 1 自然流路第6層系堆積層内 遺物等出土状況（東から）
- 2 1-3 1-1 区 B8y11 北東隅 1 自然流路第6層系堆積層内 木材W23 檻出状況（南東から）
- 4 1-1 区 C8a12 中央EWトレンチ南壁断面上層（手前、基盤断面割り）（北北東寄り北から）

写真図版 20 検出遺構 1区

- 1 1-2 区 1 自然流路第6層系堆積層内 遺物等出土状況（西北西から）
- 2 1-2 区 B8w10 調査区南壁断面上層細部（北北東から）
- 3 1-2 区 B8w9 南東隅 1 自然流路第6層系堆積層内 農具W1 出土状況（北北西から）

写真図版 21 2-1 区・2-2 区・2-3 区 遺構他出土遺物

写真図版 22 2-1 区 遺構出土遺物 1

写真図版 23 2-1 区 遺構出土遺物 2

写真図版 24 1 区 1・2 自然流路出土遺物

写真図版 25 1 区 1 自然流路出土遺物 1

写真図版 26 1 区 1 自然流路出土遺物 2

写真図版 27 1 区 1 自然流路出土遺物 3

写真図版 28 1 区 1 自然流路出土遺物 4

写真図版 29 1 区 1 自然流路出土石器・石製品

写真図版 30 1 区 1 自然流路出土木器・木製品 1

写真図版 31 1 区 1 自然流路出土木器・木製品 2

写真図版 32 1 区 1 自然流路出土木製品

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

排水機場及び排水路は、和田川流域（和歌山市）や貴志川流域（紀の川市）などの各小河川流域の大雨等による湛水被害から農地を守り、地域農業の発展のため建設され機能している。和歌山市和田に位置する現有の名草排水機場は、平成元年度～同3年度にかけて建設され、隣接する名草川から和田川への排水機能を担っている。

和田川流域には、名草排水機場の他、上流側に岡崎排水機場、米田排水機場が、排水路として名草排水路、米田排水路、中溝安原支線水路などが機能しており、近年の流域内の宅地開発などによる排水流出量の増加により、降雨時には排水能力が不足し、農地等の湛水被害が生じている。このため、近畿農政局和歌山平野農地防災事業所は、排水機場及び排水路の改修・新設を行い、湛水被害を未然に防止、または軽減する目的で農業生産の維持及び農業経営の円滑化を進めている。

このような役目を担って近畿農政局和歌山平野農地防災事業所では、和歌山平野農地防災事業の一環として、今回、この名草排水機場施設の老朽化と排水能力の改善向上を目的として、現有の施設の東側隣接地に新しい排水機場を建設する名草排水機場建設工事が計画されたが、その事業予定地が埋蔵文化財包蔵地「和田岩坪遺跡」（図4の302）内に位置するため、平成29年8月21日付け29近和第226号で近畿農政局和歌山平野農地防災事業所長により、和歌山県教育委員会へ文化財保護法第94条第1項の規定に基づく通知が行われ、これに対し、平成29年9月4日付け文第04050002号の（58）で確認調査を必要とする旨の通知を和歌山県教育委員会が行った。

以上を受けて、平成30年1月18日付け29近和第226号－2で近畿農政局和歌山平野農地防災事業所長より和歌山県教育委員会に発掘調査の依頼があり、平成30年2月20日付け文第04060004号の（24）で和歌山県教育委員会がこれを受諾し、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課（以下、県文化遺産課）で名草排水機場建設工事に伴う第1次確認調査が平成30年3月時点で試掘調査が可能な範囲について、平成30年3月26日～3月27日に実施された。引き続き、平成30年4月4付け近和第16号で近畿農政局和歌山平野農地防災事業所長より和歌山県教育委員会に発掘調査の依頼があり、平成30年5月16日付け文第05140004号の（3）で和歌山県教育委員会がこれを受諾し、県文化遺産課で名草排水機場建設工事に伴う第2次確認調査が平成30年6月11日～6月12日に実施された。

その結果、和歌山県教育委員会により事業予定地について記録保存目的の本発掘調査が必要と判断された。そこで、和歌山県教育委員会の指導のもと、当文化財センターが「平成30年度 和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡発掘調査委託業務」として近畿農政局よりこれを受託し、本発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の経過（表1、写真1～3）

発掘調査は、工事請負方式で実施し、「和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡発掘調査工事」として福興建設株式会社に、基準点測量及び航空写真測量は「和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡発掘調査業務に係る航空写真測量・基準点測量委託業務」として有限会社ヤマニシに再委託して実施した。

発掘調査工事は、平成30年10月22日より現地の準備作業を開始し、同時に一般社団法人和歌山県葉

表1 発掘調査・出土遺物等整理業務工程

業務	年度 月	平成30年度（2018年度）												平成31・令和元年度（2019年度）												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
発掘調査 工程														契約期間												
出土遺物等整理 報告書印刷期間含む														契約期間												

専門会による土壤検査のための土壤試料採取（写真1）を行い、その後、平成31年1月18日付けで掘削排土置き場を確保するため当初の区画割を変更して調査を進めた。調査対象地の構造面は1面で、1-1区・1-2区を平成30年12月19日にラジコンヘリコプターを使用して航空写真測量を行った。2-1区を第2回目として平成31年1月29日に、2-3区を第3回目として平成31年2月21日に航空写真測量を実施した。調査記録作業の終了後に埋め戻しを行い、平成31年3月6日に現地での調査を終了した。本調査面積は、921.0 m²である。



写真1 土壤検査のための試料採取



写真2 1区 1自然流路掘削状況 (北西から)

また、現地での発掘調査と併行して、当文化財センターの事務局整理棟で出土遺物の応急整理作業（主に出土遺物洗浄作業）を行った。

この他、普及活動として、周辺住民の方々を対象とした現地公開（説明会）を平成31年2月2日（土）に実施し、2-1区を中心として本遺跡の調査内容及び出土遺物の説明等を行った。当日は好天に恵まれ、76名の参加者を得た（写真3）。

また、平成31年2月4日（月）には、地元の和歌山市立三田小学校5年生68名、6年生59名と引率の先生方の見学を受け入れ、学級毎に説明を行った。



写真3 現地公開の開催状況

第2章 位置と環境

第1節 位置と地理的環境 (図1～3)

和田岩坪遺跡(図4の302)は、和歌山市和田小字岩坪に所在し、現行の行政的な遺跡範囲(『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』2007年)は、東西約150m、南北約330mに広がる。

和歌山市は、和歌山県の北西部に位置し、北は大阪府との府県境となる和泉山脈が東西に延びる。その麓には大台ヶ原を源流とする紀の川が西流し、和歌山市の西部で紀伊水道に注いでいる。

紀の川北岸で中央構造線が東西に横断し、この断層によって北側の内帶と南側の外帶とに分けられる。内帶は、砂岩・泥岩の互層からなる和泉層群であり、当遺跡が位置している外帶は結晶片岩を主体とする三波川変成帯で構成されている。

和田岩坪遺跡は、紀の川南岸の和歌山平野南東部の和田盆地縁辺部に位置し、和歌山市山東地区から西流する和田川により形成された低湿なラグーン性低地から小丘陵に挟まれた浅い開析谷に立地する。和田盆地はかつての構造運動によって生じた溺れ谷で、周囲の独立丘陵は、地盤の沈降が生じる以前の山頂部である。また、和田盆地は、繩文海進時には湾となっていたと推測され、紀の川本流の堆積作用は及ばず三角州下位面となり、長期間入江であったと推測される。

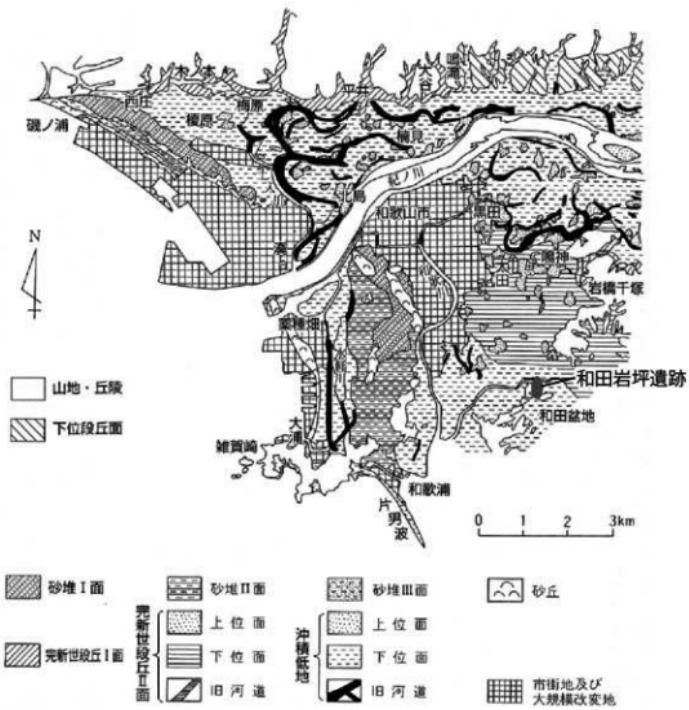


図1 和歌山平野と周辺の地形分類図(出典1を一部改変)

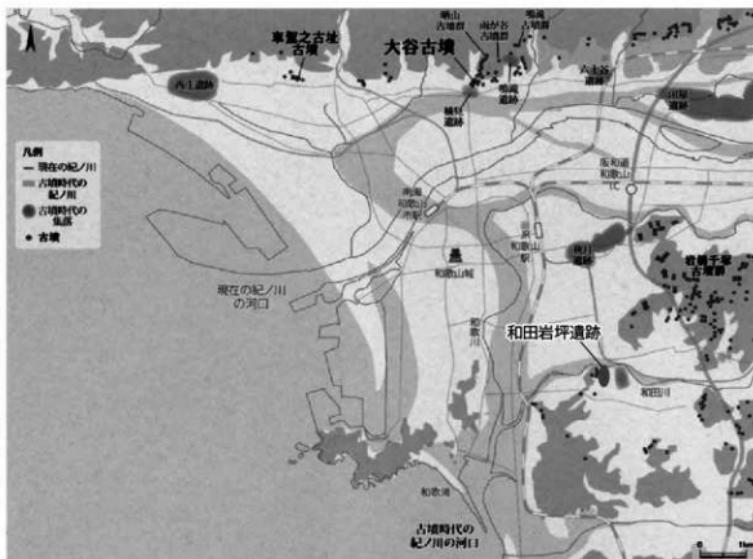


図2 古墳時代の和歌山平野と和田岩坪遺跡の位置（出典2を一部改変）

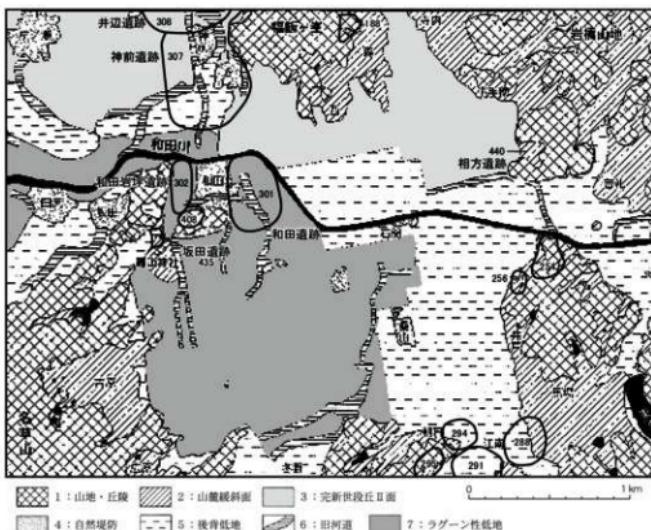


図3 和田岩坪遺跡と周辺の地形分類図(1:30,000)（出典3を一部改変）

今回の調査地は、周知の和田岩坪遺跡の範囲の北端に位置しており、調査地西側には、名草山（228.7 m）の支脈の丈六山（北端は「べつち山」「ベトチヤマ」（32.1 m）と称される）を背負い、南東側には雨露山（アマギリサン）（24.4 m）を望む。調査地の北側に隣接して古墳時代に起源をもつ宮井用水の支線坂田水路が西流する。また、周辺一帯は河南条里（和田条里区）が良好に残り、小字名にも当時の地割名や坪名が残る。調査地周辺の現況は、宅地化が進むが遺跡の南側には水田や畠地が一面に広がっている。

第2節 歴史的環境（図4、表2、写真4～9）

和田岩坪遺跡（302）が所在する紀の川南岸の和歌山平野南東域には、国の特別史跡である岩橋千塚古墳群（185）をはじめ、周辺の丘陵に多くの古墳群が所在する。また、丘陵麓部から平野部にかけては弥生時代以後の集落や古墳など多くの遺跡が展開している。以下、周辺の遺跡について概観する。

縄文時代 縄文時代には、低丘陵の裾部に貝塚が形成される。主な遺跡としては、禪宜貝塚、鳴神貝塚（317）、吉礼貝塚、岡崎繩文遺跡（309）などが挙げられる。岡崎繩文遺跡では、縄文時代後期～晚期の土器や石鎚・石匙・磨製石器・石錘などが出土し、ハマグリを主とした貝層とその下にカキのみの貝層が確認されている。また、鳴神貝塚は近畿地方で初めて確認された貝塚で、昭和6年に国の史跡に指定されており、縄文時代晚期の土壌墓からは抜歯された女性の伸展葬人骨が確認されている。

弥生時代 弥生時代には前期から中期にかけて紀の川南岸の沖積平野部で多くの遺跡が展開する。主な遺跡は、JR和歌山駅東側に所在する太田・黒田遺跡（327）をはじめ、秋月遺跡（331）、井辺遺跡（308）、神前遺跡（307）、和田遺跡（301）などがある。太田・黒田遺跡では、弥生時代前期から中期にかけての堅穴建物跡などが多数検出されている。また、県内最大級の弥生時代の集落跡と考えられている。遺物は、多量の弥生土器と共にシカや高床建物を線刻した絵画土器、また、遺跡東側の河川改修工事に伴い外縁付紐式1式四区袈裟襟文銅鐸も出土している。

和田岩坪遺跡の北東側に位置する神前遺跡（写真4・5）では、弥生時代前期から中期にかけての10条以上の平行する溝や土坑が検出されている。複数の平行する溝は、地形の起伏に沿って北北東側から南西方向に延び、水路の機能をもつものと考えられている。

一方、弥生時代中期後葉から後期前半にかけては、平野部での遺跡の展開が激減し、周辺部の丘陵部で滝ヶ峯遺跡や橋谷遺跡などの高地性集落が見られるようになる。弥生時代後期後半になると、再び平野部で集落が見られるようになり、太田・黒田遺跡と和田岩坪遺跡の間には、秋月遺跡、津秦遺跡（332）、津秦II遺跡（407）、井辺遺跡、神前遺跡などが存在する。また、東側には和田遺跡が存在する。多くの遺跡では、



写真4 神前遺跡と和田岩坪遺跡遠景（北北東から）



写真5 神前遺跡出土の弥生土器

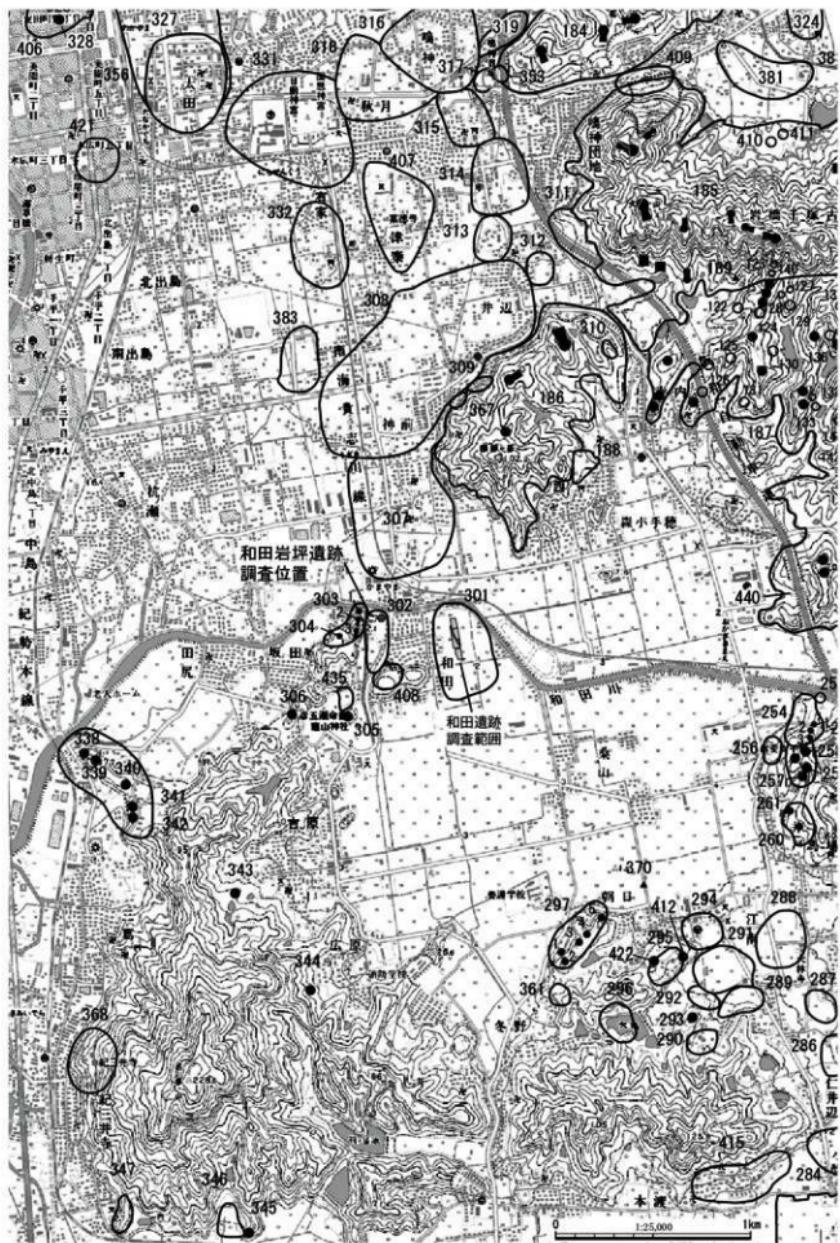


図4 和田岩坪遺跡と周辺の遺跡

表2 和田岩坪遺跡と周辺の遺跡地名一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	立地	摘要
184	花山古墳群	鳴神・岩垂・栗柄	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳9基、円墳89基からなる
185	岩垂子塚古墳群	鳴神・岩垂・栗柄	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳13基、方墳4基、円墳455基からなる
186	井渡前山古墳群	井渡・岡原・寺内	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳15基、円墳60基からなる
187	寺内古墳群	今内・桑小手・吉田	古墳群	古墳	山腹	円墳33基からなる
188	森小手地区跡	森小手他	散布地	古墳～中世	丘陵	須恵器、土師器、瓦等
189	寺内ナカイ石器出土	寺内	出土場	田石器	丘陵	横糸ナイフ形石器
252・253	千石山古墳群	井戸	古墳群	古墳	丘陵	円墳4基
254	鳥産谷造跡	井戸	散布地	弥生～古墳	丘陵	方形周溝墓、台状墓、土師器、須恵器
256	千石山造跡	井戸	散布地	弥生	丘陵斜面	赤土生土器
257～259	丹戸古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
260	馬場古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	2基
261	馬場遺跡	相坂	散在地	弥生	丘陵斜面	赤土生土器
284	仁井辺遺跡	小瀬田	散在地	古墳	平地	土師器、須恵器
286	柴脇寺遺跡	柴脇寺	散在地	弥生	台地	赤土生土器（壺、高杯）、石斧
287	松原Ⅰ遺跡	松原	散在地	古墳？	丘陵	土師器、須恵器
288	松原Ⅱ遺跡	松原	散在地	古墳？	丘陵	土師器、須恵器
289	東部谷造跡	江南	散布地	縄文～江戸	丘陵	縄文土器、石器
290	江南遺跡	江南	散布地			須恵器、土師器、瓦
291	曾垣田造跡	江南	散布地	古墳～鍾合	丘陵斜面	土師器（壺、甕、鉢）、須恵器、黒色土器、瓦器
292	曾垣田Ⅱ遺跡	江南	散布地	古墳？	丘陵斜面	土師器
293	曾垣田古墳	江南	古墳	古墳	丘陵斜面	箱式石棺群
294	城の前日造跡	胡日	散布地	古墳、中世？	丘陵斜面	須恵器、其器
295	城の前日遺跡	胡日	古墳、鹿野町	古墳	丘陵斜面	円墳9基、土師器、黒色土器、須恵器、ガラス玉
296	大池遺跡	胡日	散布地	中世？	丘陵	瓦器、土師器、埴輪、大池の西～南沿岸
297	赤津古墳群	胡日	古墳群	古墳	丘陵	5基からなる
298	吉祥貝塚	吉祥	貝塚	縄文	丘陵麓	貝殻（マグダリ）、ガキ、ハイ貝等）、織文土器、土製瓦器、石器（石底、石礫、石鋸、石斧）、獸骨
301	和田遺跡	和田	散布地	弥生～奈良	沖積地	砾立柱建物跡、瓦片、土器、土坑列、甕、弥生土器、土師器、須恵器、石器（石器、石瓶、石壺）、瓦片、土器、木製品
302	和田岩坪遺跡	和田	散布地	弥生～古墳	沖積地	赤土生土器、土罐、須恵器、土師器、瓦器、石器、木製品
303・304	和田古墳群	和田	古墳群	古墳	丘陵	4基
305	蓬山神社古墳	和田	古墳群	古墳	丘陵	円墳？
306	坂田地藏山古墳	坂田	古墳	古墳	丘陵	横穴式石室？、横穴式石室、直刀、須恵器
307	神前遺跡	神前	集落跡	弥生～奈良	沖積地	横穴建物跡、掘立柱建物、土坑、甕、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、瓦、石器（石鏡、石磨、石斧）、結束車
308	井辺遺跡	井辺	集落跡	弥生～古墳	沖積地	横穴建物跡、土坑、前後方形周溝墓、方形周溝墓、自然洗路、弥生土器、土師器、須恵器、各種木製品
309	阿崎神文遺跡	井辺	散布地	縄文	丘陵斜面	縄文土器、石器多数
310	森小手便道輪室跡	森小手	空跡	古墳	山麓	埴輪（円筒、形像）
311	大日山I遺跡	井辺	集落跡	古墳～奈良	丘陵麓	横穴建物跡、掘立柱建物、土師器（壺、小型壺、甕、高杯、环、瓶）、須恵器（环、高杯）、鳥形埴輪、滑石製勾玉、有孔円板
312	井辺I遺跡	井辺	散在地	弥生～古墳	平地	弥生土器、土器
313	井辺II遺跡	井辺	散在地	弥生～平安	平地	弥生土器、土器、須恵器、須恵器
314	鳴神II遺跡	鳴神	用水路跡	弥生～平安	平地	弥生土器、土器、須恵器、須恵器、木製品
315	鳴神III遺跡	鳴神	散在地	弥生	平地	土師器、須恵器
316	鳴神IV遺跡	鳴神	散在地	弥生～江戸	平地	土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、土罐、瓦、製陶土器
317	鳴神日保	鳴神	日保、墓	縄文～弥生	丘陵麓	縄文土器、骨製品、人骨、弥生土器
318	鳴神V遺跡	鳴神	集落跡	弥生～平安	平地	横穴建物跡、掘立柱建物、方形周溝墓、土坑状遺構、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、瓦器、罐、滑石製模造品（勾玉、白玉）
319	音浦遺跡	鳴神	集落跡	古墳	平地	横穴建物跡、掘立柱建物、甕、土師器（壺、小型壺、甕、高杯、环、瓶）、有孔円板、須恵器（壺、高杯、环、瓶）、石製劫撃棒
324	高幡神社遺跡	岩瀬	散布地		平地	十手器
327	太田・黒田遺跡	太田・黒田	集落跡	弥生～江戸	沖積地	横穴建物跡、土器縫合、甕、弥生土器（壺、甕、高杯、环、瓶）、石器（石器、石瓶、石磨）、滑石製勾玉、瓦器、石器
328	吉田空跡	吉田	空跡	奈良	冲積地	前方後円形周溝墓、方形周溝墓、土器縫合、土坑、甕、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、石器（石磨、石瓶）、滑石製勾玉、瓦器、陶磁器、瓦、滑石製勾玉・白玉、ガラス小玉
331	秋月遺跡	秋月	集落跡	弥生～江戸	沖積地	横穴建物跡、土器縫合、甕、弥生土器（壺、甕、高杯、环、瓶）、石器（石器、石瓶、石磨）、滑石製勾玉、瓦器、石器
332	津妻遺跡	津妻	散在地	弥生	沖積地	赤土生土器、サスカイト
338	アンドの最古墳	三義	古墳	古墳	丘陵	組合式石棺、土師器（壺）
339～342	三田古墳群	三義	古墳群	古墳	丘陵	4基
343	吉原古墳	吉原	古墳	古墳	丘陵	前方後円墳？
344	吉原古墳	吉原	古墳	古墳	丘陵	円墳、横穴式石室
345	内原古墳	内原	古墳	古墳	丘陵	土師器
346	内原遺跡	内原	散在地	古墳	丘陵	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、石縫合
347	名草貝塚	紀三井寺	貝塚	弥生～	丘陵	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、石縫合（ハマグリ、バイ貝、アサリ、オキシラミ等）
353	興徳寺跡	鳴神	寺院跡	中世	花山丘陵の東西斜面	瓦、宝珠印塔、五輪塔
356	太田城跡	太田	城跡	安土桃山	冲積地	土器、甕、土師器、陶磁器、铁炮櫓
361	冬野遺跡	冬野	散在地	中世	丘陵	土師器（朴、皿）、土師質土器（カマド、土釜）
367	井辺III遺跡	井辺	散在地	縄文	丘陵	土師器
368	紀三井寺遺跡	紀三井寺	寺院跡	中世	丘陵斜面	土師器
370	朝日石植山土器	朝日	出土場	弥生～	平地	土器
381	岩垂II遺跡	岩垂	散布地	古墳～室町	平地	サスカイト、土師器、須恵器、瓦器
383	神前II遺跡	神前	散布地	古墳～室町	冲積地	土師器、須恵器、土罐、瓦器、陶磁器
406	友田町遺跡	友田町	集落跡？	弥生～平安	冲積地	甕、豆甕、土器、土師器、黒色土器
407	津妻II遺跡	津妻	散布地	古墳～奈良	冲積地	土師器、須恵器
408	和田II遺跡	和田	集落跡？	弥生～	丘陵	建社遺跡、弥生土器
409	岩垂III遺跡	岩垂	散布地	平安、江戸	丘陵斜面	土器、小穴甕、土師器、黑色土器
412	井辺I前1号遺跡	井辺	古墳	井辺	内周、周溝式直槽、横穴式石室、須恵器、土師器、黑色土器、土釜	
415	本渡遺跡	本渡	散布地	古墳～平安	丘陵	須恵器（朴、皿）、土器
421	木広町遺跡	木広町	散在地	弥生	冲積地	弥生土器（穿孔乳突）
422	朝日絹絲出土地	朝日	墳墓	奈良	山腹	朝日邑名（滑石器）、須恵器（外存器）
435	坂田遺跡	坂田	集落跡	弥生～室町	冲積地	砾立柱建物、土器、井戸、甕、漆、赤土生土器、須恵器、土師器、黑色土器、瓦器、陶磁器、穿孔柱形石製品、勾玉、有孔円板

道路内での調査歴観有り

和歌山県教育委員会「和歌山県埋蔵文化財包蔵地名表」2007年3月31日
発行を一部改訂・補正

弥生時代後期後半から終末期にかけて再び遺構・遺物が認められ、古墳時代前期に継続して集落が展開する。

井辺遺跡では、遺跡範囲の北東側で弥生時代後期後半から古墳時代前期を主体とした竪穴建物跡・周溝墓が多数検出され、居住域の南東端（丘陵裾）を這う位置に自然流路が存在する。また、複数の居住域の間を縫うように西側中央位置で大量の土器・木器・木製品が埋没した自然流路が検出されている。

古墳時代 古墳時代には、岩橋千塚古墳群（185）を始め、多くの古墳群が形成される。また、古墳時代の集落遺跡として音浦遺跡（319）、鳴神Ⅱ遺跡（314）、鳴神V遺跡（318）、大日山I遺跡（311）、秋月遺跡、井辺遺跡、神前遺跡、和田遺跡（写真6）があり、和田岩坪遺跡の南側には坂田遺跡（435・写真7）が展開する。

岩橋千塚古墳群は、岩橋山塊に築かれた古墳群で各支群を含めて総数は数百基に及ぶものとされている。古墳の構造は、4世紀後半から7世紀前半まで継続し、6世紀の主要な石室の構造は岩橋型石室とよばれる横穴式石室に石棚や石梁をもつものが見られる。和田岩坪遺跡の今回の調査地から北東側に約1.5kmには、岩橋千塚古墳群の一支群と位置付けられる井辺前山古墳群（186）が形成される。鳴神V遺跡では、竪穴建物跡や掘立柱建物跡の他、大規模な溝が検出されている。また、音浦遺跡においても大規模な溝が検出され、和歌山平野を灌漑する現在の宮井用水路に平行するように掘削されていることから宮井用水路の起源と考えられている。秋月遺跡では、遺跡の東半側で居住域がみられ、西半側で墓域が確認され、県内最古の前方後円墳形低墳丘墓が検出されている。和田岩坪遺跡の今回の調査地から南側約500mには龜山神社が鎮座し、和歌山県唯一の陵墓される「彦五瀬命墓」龜山神社古墳（305）が所在する。この龜山神社に隣接する北側には坂田遺跡（写真7）が所在し、古墳の存在を示唆する琴柱形石製品（写真8）が出土している。平成25年度の和歌山市文化スポーツ振興財団の調査で、その存在を裏付けるように古墳時代中期後半の古墳周溝が見つかっている。

また、和田岩坪遺跡の調査地の西側に隣接する名草山の支脈の大六山（北端は「べつち山」「ベトチヤマ」と称される）には、和田古墳群（303・304）が、南西側に約600m離れて坂田地蔵山古墳（306）が、南西側に約1.5km離れてアンドの鼻古墳（338）・三田古墳群（339～342）が形成されている。



写真6 和田遺跡と和田岩坪遺跡遠景（東から）



写真7 坂田遺跡と龜山神社（北から）



写真8 坂田遺跡出土の琴柱形石製品

古代 古代の遺跡としては、鳴神V遺跡、太田・黒田遺跡、薬勝寺廃寺が見られ、日前宮・国懸宮、龜山神社が創建される。鳴神V遺跡では、奈良時代から平安時代の官衙の存在を窺わせる円面硯や初期貿易陶磁器、綠釉陶器などが出土している。また、太田・黒田遺跡では奈良時代の井戸が検出され和銅開承42枚、万年通寶4枚が出土している。日前宮は紀伊国一宮として『延喜式神名帳』にその名が見られ、日前宮より南側一帯には、河南条里と呼ばれる条里型地割が良好に残り、地割方位はN-5° ~ 6.5° -Wである。

中世 中世以降にも、太田・黒田遺跡、秋月遺跡、鳴神V遺跡などで遺構や遺物が見られる。神前遺跡では、掘立柱建物跡が検出されている。また、幅約7m以上の大溝（写真9矢印）が検出されており、現在の宮井用水路に重複するように掘削されていることから、宮井用水路が整備された当時のものと考えられている。秋月遺跡では、瓦積みの井戸が検出されている。太田・黒田遺跡の南側には、太田城の推定地（356）があり、幅10m、深さ3mを測る16世紀の壕状の遺構が検出されている。また、天正13年（1585年）の羽柴秀吉による太田城の水攻め時の堤と考えられるものがわずかに残っている。



写真9 神前遺跡 2011-7・8区（北東から）

近世 近世には、和田周辺は和田村と呼ばれるようになり、宮組に所属する。

神前遺跡では、屋敷地跡と考えられる区画溝や土坑・暗渠排水溝が検出されている。太田・黒田遺跡では、太田城の名残とされる石垣や、耕作地として利用されていたと考えられる鋤溝群が見られる。和田遺跡の西側には静火神社跡があり、初見は『延喜式神名帳』に見える。その後、文献史料に永仁年間に廃絶したとされているが、長享元年（1487年）に静火神社の名が見られる。また、『南紀徳川史』に静火社旧地とみえ、享保8年（1723年）までに廃絶したと推測される。

第3節 既往の調査と文献史料

和田岩坪遺跡は、昭和31年の名草川改修に伴う発見に端を発し、さらに今回の調査対象地の北西側隣接地において、昭和56年（1981年）に駐車場用地造成工事に伴い和歌山市教育委員会が小規模な調査を行い、土器刷り、土坑、礫敷き遺構などが検出されている。

その他、文献史料では、林家所蔵文書の大治2年（1127年）「紀伊国在庁官人等解案」に日前宮領であった和田川の塩入常荒田を開発するため、40町余の塩除堤を築造した記録が見られる。このように、和田川周辺域は、平安時代後期に大規模な整備が行われ、水田耕作地として利用されたと推測される。また、宮井用水路は長承元年（1132年）の文書『古名草堰』で「綾井」・「国衙堰」といわれ、初見は、鎌倉期の元享元年（1311年）の『歓喜寺文書』に見られる。

【図・写真出典】

- 1 2003 額田雅裕「和歌山平野における戦国時代ころの地形環境」『和歌山地方史研究』46 和歌山地方史研究会
- 2 2013 「古墳時代の和歌山平野と大谷古墳の位置」『国指定史跡 大谷古墳』和歌山市の文化財 2 和歌山市教育委員会
- 3 2013 額田雅裕「和歌山平野南部の地形と土地開発」『和歌山市立博物館 研究紀要 28』和歌山市教育委員会

第3章 発掘調査の方法と資料整理

調査は、財団法人和歌山県文化財センターの定めた『発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006年4月）に準拠して作業を進めた。発掘調査で使用した調査コードは、18-01・302（2018年度-和歌山市・和田岩坪遺跡）である。出土遺物・記録資料は、全てこの調査コードを用い整理・管理している。

第1節 調査現場の記録作業等

和田岩坪遺跡の調査に伴い、下記に示す記録作業等を行った。

1 遺構番号及び出土遺物登録番号

遺構番号は、遺構の種類にかかわらず西側地区の1-1区・1-2区で1番～4番までを、東側地区の2-1区・2-2区で11番～92番までを、2-3区で101番～148番までを使用した。遺構番号の後ろには必要に応じて遺構の性格を表す名称を付した。

出土遺物については、大区画一中区画一小区画を取り上げの基本区画とし、各遺構・各層位別に取り上げた。なお、1-1区・1-2区で出土遺物登録番号1～344番までを、東側地区の2-1区・2-2区で出土遺物登録番号401～493番までを、2-3区で出土遺物登録番号501～555番までを使用した。

2 写真撮影作業

記録は、写真撮影と実測図面作成を行った。写真撮影については、記録用のニコン35mmフルサイズデジタルカメラ及びペンタックス中判デジタルカメラ、メモ記録用のニコン35mmサイズデジタルカメラを使用し、デジタル写真画像（JPEGデータ及びRAWデータ）には全てファイル毎に内容を記載して保存している。

3 実測図作成作業（写真10）

記録図面は、縮尺=1:20もしくは1:10の遺構実測図（遺構平面図・遺物出土状況図・断面土層図・立面図）及び縮尺=1:100の遺構位置全体図を作成した。また、調査地区的遺存状態の良好な壁面に対して断面土層図（縮尺=1:20）などを調査記録として作成した。

4 航空写真撮影・基準点測量

調査地の遺構図面作成や遺物の取上げなどのため、国土座標平面直角座標系（世界測地系）第VI系により既設の公共基準点を利用して3級基準点・補助点を設置し、各地区内に4級基準点を設置した。併せて、3級基準点にも水準測量を行っている。

発掘調査により検出した遺構は、ラジコンヘリコプターを使用した調査地全体の航空写真撮影及び航空写真測量による図化（縮尺=1:50及び1:100縮図）を行った。また、デジタル画像によるモザイク写真的作成を行った。基準点の設置と撮影及び図化作業を併せて、「和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡発掘調査業務に係る航空写真測量・基準点測量委託業務」として有限会社ヤマニシに再委託して実施した。



写真10 1区 1自然流路遺物等出土状況図作成状況

第2節 出土遺物等資料の整理

1 出土遺物応急整理

出土遺物については、当文化財センター事務局整理棟において出土遺物の一部について応急的な洗浄作業を実施した。これは、調査の進捗に伴い、現地調査方法の判断資料として時期決定を行い、調査を円滑に進めていく必要があるため、また、現地公開等において公開する目的をもって行った。

また、出土遺物の総体的な把握と調査報告書作成までのコンテナ収納・管理を目的とした出土遺物登録台帳の作成作業を行い、全てを完了した。しかし、この段階では、出土遺物の詳細な内容登録までは行っていない。

2 出土遺物等整理業務（写真11～13）

調査で出土した遺物は、応急的な整理作業のみであったため、調査報告書作成に伴い一連の整理作業を行うと共に、現地調査の遺構図面・遺構写真などの調査記録資料の整理を行い、資料登録台帳などを作成した。出土遺物等整理業務は、和歌山県教育委員会の指導のもと、当文化財センターが「平成31年度 和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡出土遺物等整理業務」としてこれを受託し、実施することとなった。

出土遺物の基礎的な整理作業

出土遺物の内、土器類、石器・石製品、種実は、通常の遺物収納コンテナ（容量28ℓ）にして78箱である。その他、木器・木製品40点及び木質遺物である。出土遺物の整理は、調査同様に『財團法人和歌山県文化財センター 発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006年4月）に準拠して行った。

出土遺物は、応急整理済みの作業を省いて、遺物の洗浄作業（写真11）、遺物の種類毎の分別作業、遺物への調査コードと出土遺物登録番号の注記作業（写真12）、遺物の詳細な内容及び破片点数の台帳登録・集計（各層序別遺物数量）、遺物の接合作業を行った。



写真11 遺物の洗浄作業



写真12 遺物への注記作業

主要遺物を対象とした整理作業

基礎的な作業を経た主要遺物を対象に、遺物充填材による補強・復元作業、遺物実測図の作成・実測遺物の台帳登録（本書に掲載の「出土遺物一覧」として利用）、遺物実測図のトレイス・トレイス図のレイアウト・遺物実測図の整理、集計登録データ等各種データのPC入力作業を行った。

遺構図面の整理

現地調査の遺構図面の整理は、遺構位置全体図・地区・図面の種類毎にまとめて台帳登録を行った。

調査報告書に掲載する遺構図面については、作図・レイアウト・組版作業を行い、調査報告書に掲載する図面原稿のデジタルトレース作業を行った。

遺構写真の整理

調査現場の記録写真には、記録用の35mmフルサイズデジタルカメラ及び中判デジタルカメラ、メモ記録用の35mmサイズデジタルカメラを使用し、デジタル画像データには全てファイル毎に内容を記載して保存している。デジタル写真画像（JPEGデータ及びRAWデータ）は、調査時に日付毎、もしくは地区毎にフォルダに纏めている。

一部のデジタル写真画像については、調査報告書に使用する目的で、掲載用の写真画像を抽出し、検出遺構の写真図版のレイアウト・組版作成を行った。

出土遺物の内容登録に伴う各層別遺物数量

今回の遺物整理の中で最も主体を占める遺物群は、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての土器である。ここでは、弥生時代後期に続く段階を弥生時代終末期と捉えた。弥生時代終末期は、凡そ庄内式土器に併行する段階と把握し、庄内式併行期と理解して作業を進めた。庄内式併行期は、大きく二分して庄内式併行期古段階・新段階とした。依って、弥生時代終末期の土器を弥生土器と理解した。

それに続く段階を布留式土器に代表される段階と把握し、布留式併行期とした。布留式併行期は、大きく三分して布留式併行期古段階・中段階・新段階とした。布留式併行期新段階は、初期須恵器の共伴する段階と考えた。依って、古墳時代の始まりの土器を布留式併行期の土器とし、土師器と理解した。

出土遺物の内容登録に伴う遺物破片点数の数量化は、大凡の時代と主要となる土器類・その他の遺物に分けて作業を進めた。時代・時期区分については、大きく弥生時代前期・中期、弥生時代後期・終末期、古墳時代、飛鳥・奈良・平安時代、平安時代末～室町時代、江戸時代に区分した。

出土遺物等整理業務に伴う保存処理業務委託

出土遺物等整理業務に伴い、木製品20点の保存処理を行った。保存処理は、「和歌山平野農地防災事業　名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡出土遺物等整理業務に係る保存処理業務委託」として、株式会社イビソクに再委託して実施した。木製品の保存処理は、PEG含浸及び真空凍結乾燥処理法による。

出土遺物等整理業務に伴う木質遺物の樹種同定（写真13）

1区1自然流路から木器・木製品を始め、まとまった量の木質遺物が出土した。出土遺物等整理業務に伴い、能城修一・村上由美子・佐々木由香・前田仁暉氏らのグループに依頼して樹種同定のための切片採取・プレパラート作成作業244点を行い、樹種の同定を行った。同定結果は、付章第1節において報告する。

出土遺物等整理業務に伴う種実の同定

1区1自然流路からは、多量の土器類、木質遺物と共にまとまった量の種実が出土した。出土遺物等整理業務に伴い、一般社団法人文化財科学研究所センターの金原美奈子氏に依頼して同定を行った。同定結果は、付章第2節において報告する。



写真13　樹種同定のための切片採取作業

第3節 調査区の設定

1 地区割 (図5～7)

遺構実測図作成や遺物取り上げの際に用いた地区割の基準線は、国土座標平面直角座標系（世界測地系）第VI系の座標軸を使用し、和田岩坪遺跡を網羅する区切りのいわゆ北東隅の数値を地区割の基点（X = -197,000 m, Y = -72,000 m）とした。なお、この基点の座標は、同一地域での煩雑化を避けるため平成22～25年度に当文化財センターが発掘調査を実施した井辺遺跡、和田遺跡に準拠した。

この基点から、西方向および南方向に各々1km毎に区切った区画を1単位とした大区画（図5）を設定し、基点から西方向にローマ数字のI・IIで、

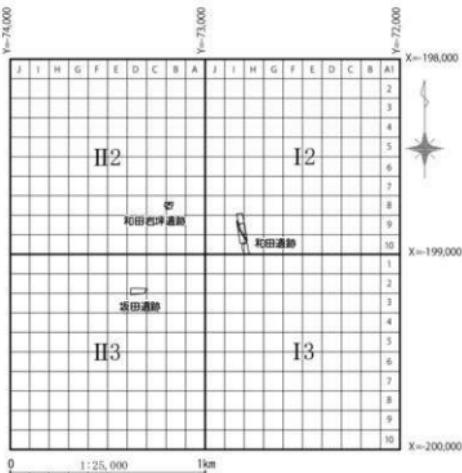


図5 区画割模式図(1km区画)

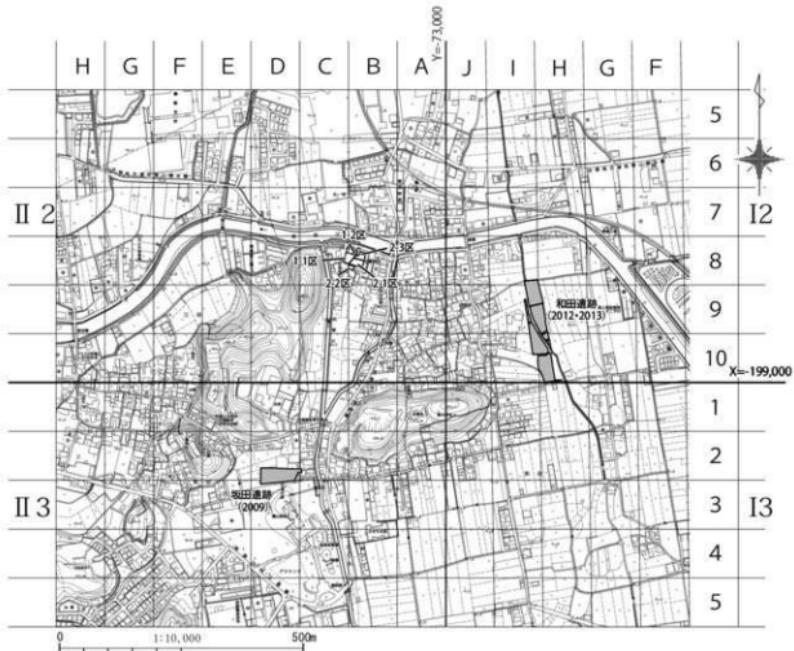


図6 調査位置と区画割(100m区画)

南方向にはアラビア数字の1・2で表記した。これにより、今回の和田岩坪遺跡は大区画II 2区に位置することとなる。

この基点から、それぞれ100m四方の区画を1単位とした中区画を設定(図6)し、北東端を基点とし西方向へアルファベット大文字でA～Jと、南方向へアラビア数字で1～10と表記した。さらに4m四方の区画を1単位とした小区画(図7)を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット小文字でa～yと、南方向へアラビア数字で1～25と表記した。遺構図面作成や遺物取り上げの際には原則として、4m四方の小区画で行い、大区画-中区画-小区画を組み合わせて表記し用いた(例: 2-1区の12土坑は、II 2 B 8 s 16に位置する)。但し、今回の調査範囲は、全て大区画II 2区に入るため、本文の記述における大区画の表記は省略した。

調査区は、西側地区を1-1区・1-2区、東側地区を2-1区・2-2区・2-3区に区分した。

方位は座標北を使用し、標高は東京湾平均海面(T.P.)+を基準とした値を使用した。

2 調査方法(図7)

調査地は、当初、西側地区(和田1154-1番地)を1-1区・1-2区、東側地区(和田1155-1・1156・1157-1番地)を2-1区・2-2区として進めたが、掘削排土の搬出量が多くなり過ぎることにより調査後に陥没状態が深くなり過ぎ、本工事着手までの安全面で多大な影響が懸念された。そのため、近畿農政局和歌山平野農地防災事業所と協議の上、残りの調査地と残地で掘削排土置き場を確保するため当初の2-1区を2-1区と2-3区に分割して調査を進めた。

調査は、西側地区の1-1区・1-2区から開始し、次いで2-2区、2-1区、2-3区の順で行った。

1-1区・1-2区では、結果的に調査範囲の大半が弥生時代終末期～古墳時代後期に埋積の進んだ自然流路に重複した状態であったが、遺物の殆ど認められない鎌倉時代もしくはこれに近似する時期と考えられる第3

層系堆積層までを機械掘削排土とし、以下を人力掘削として作業を進めた。

調査面積は、各々調査区の下端で、1-1区が294.1m²、1-2区が22.6m²、2-1区が339.4m²、2-2区が54.5m²、2-3区が210.4m²、合計921.0m²である。

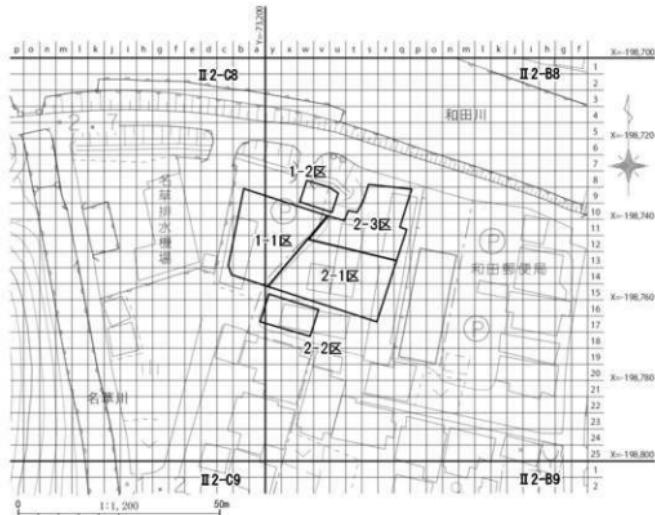


図7 調査範囲と地区割(4m区画)

第4章 調査成果

調査成果の各遺構の記述は、生活遺構を主体とする2区（2-1区・2-3区・2-2区）から進めるこ^トにする。

第1節 2区の調査成果

1 2区の調査概要（図10～29、写真図版2～7・21）

調査区東側の2-1区・2-2区では、当初、調査区西側の1-1区・1-2区の1自然流路の埋積遺物の主体となる同時期の弥生時代終末期・古墳時代前～後期の遺構・遺物の存在を予測していたが、調査の結果、予測に反して、該当する時期の明確な遺構・遺物は極めて少なく、弥生時代前期の土坑、鎌倉時代の土坑・水溜、最大幅6.10mの区画溝、柱穴・小穴等を検出した。

2-3区でも、2-1区と同様に弥生時代終末期・古墳時代前～後期の明確な遺構は極めて少なく、弥生時代前期の土坑・溝、鎌倉時代の土坑・2-1区の13区画溝の延長に当たる幅約2.20～5.40mの区画溝等を検出した。但し、区画溝は東側に折れ曲がるのではなく、西側に折れ曲がることが判明した。また、遺物量は少ないと、弥生時代の土坑の内、形状から土壤墓の可能性を考えられるものもある。

2 基本層序と遺構面（図8）

調査対象地は、調査前まで使用されていた駐車場用地として造成盛土され、昭和50～56年に駐車場用地になるまでは、水田耕作地であった。調査に伴いコンクリート路盤・アスファルト舗装版撤去後の現状での地盤高は、西側地区の1-1区・1-2区でT.P.=2.50m前後、東側地区の2-1区・2-2区・2-3区でT.P.=3.20m前後を測る。

駐車場用地としての造成盛土を第0層とし、第1層は造成以前の昭和時代の水田耕作土、第2層は水田耕作土に伴う床土、第2層系堆積層は第2層に近似する時期の堆積層となる。但し、図8で示した断面図の地点のように、第2層の存在しない範囲が広がる。水田耕作土の天端高は、西側地区でT.P.=0.90～1.00m前後、東側地区でT.P.=1.00m前後となり、東側から西側に向かって僅かに低くなる傾向にある。以上が地区全体に共通して認められる層序である。

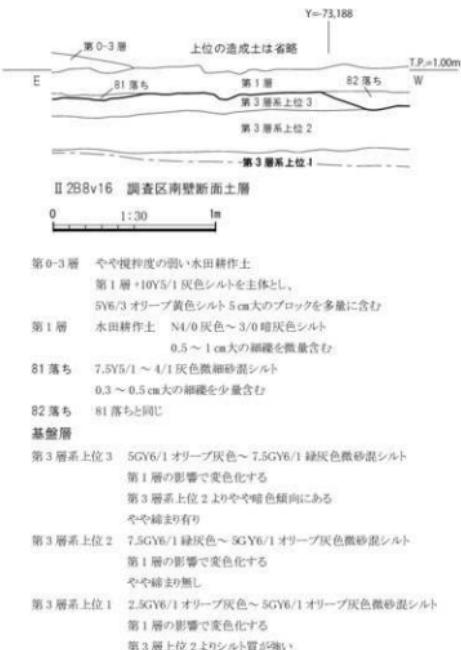


図8 2-1区の基本層序（調査区南壁断面土層）

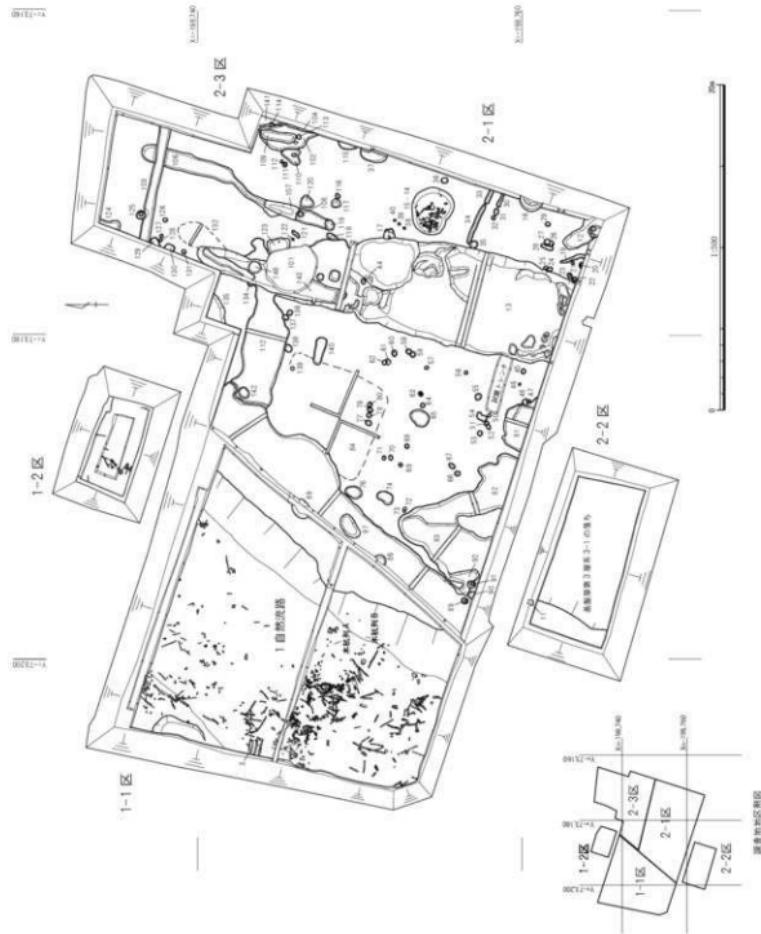


図9 調査遺構全体図

3 各遺構の調査成果

(1) 弥生時代前期の検出遺構

12 土坑 (図 10・27、写真図版 4・21)

12 土坑は、2-1区 B8s16 の南東隅に位置し、南東側は調査区外に延びるため全容は不明である。平面形は、北西-南東に延びるやや歪な隅丸長方形状を呈する。検出できた範囲での平面規模は、短軸（北東-南西）1.04 m・調査区南壁では1.50 m、長軸（北西-南東）3.0 m以上、残存の深さは南東側の最深部で0.54 mを測る。断面形は、北東-南西方向で整ったU字形を呈する。基底部は、北西半側がほぼ平坦であるのに対し、南東半側は浅い凹凸が著しい。

堆積層は、最下層の6層を省いて人為的な埋積が認められる。大半が1層・4層に認められる基盤層の大ブロックを中量から多量に含む埋積となる。

遺物は、12 土坑として取り上げたものと調査区壁面側溝で12 土坑に該当する範囲を掘削したものを含んでいる。遺物は12 土坑の中層から下層にかけてやまとまりのある弥生時代前期紀伊 I-3 様式の壺 86 点・広口壺口縁部（2・3）・壺頸部（4）・壺底部（9）、甕 6 点：紀伊形甕底部（11）・甕口縁部（30）等合計 92 点が出土した。その他、側溝掘削範囲から弥生時代前期の土器と共に鎌倉時代の土器師皿 3 点・瓦器椀 1 点、12 土坑一括として掘削した中に瓦器椀 1 点・近代の白磁碗 1 点が出土した。鎌倉時代の遺物は、この範囲には第 2 層が存在しないことから重



図 10 2-1 区 12 土坑実測図

複雑構の見逃しに伴うもの、近代の白磁は調査区壁面からの崩落の可能性が高いものである。これらのことから、12 土坑は弥生時代前期に帰属するものと考えられる。

109 土坑 (図 11・27、写真図版 5・21)

109 土坑は、2-3 区 B8q・r12 の北半側に位置する。109 土坑は、102 土坑と重複関係にあり、102 土坑が後出する。平面形は、南北に主軸をもつやや歪な細長い隅丸長方形状となる。平面規模は、短軸（東西）0.52～0.64 m、長軸（南北）2.20 m、残存の深さは 0.07 m を測る。断面形は、東西方向で浅い皿形を呈する。基底部は、緩やかな凹み状となる。

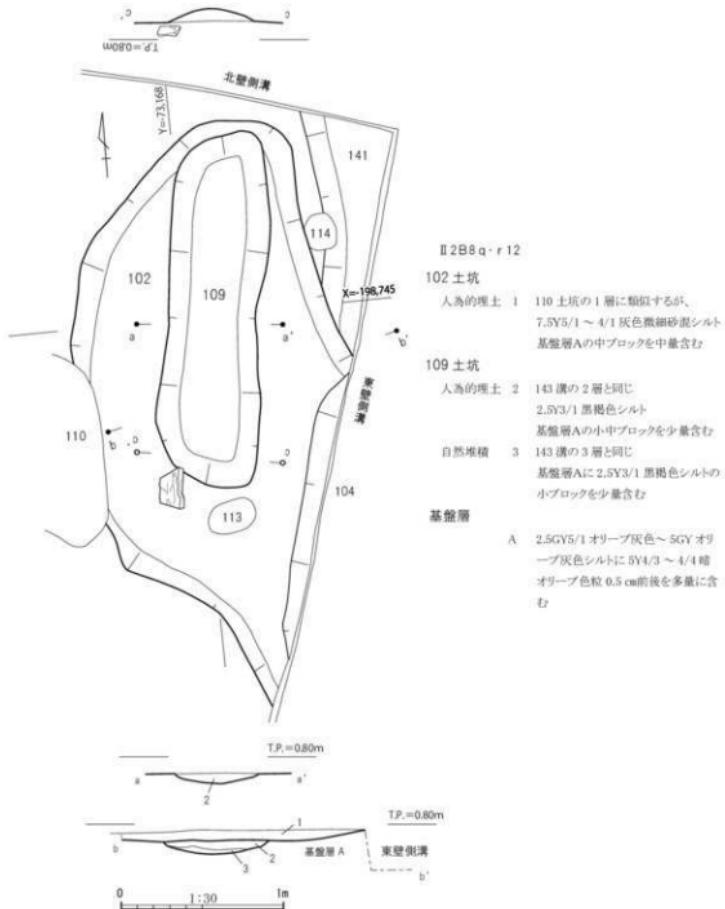


図 11 2-3 区 102・109 土坑実測図

堆積層は、2層に分けられるが、基盤層のブロック土を含む人為的な埋積が認められる。

109 土坑は、その隅丸長方形状の形状から土壤墓の可能性が考えられる。

109 土坑の南端に接して、幅 15 cm・長さ 26 cm・厚さ 4 cm の結晶片岩の板石を検出した。102 土坑の基底部に接することから、後述する 102 土坑と関係するものか、109 土坑と関係するものか明確にできていない。109 土坑に関係したものであった場合、標石の可能性が考えられる。

遺物は、僅かであるが弥生時代前期紀伊 I-3 様式の壺 19 点：広口壺口縁部（1）・壺肩部（7）・壺底部（10）、甕 1 点、器種不明 1 点等合計 21 点が出土した。これらのことから、109 土坑は弥生時代前期に帰属するものと考えられる。

102 土坑（図 11、写真図版 5）

102 土坑は、2-3 区 B8q・r12 の北半側に位置し、南南東側は調査区外に延びるため全容は不明である。102 土坑は、104・109・110・141 土坑と重複関係にあり、110 土坑より古く、104・109・141 土坑より後出する。平面形は、北北西-南南東に延びる歪な形状である。平面規模は、短軸（東西）1.70 m、長軸（南北）3.60 m 以上、残存の深さは 0.07 ~ 0.09 m を測る。断面形は、東西で浅い皿形を呈する。基底部は、ほぼ平坦である。

遺物は、僅かであるが弥生時代前期の壺・甕 11 点、古墳時代前期の布留式併行期と考えられる壺 2 点・器種不明 4 点、上層から鎌倉時代の土器師皿 1 点、瓦器椀 1 点、最上層から古墳時代中期の土器師甕 1 点等合計 20 点が出土した。

102 土坑は、時期の決定要

素に乏しいが、重複関係にある 110 土坑からも古墳時代前期の布留式併行期と考えられる壺 2 点、紀伊形布留式甕 2 点等合計 4 点が出土した。

なお、102 土坑と重複関係にある 104 土坑からは弥生時代前期の壺 2 点、141 土坑からは弥生時代前期の壺 1 点が出土した。調査区東壁断面土層の堆積層の埋積の状況からも 12 土坑と同様に人為的な埋積と考えられる。

107 土坑（図 12、写真図版 6）

107 土坑は、2-3 区 B8s12 の北東隅に位置し、南北に細長い。107 土坑は、106 溝と重複関係にあり、106 溝が後出する。平面形は、北北東-

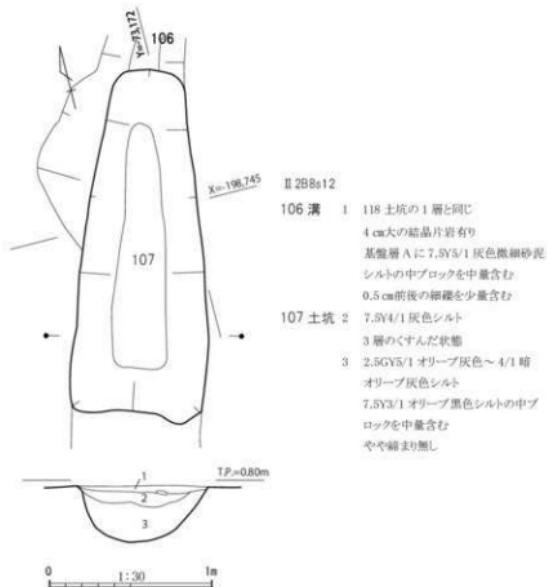


図 12 2-3 区 107 土坑実測図

南南西に主軸をもつ歪な長手の形状である。平面規模は、短軸（東西）0.48～0.82m、長軸（南北）2.15m、残存の深さは0.30mを測る。基底部は、U字形を呈する。

堆積層は、2層に分けられるが、下層に基盤層のブロック土を含む人為的な埋積が認められる。遺物は、出土していない。

重複関係にある106溝からは、弥生時代前期の甕2点、古墳時代前期の布留式併行期と考えられる土師器4点、鎌倉時代の東播系須恵器（瓦質）甕（40）、室町時代の備前播鉢（41）等合計7点が出土した。これらのことから、107土坑から遺物は出土していないが、堆積土の埋積の特徴から弥生時代前期に帰属するものと考えられる。

147土坑（図13、写真図版7）

147土坑は、2-3区B8s12の北半側に位置し、西側は101擾乱により削平されるため全容は不明である。147土坑は、123土坑と重複関係があり、123土坑が後出する。平面形は、東西に主軸をもつ不整形な形状となる。平面規模は、短軸（南北）0.62m、長軸（東西）0.80m以上、残存の深さは0.12mを測る。断面形は、北東-南西方向で浅い皿形を呈する。基底部は、緩やかな回み状である。

堆積層は、単層で基盤層のブロック土を含む人為的な埋積が認められる。基底部に接して6×10cm大の結晶片岩が入り込んでいた。

遺物は、出土していないが、堆積土の埋積の特徴から弥生時代前期に帰属するものと考えられる。

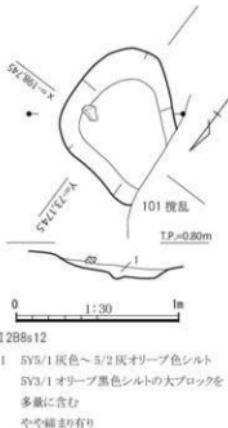


図13 2-3区 147土坑実測図

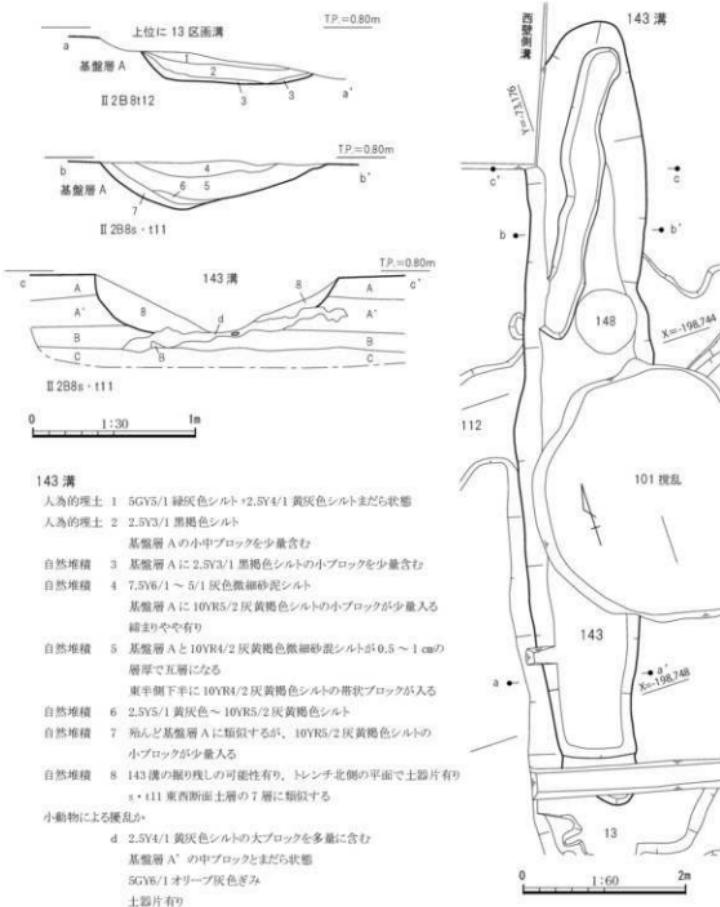
その他、類似する堆積層の埋積の認められる遺構には、2-1区・2-3区東端B8r13に位置する37土坑・115土坑がある。何れも遺物は出土していないが、埋積の特徴から弥生時代前期に帰属する遺構と考えられる。

143溝（図14・27、写真図版6・21）

143溝は、2-3区B8s11～t13に位置し、北北東-南南西方向に延びる。143溝は、105・144・148土坑、13・112区画溝と重複関係にあり、何れよりも先行する。143溝は、西北西-東南東幅1.06m～1.45m、残存の深さは他遺構との重複の無い北側範囲で0.36mを測り、延長9.6m分を検出した。法面の掘り込み（断面形）は、緩やかな形状を呈する。基底部の南北での高低差は、特に認められない。

堆積層は、南端の断面土層a-a'の範囲の一部に人為的な埋積が認められるが、断面土層a-a'3層・断面土層b-b'7層の最下層は143溝の西側からの流入が、中層から上層は両側からの均一的な流入の認められる自然埋積と考えられる。

遺物は、143溝一括として掘削した中に弥生時代前期紀伊I-2・3様式の壺（5・6）19点、甕11点：紀伊形甕10点、甕（8）1点、壺もしくは甕の細片14点、古墳時代前期の布留式併行期と考えられる土師器3点（内、壺1点）、瓦器碗2点等合計49点が出土した。古墳時代及び鎌倉時代の遺物は、重複遺構の144・148土坑の掘り残しと考えられる。これらのことから、143溝は弥生時代前期に帰属するものと考えられる。



143 溝

- 人為的埋土 1 5GY6/1 緑灰色シルト+2.5Y4/1 黄灰色シルトまだら状態
- 人為的埋土 2 2.5Y5/1 黑褐色シルト
- 基盤層 A の小中ブロックを少量含む
- 自然堆積 3 基盤層 A に 2.5Y3/1 黑褐色シルトの小ブロックを少量含む
- 自然堆積 4 7.5Y6/1 ~ 5/1 灰色微細砂泥シルト
- 基盤層 A に 10YR5/2 灰黄褐色シルトの小ブロックが少量入る
結まりやや有り
- 自然堆積 5 基盤層 A と 10YR4/2 灰黄褐色微細砂泥シルトが 0.5 ~ 1 cm の
層厚で互層になる
東半側下半に 10YR4/2 灰黄褐色シルトの帯状ブロックが入る
- 自然堆積 6 2.5Y5/1 黄灰色 ~ 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 自然堆積 7 稲んど基盤層 A に類似するが、10YR5/2 灰黄褐色シルトの
小ブロックが少量入る
- 自然堆積 8 143 溝の掘り返しの可能性有り、トレンチ北側の平面で土器片有り
s + t11 東西断面土層の 7 層に類似する
- 小動物による擾乱か
- d 2.5Y4/1 黄灰色シルトの大ブロックを多量に含む
- 基盤層 A' の中ブロックとまだら状態
- SGY6/1 オリーブ灰色ぎみ
- 土器片有り

基盤層

- | | | | |
|------------------------|---------------------|--------|--|
| 基盤層 A | 2-2 区第 3 層系上位 2 に対応 | 基盤層 A' | 上位よりやや明色 |
| | 2.5GY6/1 オリーブ灰色シルト | | 10G6/1 緑灰色ぎみで明色に見える |
| | 5G6/1 緑灰色シルト | | やや結まり有り |
| 上記の 2 層がまだら状態 | | B | 7.5Y5/1 灰色微細砂泥シルト |
| やや結まり有り | | | 10GY6/1 緑灰色ぎみ、サクサク状態 |
| 第 1 層の影響で変色の可能性有り | | C | 基盤層 B と 2.5Y5/2 灰黄褐色粘泥（有機質含む）が
0.5 cm 前後の層厚で互層となる |
| 2-1 区の西側に行くに連れ微細砂の率が高い | | | |

図 14 2-3 区 143 溝測定図

柱穴・小穴の円形配列（図9）

2-1区B8u・v14を中心として50～62・66・67・69～71・77～80柱穴・小穴が円形状に並ぶ傾向にある。柱穴・小穴の円形配列は、円形（竪穴）建物の柱並びを構成しているように見える。円形配列の平面規模は、直径（東西・南北）約7.0mを測る。柱穴・小穴の平面規模は、直径0.15m前後のものと直径0.25～0.35m前後のものがある。残存の深さは、殆どが0.05～0.10m前後と浅い。柱穴・小穴の円形配列の中央には、65土坑が位置し、あたかも円形（竪穴）建物跡に伴う床面中央の炉穴のように見えるが、埋土は調査区壁面に認められる基本層序の第2層系の埋積である。

遺物は、何れの遺構からも出土していない。

柱穴・小穴の円形配列は、縄文時代晚期に位置付けられる和歌山市川辺遺跡の事例（IV区下面SI02『川辺遺跡発掘調査報告書』1995年（財）和歌山県文化財センター）にみるような建物跡になる可能性が考えられる。また、遺物が出土していないので明確な時期の判断ができない。

（2）古墳時代の検出遺構

84隅丸方形状痕跡（写真図版7）

84隅丸方形状痕跡は、2-1区・2-3区にまたがってB8u・v12・13に位置し、西北西側は1自然流路の肩口の堆積層のため全容は不明である。平面形は、隅丸方形を呈する。平面規模は、短軸（西北西-東南東）6.0m、長軸（北北東-南南西）6.5mを測る。84隅丸方形状痕跡は、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての竪穴建物跡あるいは掘立柱建物の床面痕跡と考えて調査を進めた。

84隅丸方形状痕跡と認識した範囲では、周囲より基盤層が僅かに暗色を呈し、土質が毛羽立つ以外は変化に乏しい。84隅丸方形状痕跡に対して再度の精査及び断ち割り調査を行ったが、明確な土質の変化・硬化及び柱穴・壁溝等の掘り込み痕跡を確認することができなかった。

（3）鎌倉時代の検出遺構

13区画溝（図15・27、写真図版8・21）

13区画溝は、2-1区の東半側に位置し、南側は調査区外に延びるため全容は不明である。北側は2-3区に延びる。13区画溝は、17・144・148土坑、143溝と重複関係にあり、13区画溝が後出する。13区画溝は、西北西-東南東最大幅6.10m、残存の深さは0.34～0.40mを測る。法面の掘り込みは、南側で一部緩やかな傾斜となるが、全体に約30～40°の傾斜角法面となる。基底部の掘り込みは、凹凸が著しく、不揃いである。13区画溝は、南北方向の座標軸線からN-13°-Eに偏る。

堆積層は、大きく3層に分けることができ、何れの堆積層においても基盤層のブロック土を多量に含むこと、細礫をブロック状に含むことから全てに人為的な埋積が認められる。

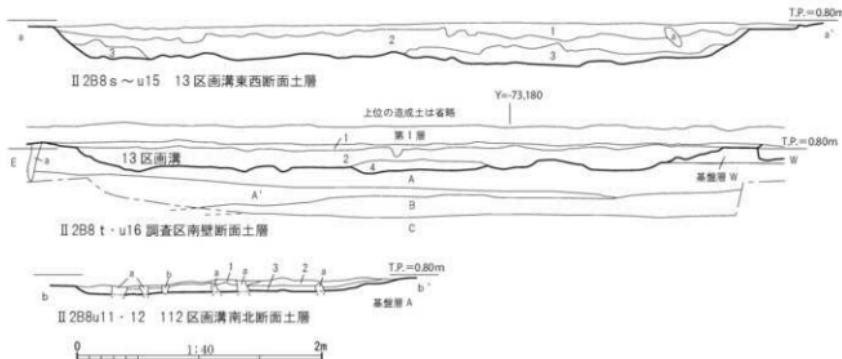
遺物は、弥生時代前期の土器（12・13・15）60点、古墳時代の土師器10点・須恵器（16・17）10点を含むが、主体は鎌倉時代の土師器皿・小皿55点、瓦器甕（18）20点、土釜24点、東播系須恵器捏鉢（19）4点、瓦器甕2点、無釉陶器備前擂鉢・甕、常滑甕5点、中国製青磁皿・中国製白磁碗3点、瓦（24）・その他7点等合計120点が出土した。また、最上層の1層からは近世の肥前系陶器唐津碗（23）・瓦・その他（21・22）11点が出土した。下層一括として掘削した一部からも近世の肥前系陶器唐津碗3点が出土したが、出土層位が不明瞭である。

112区画溝(図15・27、写真図版9)

112区画溝は、2-3区の西半側に位置し、西側端は1自然流路の堆積層のため全容は不明である。112区画溝は、2-1区で検出した13区画溝の延長で、2-1区から2-3区にかけて南北に伸び、2-3区の中央で西側に折れ曲がる。東西方方向の112区画溝は、北北東-南南西幅2.25～2.60m、残存の深さは0.10m前後を測る。法面の掘り込みは、浅い皿形を呈する。基底部は、平坦である。

東西方向の112堀の堆積層は、大きく3層に分けることができ、南半側上層に焼土粒・炭化物を多量に含み、全て人為的な埋積が認められる。堆積層の随所に小動物による擾乱が認められる。

遺物は、弥生時代前期の土器(14)23点、古墳時代前期の布留式併行期の土師器1点、古墳時代中期と考えられる須恵器甕1点、平安時代の黒色土器A類椀1点、須恵器甕1点、鎌倉時代の土師器皿4点等合計31点が出土した。これらのことから、時期の決定要素に乏しいが、13・112区画溝は、鎌倉時代に帰属するものと考えられる。



第1番 木田耕作土

13区画溝 1 人の埋土

7.5Y6/1 灰色～6/2 灰オリーブ色粗砂混シルト

軟質結晶片岩を少量含む 0.3～0.5cm大の細繊を中量含む

近世遺物有り

2 人の埋土

5Y6/1 灰色～6/2 灰オリーブ色シルト

2.5Y4/2 墓灰黄色シルトの大ブロックを中量含む

3層を大ブロック状に少量含む。特に西半1/3に多量に含む

3 人の埋土

5Y4/1 灰色粗砂混シルト

0.3～1cm大の細繊を中量含む

4 2層に基盤層 A の中ブロックが中量入る

5 小動物による擾乱 2.5Y6/1 黄灰色微細砂混シルト

112区画溝 1 2.5Y5/1 黄灰色シルト

5Y4/4 にない赤褐色・3/1 黒褐色焼土粒 0.5～2cm大を

多量に含む。やや縮まり無し

2 2.5Y5/1 黄灰シルト

0.5～1cm大の細繊を微量含む

5cm大極めて微量含む

112区画溝

3 基盤層 A に2層の小ブロックを少量含む

a 小動物による擾乱 5Y5/1 灰色粘泥

b 小動物による擾乱 aに焼土粒を多量に含む

基盤層 W

W 5Y6/3 オリーブ黄色～7.5Y6/2 灰オリーブ色シルト

やや縮まり有り

A 5Y6/1 オリーブ灰色シルト

7.5Y5/3 灰オリーブ色シルト粒 1～3cm大を極めて

多量に含む

A' 上位よりやや明色

10G6/1 緑灰色ぎみで明色に見える

やや縮まり有り

B N5/0 灰色微細砂シルトの互層

2-2区基盤層 W 下位3に類似する

下部に10YR5/4 にぶつ黄褐色シルトの硬化層約1cm

厚有り

C 7.5Y6/1 灰色～6/2 灰オリーブ色微細砂

2.5Y5/6 黄褐色色及び巣状状幅 0.5～1cmを少量含む

やや縮まり有り

2-2区基盤層 W 下位3に対応

図15 2-1区 13区画溝、2-3区 112区画溝断面土層実測図

14・15土坑(図16・28・29、写真図版9・22・23)

14・15土坑は、2-1区B8r・s14の南半側に位置する。平面検出時には、東側に円形に広がる堆積層(1・2層)の遺構14と西側の堆積層(3層)の遺構15が重複関係にある井戸(掘形・井側)と判断して調査を進めたが、土器等廃棄土坑の堆積層の変化であることが判明した。平面形は、西北西-東南東に主軸をもつやや歪な橢円形状(達磨形)となる。平面規模は、短軸(北北東-南南西)2.10~2.46m、長軸(西北西-東南東)2.83m、残存の深さは0.58mを測る。法面の掘り込みは、全体に均一で42~48°の傾斜角となる。基底部は、中央西半側で浅い窪みが生じるが、それ以外はほぼ平坦である。

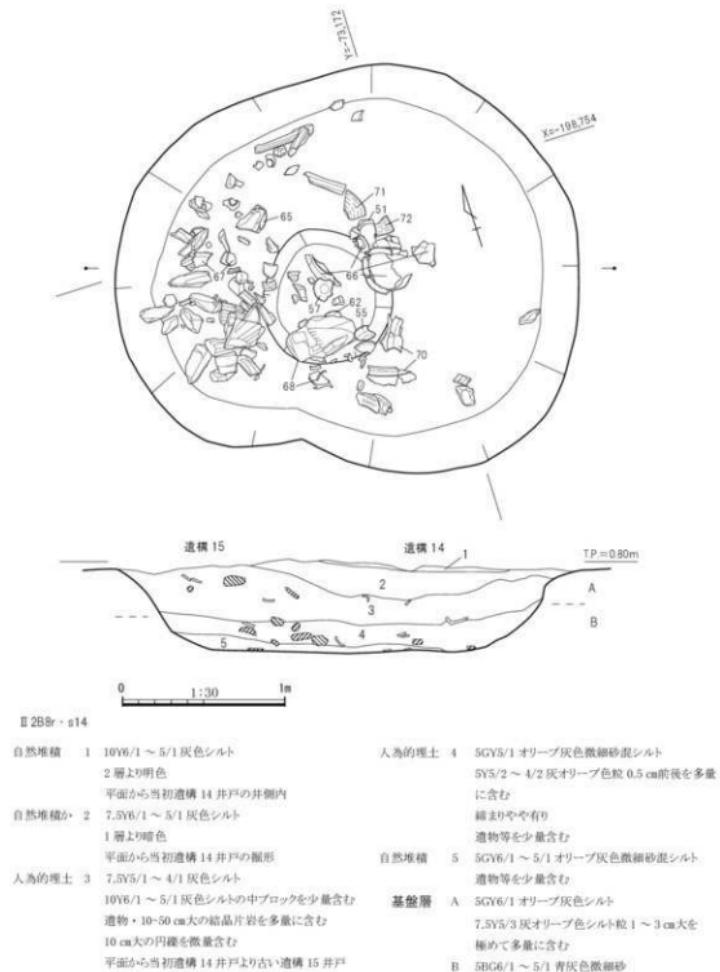


図16 2-1区 14・15土坑実測図

堆積層は、最上層（1層）・上層（2層）を省いて、遺物と共に人為的な埋積が認められる。堆積層と遺物の出土状況から3・4層が一連の廃棄行為に伴う埋積となり、1・2層がその後の自然埋積となる。

遺物は、上層下位（3層）から下層（4層）にかけて多量の結晶片岩等と共にまとまりのある鎌倉時代の土師器293点：皿（49～51）75点・小皿（43）3点、土釜（66～70）215点、瓦器168点：椀（55～65）161点・小皿（44～48）7点、東播系須恵器捏鉢（71・72）3点、瓦器甕（73・74）7点、無軸陶器備前搗鉢1点、常滑甕1点、中国製白磁碗（52）1点、弥生時代前期の土器（53）6点、古墳時代の須恵器小型短頸壺（54）1点等合計491点が出土した。また、図示していないが、鏃の長さ約2cmの初現期の土釜（所謂、「羽釜」）1点が含まれている。これらのことから、14・15土坑は、鎌倉時代に帰属する土器等廃棄土坑と考えられる。

123土坑（図17、写真図版10・11）

123土坑は、2-3区B8s12の北半側に位置し、西側が101擾乱に削平を受けるため全容は不明である。123土坑は、147土坑と重複関係にあり、123土坑が後出する。検出できた範囲での平面形は、南北に主軸をもつ歪な隅丸長方形となる。平面規模は、短軸（東西）0.70m以上、長軸（南北）1.40m、残存の深さは0.06mを測る。断面形は、東西方向で浅い皿形を呈する。基底部は、緩やかな凹み状である。

堆積層は、単層で焼土粒及び炭粒を極めて多量に含む埋積である。

遺物は、古墳時代の須恵器壺1点、鎌倉時代の皿と考えられる土師器3点、焼けた細かい粘土塊数点が出土した。これらのことから、123土坑は、時期の決定要素に乏しいが、鎌倉時代の火を伴った行為による埋積構造と考えられる。

17土坑（図18、写真図版11）

17土坑は、2-1区B8s13・14にまたがって位置し、西側が13区画溝に削平を受けるため全容は不明である。検出できた範囲での平面形は、歪な形状である。平面規模は、短軸（南北）0.70m、長軸（東西）0.64m以上、残存の深さは0.15mを測る。基底部に接して、結晶片岩の板石を検出した。断面形は、東西方向で浅い窪み状を呈する。

堆積層は、上層の1層に炭粒を多量に含み、下層の2層は炭粒混じりの灰色シルトと基盤層が薄く互層に埋積する自然埋積とみられる。



図17 2-3区 123土坑実測図

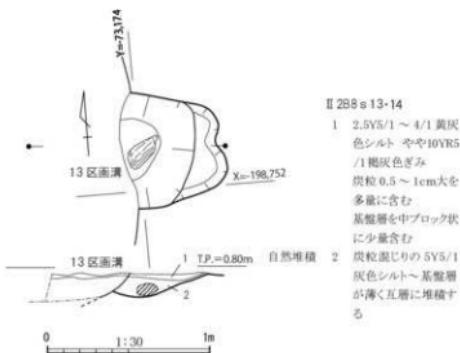
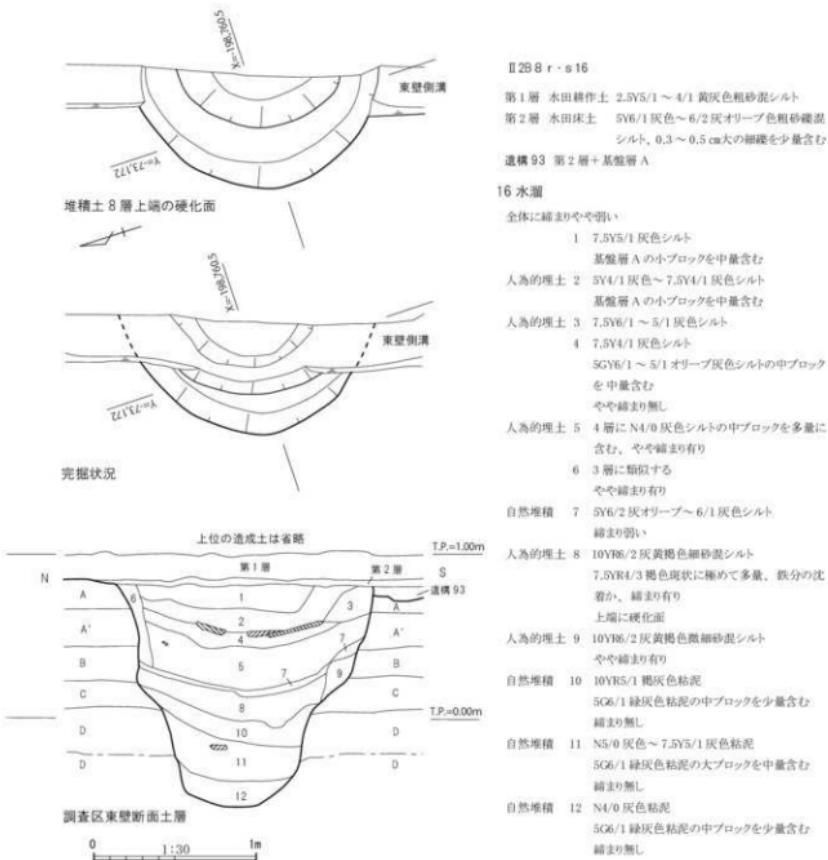


図18 2-1区 17土坑実測図

遺物は、弥生時代前期の土器2点、古墳時代の須恵器壊身1点が出土したのみである。17土坑は、時期の決定要素に乏しいが、埋積層の状況から判断して鎌倉時代に帰属するものと考えられる。



- B 10GV6/1 緑灰色微細砂混シルト
南側の一部、基盤層Aの大ブロックを少量含む
- C 2-2 区基盤層W下位3に対応か
- C 7.5W/1 灰色～6/2灰オーブ色微細砂
2.5W/6 黄褐色粒及び纖維状幅0.5～1cmを少量含む
やや締まり弱い
- D 2.5V4/1 黄褐色～5Y4/1 灰色粘泥
基盤層C下部から2.5V7/2～6/2灰黄色微細砂の継続状
幅0.5～1cmが少量入る
締まり無し、木質自然木有り

図19 2-1区 16水溜実測図

16水溜（図19・27・28、写真図版10・21）

16水溜は、2-1区B8r・s16の北端に位置し、東南東側は調査区外に延びるため全容は不明である。平面形は、ほぼ円形を呈するものと考えられる。検出できた範囲での平面規模は、短軸（北東-南西）1.57m、長軸（西北西-東南東）0.84m以上、残存の深さは8層上端の10YR6/2灰黄褐色細砂混シルトの酸化土壌化層硬化面までの中心部で0.69m（側で0.51m）を測る。堆積層の大半が人為的な埋積となり、2層下端（4層上端）に結晶片岩の板石3枚（長さ20～40cm、幅25cm前後、厚さ4cm前後）が廃棄されていた。堆積土層の観察から2層と3・4層の間に一時的な時間差を認めることができる。酸化土壌化層硬化面での基底部は、浅い皿形を呈する。16水溜は、平面検出当初、3・6層を掘形、1・2層を井側内とする円形掘形の井戸もしくは溜枠の可能性を考えた遺構である。

16水溜上部の調査終了後に断ち割り調査を行い、酸化土壌化層硬化面の下位にも掘り込みが0.65m続くことが判明した（上部から合わせて残存の深さ1.34m）。下位での掘り込みの断面形は、U字形を呈する。下位・最下層の堆積層（10～12層）は、自然堆積と考えられる縮まりの無い10YR5/1褐色～N5/0・N4/0灰色粘泥の埋積である。

遺物は、全体に僅かであるが、上層（1～6層）から弥生時代前期の土器3点、鎌倉時代の土師器碗1点・皿1点、瓦器碗（35）7点、土釜3点、近代の陶器碗1点の細片等合計16点が、下層（8・10・11層）から奈良時代の土師器甕（26）2点、鎌倉時代の土師器皿3点、瓦器碗（27）4点、土釜3点の細片等合計12点が、最下層（12層）から弥生時代前期の土器1点、古墳時代中期と考えられる土師器甕1点、奈良時代の土師器皿（25）1点・高坏1点、鎌倉時代の土師器皿3点、瓦器碗2点、土釜3点等合計12点が出土した。

16水溜は、基底部（T.P. = -0.54m）においても基盤層の湧水層には達していないこと、下層（10・11層）から最下層（12層）にかけての粘泥層に縮まりの無いことなどから、遺構名に付記したとおり滲水を伴う水溜として機能し、鎌倉時代に帰属するものと考えられる。

105土坑（図20）

105土坑は、2-3区B8s11の北西隅に位置する。105土坑は、143溝の北端で重複関係にあり、105土坑が後出する。平面形は、北東-南西に主軸をもつ楕円形状を呈する。平面規模は、短軸（北西-南東）0.82m、長軸（北東-南西）1.54m、残存の深さは0.09mを測る。断面形は、何れの方に向でも浅い皿形を呈する。

堆積層は、2層に分けられ、上層は人為的な埋積、下層は自然堆積と考えられる。

遺物は、弥生時代前期の土器3点が出土したのみであるが、堆積層が107土坑の項で前述した106溝に類似することから室町時代もしくはそれ以後に帰属する可能性が考えられる。

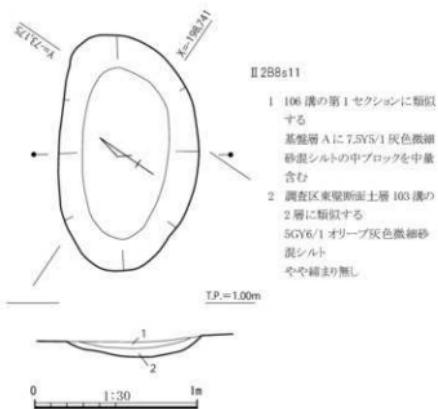


図20 2-3区 105土坑実測図

144・148土坑(図21・28、写真図版11)

144・148土坑は、
2-3区B8s-t11
の南端に位置する。

144・148土坑は、
143溝・13・112区
画溝と重複関係に
あり、13・112区画
溝よりも古く、143
溝より後出する。

144土坑の平面形
は、西-東に主軸を
もつ楕円形状を呈
する。平面規模は、
短軸(南北)0.67

m、長軸(東西)1.00

m、残存の深さは0.18mを測る。断面形は、浅い窪み状を呈する。148土坑の平面形は、やや南北に長い円形状を呈する。平面規模は、短軸(東西)0.74m、長軸(南北)0.82m、残存の深さは0.30mを測る。断面形は、浅いU字形を呈する。

144・148土坑は、144土坑が148土坑より上位に位置し、別個の土坑として検出したが、堆積層の状況が酷似することから一連の土坑であった可能性が高い。また、144・148土坑は、最上位の13・112区画溝の掘削後、143溝の掘削途中において検出したため、土坑の上端及び規模等不明瞭となる。さらに、出土遺物の一部に先述した143溝として取り上げたものを含んでいる。

遺物は、144土坑から古墳時代の土師器5点、鎌倉時代の土師器皿3点、瓦器椀(36)4点、土釜1点等合計13点が、148土坑から弥生時代前期の土器(28)4点、古墳時代中期の須恵器壺1点、鎌倉時代の土師器皿5点、瓦器椀1点、土釜1点等合計12点が出土した。これらのことから、144・148土坑は、時期の決定要素に乏しいが、鎌倉時代に帰属するものと考えられる。

柱穴・小穴(図22・28、写真図版11)

柱穴・小穴は、(1)弥生時代前期の検出遺構 柱穴・小穴の円形配列の項で前述した以外は、2-1区・2-3区の全域で極めてまばらな状態で検出できた程度である。平面形は、円形状もしくは歪な形状を呈する。平面規模は、直径0.10～0.15m前後のものと直径0.25～0.40m前後のものがある。残存の深さは、殆どが0.05～0.10m前後と浅く、0.20m前後の深さを測る柱穴は稀である。中には基底部に根石の遺存した63柱穴もある。

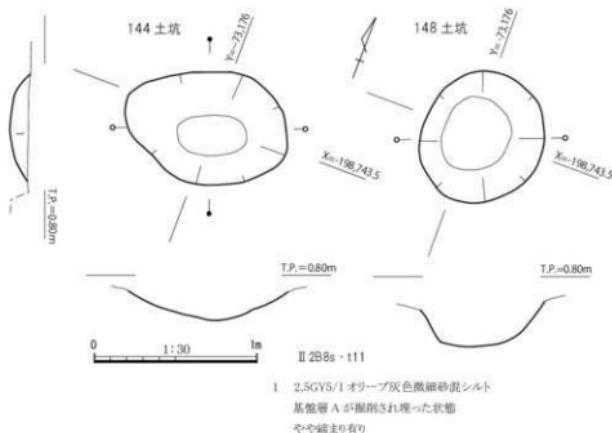


図21 2-3区 144・148土坑実測図

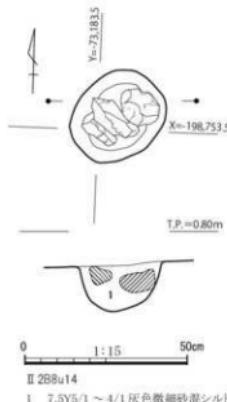


図22 2-1区 63柱穴実測図

これらの内、直径 0.10 m 前後の小穴は、小動物による擾乱の可能性の高いものもある。その他、2-1 区南東隅 B8s・t16 において若干のまとまりを見い出すことができるが、いずれも建物跡としての柱並びを見出しができなかった。

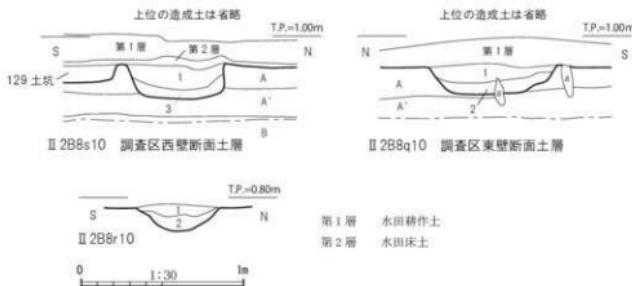
遺物は、極めて僅かであるが、古墳時代の土師器甕、鎌倉時代の瓦器椀、土釜、瓦質甕の細片が出土したものもある。2-1 区 B8t16 に位置する 22 柱穴からは、瓦器椀 (37) 4 点、土釜 1 点、東播系須恵器 (瓦質) 甕 1 点が出土した。

103 溝 (図 23、写真図版 3・11)

103 溝は、2-3 区 B8q10 ~ s10 で東南東-西北西方向に延びて位置する。東西両側共に調査区外に延びるため全容は不明である。103 溝は、125 柱穴・106 溝と重複関係にあり、103 溝が 106 溝より後出し、125 柱穴が 103 溝より後出する。103 溝は、北北東-南南西幅 0.50 ~ 0.76 m、残存の深さは 0.16 ~ 0.20 m を測り、延長 7.5 m 分を検出した。103 溝は、調査区東・西壁の断面土層と平面観察から東南東側から西北西側に延びる。103 溝は、東西方向の座標軸線から E-11° - S に偏る。

堆積層は、大きく 2 層に分けることができ、上層 (1 層) が基盤層に下層のブロック土が入る人為的な埋積、下層 (2・3 層) が自然堆積による埋積と考えられる。

遺物は、極めて僅かで弥生時代前期の壺 2 点が出土したのみで、103 溝の機能時期を推し量ることが難しい。しかし、先行する 106 溝から鎌倉時代の瓦器甕 (40)、室町時代の備前播鉢 (41) 等が出土したことから、それ以後もしくはこれに近似する時期に帰属するものと考えられる。



103 溝

- | | | |
|-------|---|---|
| 人為的埋土 | 1 | 基盤層 A に 2 層の中ブロックが少量入る
やや縮まり有り |
| 自然堆積 | 2 | 5GY6/1 オリーブ灰色微細砂混シルト
1 層の沈み込みのような中ブロックが少量入る
やや縮まり無し |
| 自然堆積 | 3 | N6/0 灰色微細砂混シルト
5GY6/1 オリーブ灰色ぎみ
やや縮まり無し |

- | | | |
|----------|----|--|
| 小動物による擾乱 | a | 2.5Y6/1 黄灰色微細砂混シルト |
| 基盤層 | A | 2.5GY5/1 オリーブ灰色 ~ 5GY5/1 オリーブ灰色シルトに
5Y4/3 ~ 4/4 緑オリーブ色組 0.5 cm 前後を多量に含む |
| | A' | 上位よりやや明色、10G6/1 緑灰色ぎみで明色に見える |
| | B | 10GY6/1 緑灰色微細砂混シルト
南側の一部、基盤層 A の大ブロックを少數含む |

図 23 2-3 区 103 溝断面土層実測図

92 土坑 (図 24、写真図版 11)

92 土坑は、2-1 区 B8x15 の北西隅に位置する。92 土坑は、90・91 柱穴と重複関係にあり、90・91 柱穴が後出する。また、92 土坑は、2-1 区 1 自然流路東肩口の第 3 層系堆積層及び 83

落ち堆積層除去面において検出できた。平面形は、南北に延びる歪な隅丸三角形状である。平面規模は、短軸（北北東-南南西）1.64 m、長軸（東南東-西北西）1.76 m、残存の深さは0.31 mを測る。断面形は、南北で深い45°の傾斜角となる。基底部は、緩やかな凹凸が認められ、南側に向かって下降する。

遺物は、僅かであるが古墳時代の土師器と考えられる甕2点、鎌倉時代の土師器皿2点、土釜1点が出土した。これらのことから、時期の決定要素に乏しいが、92土坑は、鎌倉時代もしくはこれに近似する時期と考えられる。

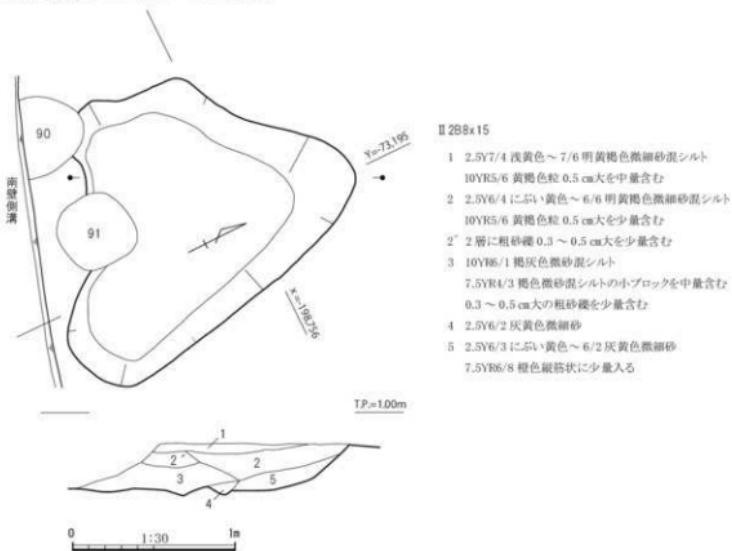


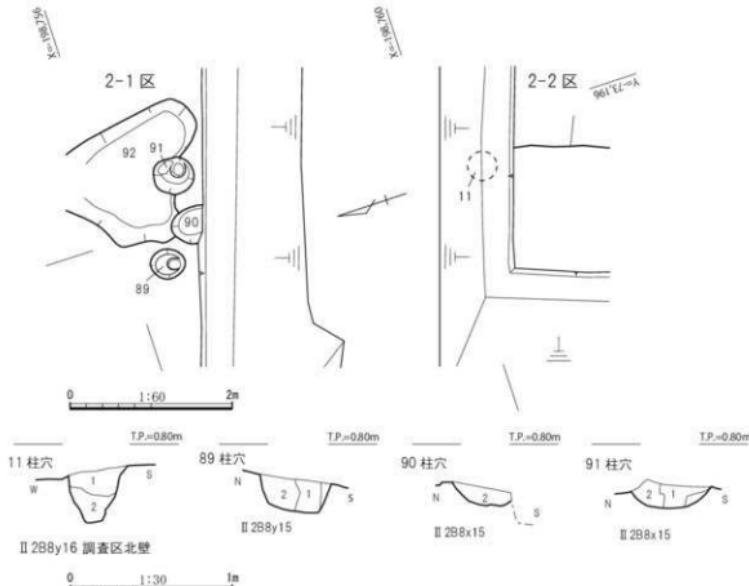
図24 2-1区 92土坑実測図

11・89・91掘立柱穴（図25、写真図版11・12）

11柱穴は、後述する2-2区B8y16の調査区北壁断面に位置する。89～91柱穴は、2-1区B8x・y15にまたがって位置する。90・91柱穴は、92土坑と重複関係にあり、90・91柱穴が後出する。遺物は、何れの柱穴からも出土していない。

89・91柱穴は、先述した2-1区・2-3区の中央から東側にかけて検出した一連の柱穴よりも明確な掘形と柱当りが確認できる。そのため、2-2区11柱穴を含めて考えることによって、建物跡としての柱並びを見い出すことが可能となる。図面上での91柱穴と11柱穴との柱間は、3.75 mとなり、概ね2間分に相当する。また、91柱穴と89柱穴との柱間は、1.14 mとなる。これらのことから、東西の規模は不明であるが、南北2間で側に庇もしくは縁の取りつく建物跡の可能性が考えられる。

時期の決定要素に乏しいが、90・91柱穴が92土坑より後出することから、90・91柱穴も時期的には鎌倉時代もしくはこれに近似する時期、及び2-1区1自然流路東肩口の第3層系堆積層に覆われるまでの段階と考えられる。



11柱穴

- 1 2.5Y6/2灰黄色～5/2暗灰黄色粗砂混シルトに
2.5Y6/2灰黄色～6/4にぶい黄色細砂混シルトの
小ブロックを少量含む
やや縮まり有り
- 2 2.5Y6/2灰黄色～6/4にぶい黄色細砂混シルトに
2.5Y6/2灰黄色～5/2暗灰黄色粗砂混シルトの中
ブロックを中量含む
やや縮み無し

89～91柱穴

- 1 柱当り 10YR5/1 開灰色シルト
7.5YR4/3 開色シルトの小ブロックを中量含む
炭粒 0.5～1cm大を微量含む
2 極形 10YR6/1 開灰色微細砂混シルト
7.5YR4/3 開色微細砂混シルトの小ブロックを少量含む

図25 2-1区・2-2区 掘立柱柱穴実測図

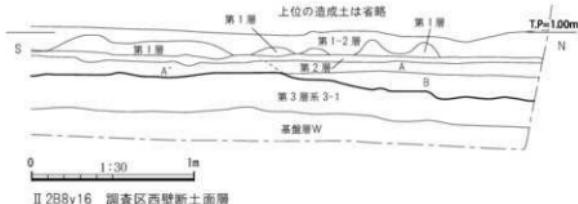
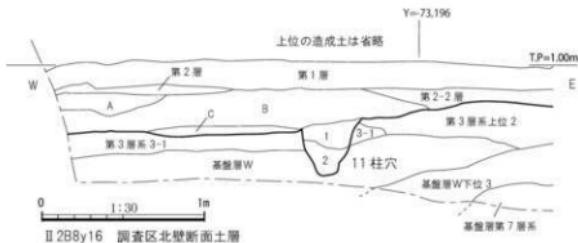
2-2区(図25・26・28、写真図版12・21)

2-2区では、検出遺構は調査区北壁断面土層で確認できた柱穴1基(11柱穴)のみで、平面的に遺構が検出できなかった。そのため、下位層での遺構面及び遺物包含層の有無について確認するため掘り下げを行った。結果、2-2区では下位層下位面に生活遺構及び遺物包含層が存在しないことが明らかとなった。

11柱穴(図26・28、写真図版12・21)

11柱穴は、2-2区B8y16の調査区北壁断面に位置する。北壁の断面土層観察では、東西0.36m・残存の深さは0.32mを測る。断面形は、歪なU字形を呈する。堆積層は2層に分けられ、整地層と考えられるC層と第3層系3-1層が混在する埋積となる。状況から判断して、柱材の抜き取り後に人為的に埋められたものと考えられる。

11柱穴から遺物は出土していないが、上位の整地層第2-2層から古墳時代の土器と考えられる甕2点、遺物包含層A'層から古墳時代の土器壺2点、甕2点、高坏2点(32・33)が出土した。のことから、それ以後もしくは近似した時期に帰属するものと考えたいが、整地層第2-2層及び遺物包含層A'層が2-1区1自然流路東肩口の第3層系堆積層に該当すると考えられることから、当該遺構を鎌倉時代もしくはこれに近似する時期とするのが妥当と考えられる。



第1-2層 煙耕作土	2.5Y5/2 暗灰黃色～6/2 灰黃色粗砂混泥シルト 0.3～0.5cm大の細礫を少量含む	11柱穴	1 C層に第3層系3-1の小ブロックを少量含む やや縮まり有り 2 第3層系3-1にC層の中ブロックを中量含む やや縮まり無し
第1層 水田耕作土	N4/0灰色～3/0暗灰色シルト 0.5～1cm大の細礫を微量含む		
第2層 水田床土	10YR5/6 黄褐色シルト 7.5YR6/8 棕色～5YR6/8 棕色の軟質結晶片岩を極めて多量に含む 部分的に第1層の影響で10Y5/1 灰化色を呈する	基盤層	3.5Y6/6/1 緑灰色～5GY6/1 オリーブ灰色微砂混シルト 第1層の影響で変色化する。やや縮まり無し
第2-2層 整地層	7.5GY6/1～5/1 緑灰色細砂混シルト 第1層の影響で変色化する 軟質結晶片岩 0.5～1cm大を少基含む・3～5cm大を微量含む 第3層系上位3に結晶片岩が入る状態 やや縮まり有り	第3層系上位2	2.5Y6/2 灰黄色～6/4 に5Y6/2 灰色細砂混シルト 砂質の度合いが高い やや縮まり無し
A 遺物包含層	10YR5/2 暗黄褐色～5/3 に5Y6/2 灰褐色粗砂混シルト 2.5Y5/2 暗灰黃色シルトの小ブロックを中量含む 10YR7/8 黄褐色～6/4 明黄褐色の軟質結晶片岩 1～2cm大を少量含む	基盤層W	2.5Y6/1 黄灰色～6/2 灰黄色微砂混シルト 砂質の度合いが高い 西側端で10YR4/4 桃色粗砂が下降する やや縮まり有り
A' 遺物包含層	2.5Y5/2 暗灰黃色細砂混シルト+第3層系3-1の中ブロックを多量に含む。やや縮まり有り	基盤層W下位3	2.5Y6/2 灰黄色～6/3 に5Y6/2 灰色細砂混シルト 2.5GY6/1 オリーブ灰色微砂～細粗砂 上記の2層が層厚1～2cmで10層程度の互層に堆積する
B 整地層	2.5Y6/2 灰黄色～5/2 暗灰黃色粗砂混シルト 10YR7/8 黄褐色～6/4 に5Y6/2 灰褐色の軟質結晶片岩 1～3cm大を極めて多量に含む。やや縮まり有り	基盤層第7層系	10YR3/1 黒褐色粘泥、N3/0 暗灰色ざみ 2.5GY6/1 オリーブ灰色微砂混粘泥 10YR6/1 桃色ざみ 上記の2層が0.5～1cm厚の互層に堆積する
C 整地層	2.5Y6/2 灰黄色～5/2 暗灰黃色粗砂混シルト やや縮まり有り		

図26 2-2区の基本層序(調査区北壁・西壁断面土層)

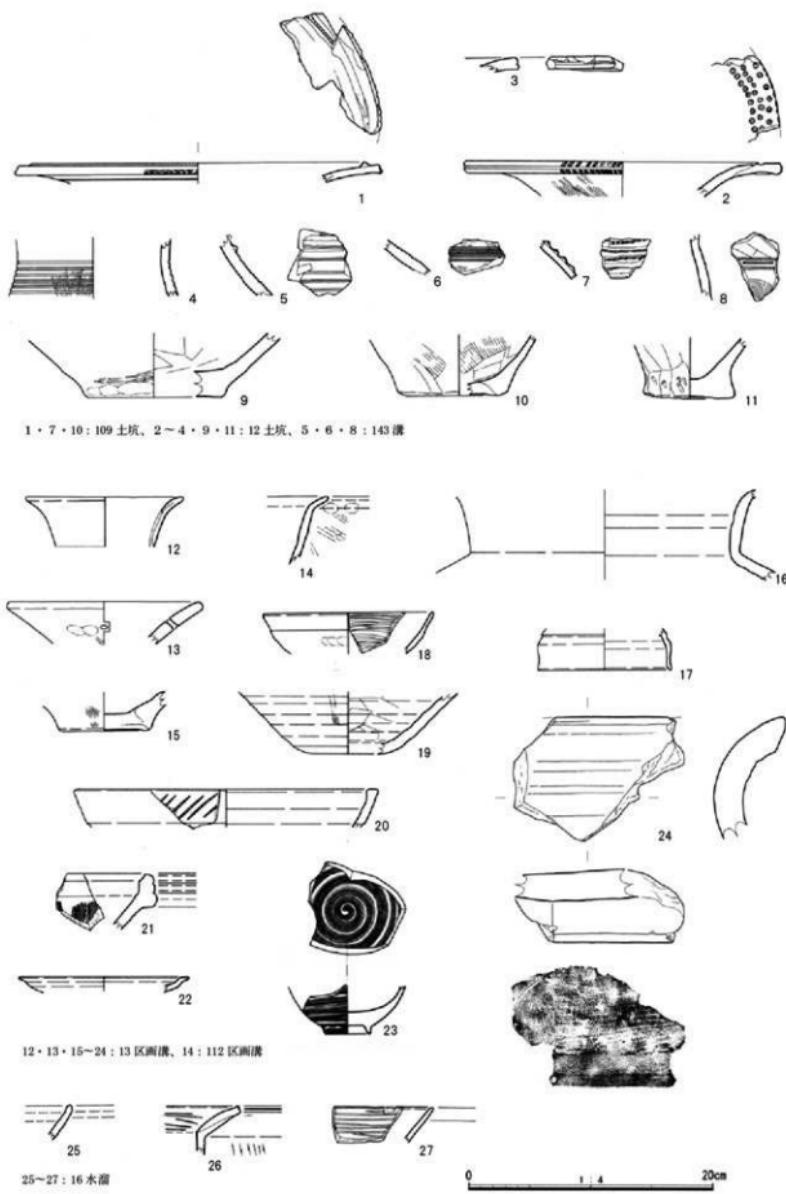
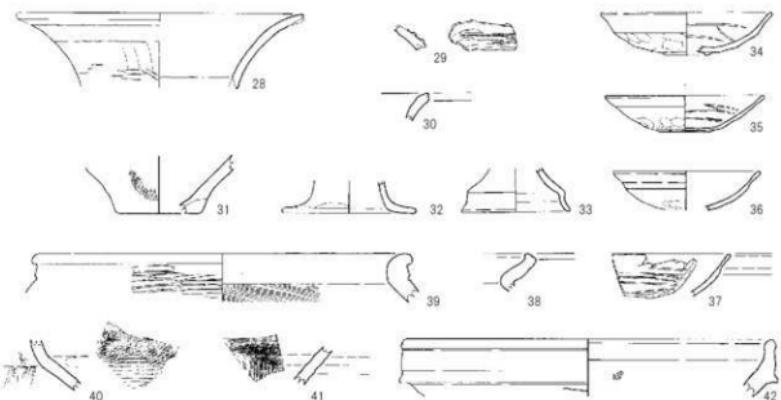
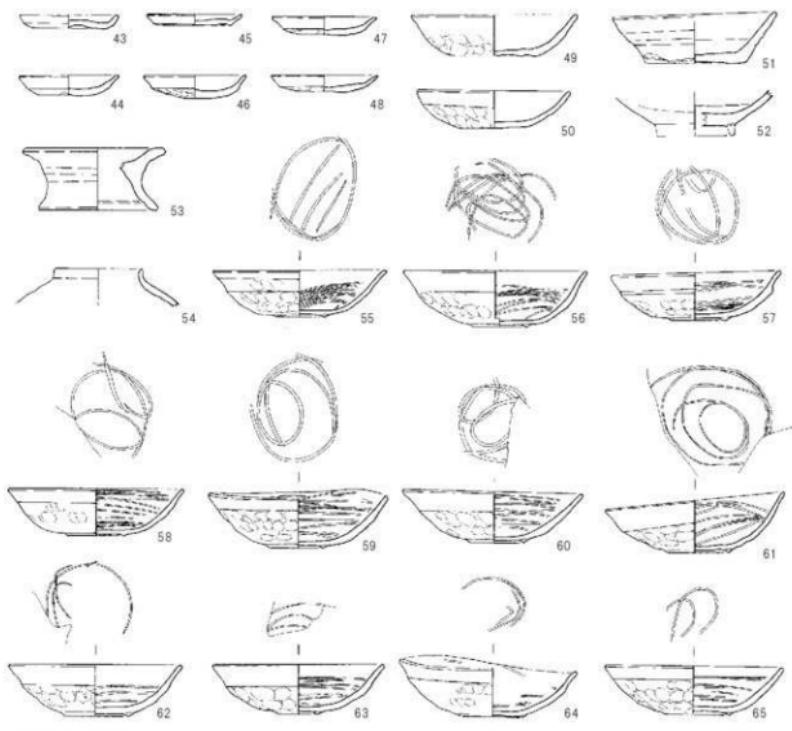


図 27 2区 出土遺物実測図 1



28 : 148 土坑。29 : 第 1 層・遺構埋土含む。30 : 12 土坑。31・34・38・39・42 : 第 1 層底下基盤層直上・遺構埋土含む。
32・33 : 2-2 区 調査区西壁断面土 壁 A' 層。35 : 16 水槽。36 : 144 土坑。37 : 22 桂穴。40・41 : 106 池



43~65 : 14・15 土坑

図 28 2 区 出土遺物実測図 2

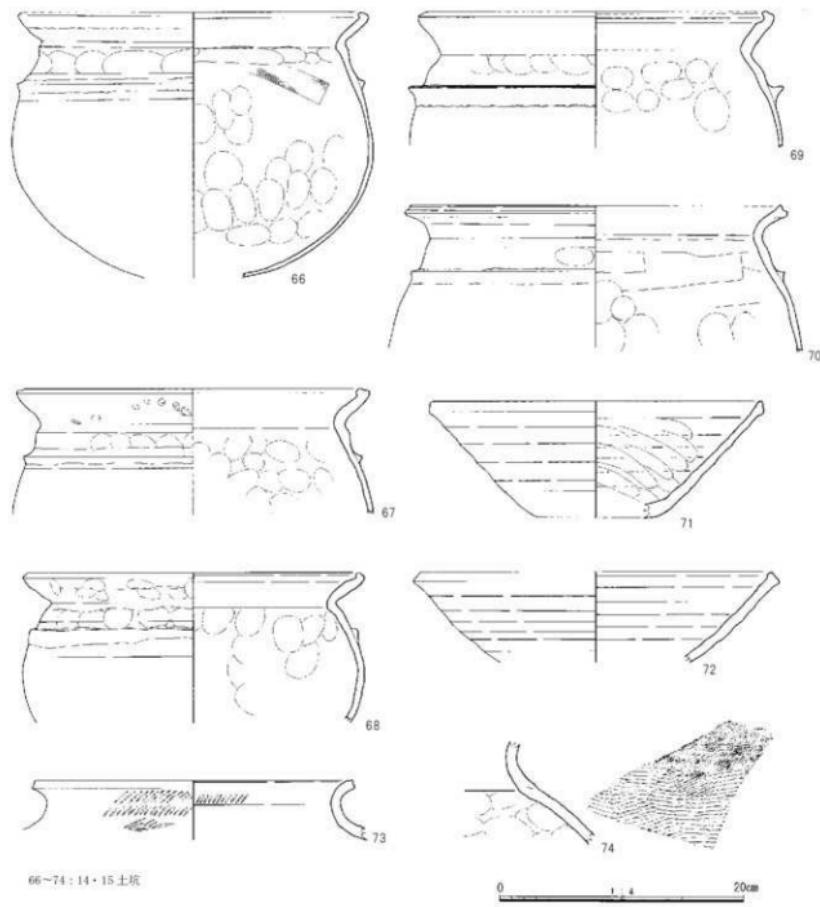


図 29 2区 出土遺物実測図 3

第2節 1区の調査成果

1 1区の調査概要 (図30～48、写真図版13～20・24～32)

調査は、西側地区の1-1区・1-2区から開始し、上層で古墳時代中期後半から後期前半にかけて、下層で弥生時代終末期の庄内式併行期から古墳時代前期の布留式併行期にかけての多量の遺物を伴って埋積した1自然流路を検出した。最上層部の遺物の殆ど認められない鎌倉時代もしくはこれに近似する時期と考えられる第3層系堆積層までを機械掘削排土とし、以下を人力掘削として作業を進めた。

1-1区と1-2区の両地区は、調査区の下端で南北に約4m離れた位置関係にある。検出した自然流路は、堆積層の層序及び方向性からみて同一の流向の自然流路と判断できる。結果的に、1-1区は調査区の大半が、1-2区は調査区の全てが1自然流路の範囲に重複した状態であった。

2 各遺構の調査成果

1 自然流路 (図30～34・37～47、写真図版13～20・24～32)

1自然流路は、西側地区的1-1区・1-2区（和田1154-1番地）において南南西から北北東側方向に延びる。旧地形の自然流路の地形を踏襲して現在の水田耕作地の区画が形成されたようである。1-1区で検出した自然流路の肩口は、古墳時代前期までに埋積の進んだ状態で、南東側の肩口から北西側へは、1-1区北西隅で北西側への上りが認められること（写真図版19）から、幅約18m前後、肩口からの深さ約1.00m前後となる。

1自然流路は、鎌倉時代もしくはこれに近似する時期と考えられる第3層系堆積層までの南東側肩口の上りは、2-1区・2-3区（和田1155-1・1156・1157-1番地）の西端で検出できていること（図32・34、写真図版16）から、幅約24m前後以上、肩口からの深さ約0.3m前後の浅い凹み状を呈する。

1自然流路の基本層序 (図30・32・33、写真図版15・16・20)

1自然流路の第3層系堆積層以下は、基本的に自然流水による濁み堆積と考えられ、1-1区・1-2区の1自然流路の堆積層となる。第3層系堆積層は僅かな出土遺物からの判断ではあるが、鎌倉時代もしくはこれに近似する時期の堆積層と考えられ、東側肩口では一部で人為的な埋積が認められる。

以下、1自然流路の埋積は、下層になるに連れ、第4層系堆積層、第5層系堆積層、第6層系堆積層、第6層系堆積層下端（第6-3層）、第7層系堆積層、基盤層となる。

第4層系堆積層からは、古墳時代中期後半から後期前半にかけての土師器・須恵器が比較的まとまった状態で出土した。一部には初期須恵器の段階に遡る可能性のものも認められる。須恵器は硬質なため比較的遺存していたが、土師器は極めて軟質化し、殆どが取り上げのできないほど脆弱な状態であった。そのため、実際は遺物の総点数として集計したものを上回る状況にある。その他、遺物としては、下位層の弥生時代後期末・終末期～古墳時代前期の布留式併行期の土器、石器を含んでいる。また、一部で木器・木製品、木質遺物を包含している。

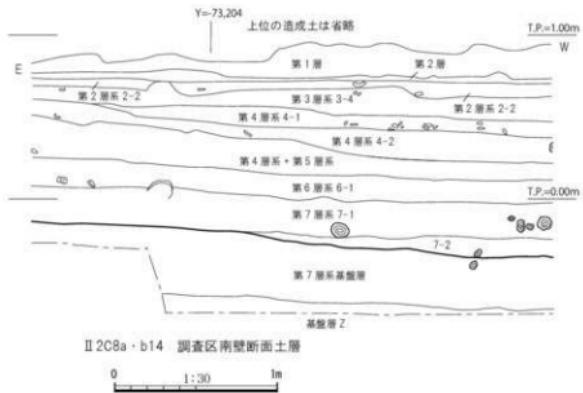
第5層系堆積層は、植物質の根痕跡を極めて多量に含み、遺物の出土量は第4層系堆積層に比較して極めて少ない状況になる。遺物は、第4層系堆積層同様に古墳時代の土師器・須恵器が出土したが、緻密な形成時期を明確にできていない。

第6層系堆積層は、1自然流路の堆積層の中で最も多くの遺物を包含する状況にある。一部で第6層系堆積層上半、第6層系堆積層下半、第6層系堆積層下端として掘り分けた。出土遺物の内容把握としては、弥生時代後期末及び終末期の庄内式併行期の遺物が第6層系堆積層全体4,666点内の3,869点（82.9%）、古墳時代前期の布留式併行期～後期の遺物が745点（16.0%）、弥生時代前期・中期の遺物が52

点(1.1%)となる。また、大半の石器・石製品、木器・木製品、木質遺物がこの層からの出土である。

第6層系堆積層下端(第6-3層)は、第6層系堆積層と第7層系堆積層の間に埋積した堆積層である(図32)。第6層系堆積層下端(第6-3層)は、1自然流路の全域に広がるものではなく、1自然流路の西半側に沿って南北方向(調査区の北西側C8a9・10から南西側C8b12)に堆積する。調査区の南西隅(調査区南壁断面土層)では、確認できていない。遺物内容は、第6層系堆積層に類似するが、古墳時代前期の布留式併行期の遺物の比率が逆に高くなる(第6層系堆積層下端(第6-3層)全体3,051点内の645点(21.1%)。また、一部で木器・木製品、木質遺物を包含している。

第7層系堆積層は、1自然流路の最下層と認識した堆積層である。第7層系堆積層は、1自然流路のほぼ全域に認められるが、調査区壁面沿いの側溝の一部及びトレンチ調査によるものである。そのため、



II 2C8a・b14 調査区南壁断面土層

第1層	水田耕作土	第4層系+第5層系
第2層	水田底土	下半 上半に比較して 2.5Y4/1 黄灰色ぎみ 緑まりやや弱い
第2層系 2-2	田水田耕作土 5Y5/2 灰オーラー色～5Y5/1 黄色細粒砂混シルト 緑まりやや弱い	第6層系 6-1 N4/0 灰色粘泥～3/0 墓灰色粘泥 10YR5/2 灰黄褐色粘泥がまだら状に入り込む 遺物は土器を主体に少量含む 有機物を多量に含む、緑まり無し
第3層系 3-4	2.5Y4/1 黄色～4/2 墓灰黃色シルト。中粗砂少量含む 10YR4/1 暗褐色～4/2 黄褐色ぎみ、緑まりやや強い	第7層系 7-1 2.5Y4/1 黄灰色粘泥 細砂の互層認められず N4/0 灰色ぎみ、木根を中量含む 下層に7-2の有機質を巻き上げた状態 緑まり無し
第4層系 4-1	10YR4/1 暗褐色シルト 炭片の影響で N2/0 黒色ぎみの部分有り 調査区西側では 10YR3/1 黑褐色～3/2 黑褐色シルトの大 ブロックがまだら状に入り込む 調査区南西隅から北側及び東側へ土器片を多量に含む 0.5～1.5 cm 大の炭片を多量に含む、緑まりやや弱い	第7層系 7-2 N4/0 灰色粘泥、第6層系 6-1 より明色 細砂の互層有り、有機分を多量に含む 緑まり無し
第4層系 4-2	10YR4/1 暗褐色～4/2 灰黄褐色シルト、土器片を少量含む 0.3～0.5 cm 大の炭片を微量に含む、緑まりやや弱い	基盤層
第4層系+第5層系	全体に植物質の根痕を多量に含む 上半 第4層系 4-2 に類似するが細微砂を含み砂質度が高い 10YR4/1 暗褐色～4/2 灰黄褐色細微砂混シルト 東側法肩に集中して土器片が入る、緑まりやや弱い	第7層系基盤層 N4/0 灰色粘泥、2.5Y5/1 黄灰色ぎみ 緑まり無し 基盤層 Z 1～2 cm円礫、0.5～1 cm前後を主体とする

図30 1-1区の基本層序(1自然流路：調査区南壁断面土層)

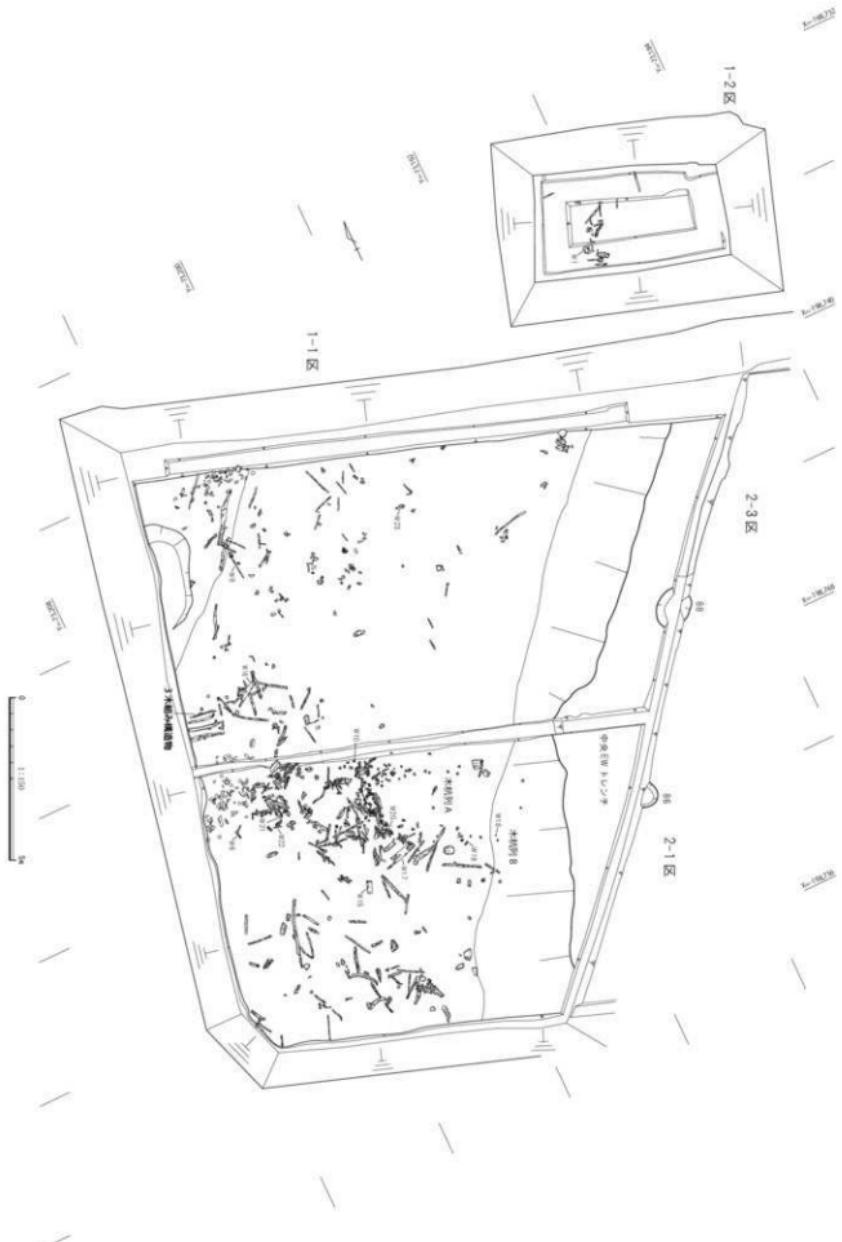


図31 1-1区・1-2区 1自然流路第6層系堆積層内 遺物等検出・出土状況図

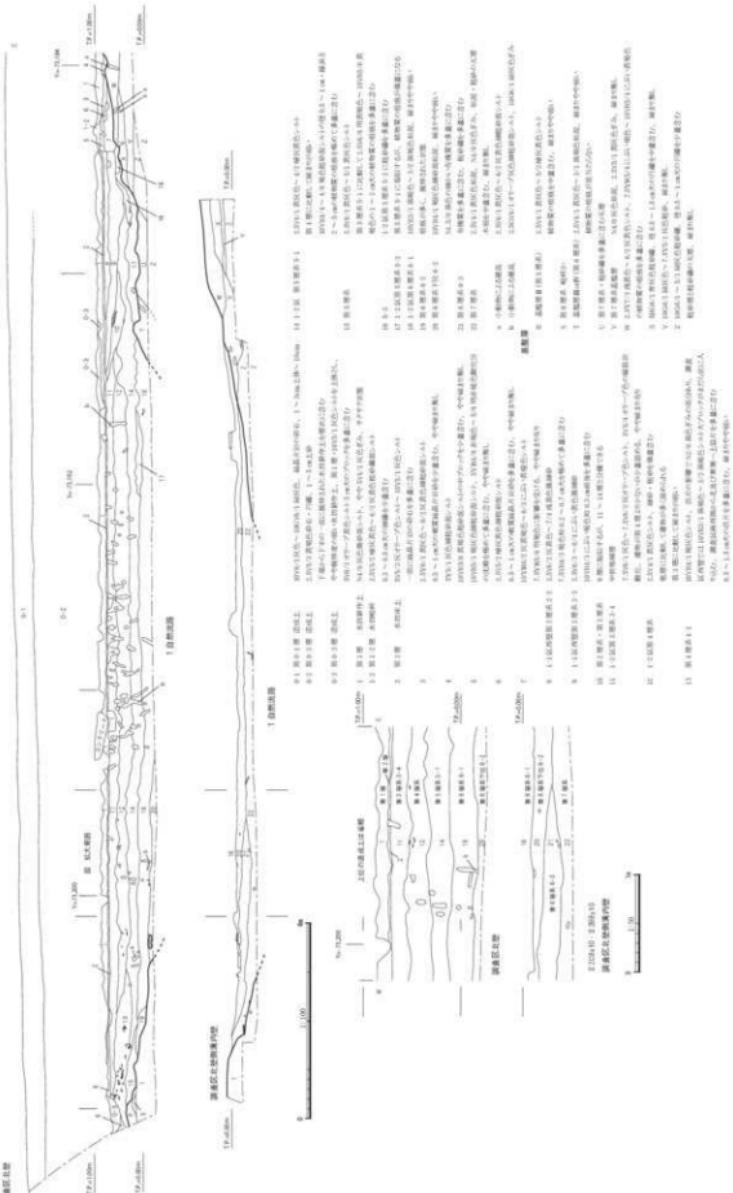
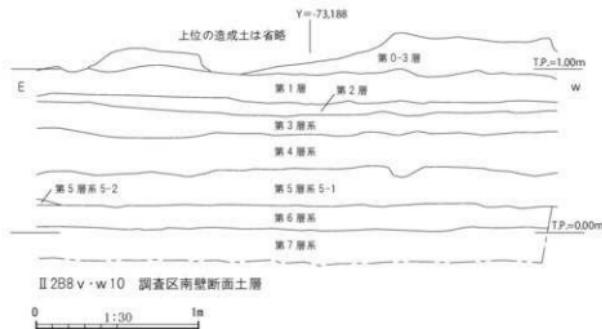


図 32 1-1 区 調査区北壁断面土層図 (1 自然流路)

取り上げられた遺物量は僅か46点である。遺物は、弥生時代前期の土器11点(23.9%)、弥生時代後期・終末期の土器34点(73.9%)、布留式併行期の紀伊形布留式甕1点(2.2%)が確認できている。

第7層系基盤層は、1自然流路の第7層系堆積層の下位に位置するが、第7層系堆積層と類似するため全容は明らかにできない。その他、1自然流路の1-1区東側肩口及び下位層には、1自然流路の基盤層となる基盤層W・X・Y・Zが認められる。基盤層は、各々、基盤層W(浅黄色～灰黄色シルト)・基盤層X(青灰色粗砂礫)・基盤層Y(緑灰色～灰色粗砂)・基盤層Z(緑灰色粗砂礫層)及び基盤層Z-2(青灰色系粗砂礫層)となる。

1-1区・1-2区のほぼ全域に広がる1自然流路は、基本層序でも記述したように、上層の第4層系・第5層系堆積層が古墳時代中期後半から後期前半の遺物を伴って埋積したもの、下層の第6層系堆積層及び第6層系堆積層下端(第6-3層)が古墳時代前期の布留式併行期の遺物を伴って埋積したものと考えられる。また、最下層の第7層系堆積層からは弥生時代終末期の庄内式併行期の遺物が主体的に出土するが、遺物が少ないため形成時期を明確にできていない。下層からは遺存状態の比較的良好な遺物(土器、木器・木製品、木質遺物)が多量に出土した。なお、遺物の内、木器・木製品には帰属時期を明確にできないものもある。



第0-3層	やや塊拌度の弱い土耕作土
	第1層 +10Y5/1 灰色シルトを主体とし、5Y6/3 オリーブ黄色シルト5cm大的のブロックを多量に含む
第1層	水田耕作土 N4/0 灰色微砂混シルト(やや 5Y4/1 灰色ぎみ)、サクサク状態
第2層	水田底土 5Y5/3 黄オリーブ色シルト～10Y5/1 灰色シルト、一部に結晶片岩の碎石を多量に含む
第3層系	中世堆積層 7.5Y6/1 灰色～7.5Y6/2 黄オリーブ色シルト 5Y5/4 オリーブ色の凝灰状酸化、遺物は第4層より少ないと少量認められる やや締まり有り)
第4層系	2.5Y4/1 黄灰色シルト、粗砂・粗砂を微量含む 他層に比較して遺物が多く認められる、第3層に比較して締まりが弱い
第5層系 5-1	2.5Y4/1 黄灰色～4/2 灰灰黄色シルト、第4層に比較して締まりが弱い 10YR4/4～4/6 暗色粗砂混シルトの径0.5～1cm・縦長さ2～5cmの植物質の根痕を極めて多量に含む
第5層系 5-2	第5層系 5-1に類似するが、植物質の根痕が微量になる
第6層系	N3/0 増灰色ぎみの 5Y3/1 オリーブ黒色シルト、第5層系 5-1に類似する植物質の根痕を微量に含む 締まり弱く柔らかい感じ
第7層系	1-1区調査区南壁断面土層 第7層系 7-1 2.5Y4/1 黄灰色粘土、N4/0 灰色ぎみ、木根を中量含む、締まり無し

図33 1-2区の基本層序(1自然流路: 調査区南壁断面土層)



図 34 2-1 区・2-3 区 1 自然流路東側肩口等断面土層実測図

箇状遺構木杭列 A・B (図 35・47、写真図版 13・14・17・32)

1-1 区 1 自然流路の南側範囲において、第6層系堆積層を掘削する過程で木杭列 A・B を検出した。木杭列 A・B は、1 自然流路の流向に対してほぼ直交する位置（木杭列 A）、あるいはやや斜行する位置（木杭列 B）にあることから水の流れを制御する機能をもつ箇状遺構と考えられる。

箇状遺構木杭列 A・B の西端側 C8b12 では、木杭列の上に第6層系堆積層下端（第6-3層）が多量の遺物と共に覆い被さる状況が確認できた（写真図版 17）。このことから、箇状遺構木杭列 A・B は、古墳時代前期の布留式併行期の遺物を伴う埋積以前の可能性が高いと考えられる。

箇状遺構木杭列 A

箇状遺構木杭列 A は、1 自然流路の東側肩口に対しほぼ直交して東南東から西北西に、西端でやや変化し流向に対してやや斜行して延び、木杭列 B と並びを同じくして、延長約 10 m 分を検出した。

箇状遺構木杭列 B

箇状遺構木杭列 B は、木杭列 A の南側に位置し、1 自然流路の東側肩口に対しやや斜行して南東から西北に、西端で木杭列 A と並びを同じくして延び、延長約 10 m 分を検出した。



図35 1-1区 1自然流路第6層系堆積層内 節状木杭列等実測図

何れの木杭列も、基本的に芯持ち材の先端部を加工し杭材として利用する。中には板材杭（WKY753・754）や建築部材垂木の転用材（W 20（WKY791））も認められるが極めて僅かである。芯持ち材は、直径3～6cm前後（W 18～20（WKY786・762・791））、直径7～10cm前後（W 21（WKY789））、直径11～14cm前後（W 22（WKY796））の太さの3グループに分けることができる。直径3～6cm前後の木杭は、1自然流路の中央から東半側かけて多用され、打ち込みの深さは約0.2～0.4m前後と比較的浅い。直径7～10cm前後の木杭は、直径3～6cmの木杭と共に1自然流路の中央に多用され、打ち込みの深さは約0.4～0.6m前後となる。直径11～14cm前後の木杭は、1自然流路の西半側に多用され、打ち込みの深さは約0.8～1.0m前後と深く堅固な状態である。

杭材に利用された樹種については、付章第1節の報告にあるように小径木はイヌマキ属・サカキ・グミ属・ツブライ・コナラ属アガシ亜属等が、中径木はタイミンタチバナ・ツブライ・スギ・コナラ属アガシ亜属・コナラ属コナラ節等が、大径木はコナラ属アガシ亜属・シャシャンボ・ツバキ属等がある。なお、筒状造構木杭列A・Bに対する横木や支え木は、確認できていない。

1 自然流路出土の木器・木製品（図45～47、出土遺物一覧、写真図版30～32）

1自然流路からは、土器、石器・石製品と共に多量の木器・木製品、木質遺物が出土した。木器・木製品、木質遺物は、第6層系堆積層に弥生時代前期・中期の土器が僅かながら伴って出土する（第6層系堆積層全体4,666点の内の52点（1.1%））ことから帰属時期を明確にできないものを含んでいる。

木器・木製品には、農具、工具、建築部材、土木材等がある。

農具には、泥除・曲柄又鍬・一本鋤・膝柄・木鍤がある。泥除（W 1:WKY722）は、イチイガシの柾目材を利用する。1～2区からの出土で、一部欠損しているが、上端に2箇所の紐孔が穿たれ、内面に隆起帶が廻る。曲柄平鍬（W 2:WKY894）は、コナラ属アガシ亜属の柾目材を利用する。全体が腐食し脆弱な状態である。曲柄又鍬（W 3:WKY714・916）は、第6層系堆積層（第6～3層）からの出土で、コナラ属アガシ亜属の柾目材を利用する。同一地点で2片に割れていたものが接合した。曲柄又鍬（W 4:WKY719）は、第4層系堆積層からの出土で、コナラ属アガシ亜属の柾目材を利用する。曲柄又鍬（W 5:WKY927）は、イチイガシの柾目材を利用する。膝柄（W 6:WKY721）は、イヌマキ属の又木材を利用する。鋤柄の握り部（W 7:WKY716）は、第4層系堆積層からの出土で、イチイガシの追柾目材を利用する。一本鋤（W 8:WKY860）は、コナラ属アガシ亜属の柾目材を利用する。柄の先や鋤先の一部を欠損する。木鍤（W 9:WKY713）は、タイミンタチバナの芯持ち丸木材を利用する。

工具には、鉄斧柄・鉄製工具柄がある。膝柄・鉄斧柄（W 10:WKY737）は、筒状造構木杭列Aに転用杭として利用されていた。サカキの芯持ち丸木材を利用する。鉄製工具柄（W 11:WKY915）は、第6層系堆積層（第6～3層）からの出土で、コナラ属コナラ節の芯持ち丸木材を利用する。鉄製の刃先を装着させる部分は、段が下げられ表面が炭化する。

建築部材には、栓・壁板・柱材がある。栓（W 12:WKY715）は、第6層系堆積層（第6～3層）からの出土で、コナラ属コナラ節の割り材を利用する。壁板（W 15:WKY720）は、第6層系堆積層（第6～3層）からの出土で、ヒノキの板目材を利用する合せ板である。一部欠損するが、実測図の上端に円孔が認められる。柱材（W 16:WKY799）は、カナメモチビワの又木を利用する。納穴部分を割り抜いた加工痕が認められ、表面の一部が炭化する。柱材（W 17:WKY797）は、ヒノキ科の大径木の割り材を利用する。上半部は、食痕と腐食が著しい。

その他、用途不明のとがり棒（W 13:WKY718）はヒノキの割り材、樹皮素材（W 14:WKY717）はサクランボ（広

義?)である。

3木組み構造物(図36、写真図版17)

3木組み構造物は、調査地の西端(O8b11南端に位置する。第6層系堆積層を掘削する過程で検出し、当該層下端(第6層系堆積層(第6-3層))に設置された構造物と考えられる。

3木組み構造物は、やや不揃いの4本の芯持材を平行ぎみに南北に並べ、東側先端部の横に木杭を伴う。機能していた段階の構造は不明であるが、本来は、丸木の東側先端部と木杭の上部を蔓紐等で結束されていた可能性が考えられる。

周辺部の第6層系堆積層の出土遺物から、3木組み構造物は古墳時代前期の布留式併行期に1自然流路が埋積する過程で構築されたと考えられる。

2自然流路(写真図版19)

2自然流路は、1自然流路に重複して位置する。2自然流路は、1自然流路より深く、規模の大きな流れを形成していたものと考えられるが、調査範囲が限られたため規模等を明確に把握することができなかつた。1自然流路の下位の基盤層W(浅黄色～灰黄色シルト)・基盤層X(青灰色粗砂礫)・基盤層Y(緑灰色～灰色粗砂)・基盤層Z(緑灰色粗砂礫層)及び基盤層Z-2(青灰色系粗砂礫層)を含んで形成されたものである。

1-1区中央部での断ち割り調査により、上位の粗砂礫層I(=基盤層Z)から弥生時代前期の壺(76・79)・紀伊形甕(80・82・84)、中期中葉の壺(94)、層厚0.3mの2.5Y系暗灰色粘泥を挟んで下位の粗砂礫層II(=基盤層Z-2)からも弥生時代前期の壺(75)、中期後半の高杯(93)、終末期の壺底部(96)等合計55点が出土した。

また、2-1区において、1自然流路及び弥生時代前期・鎌倉時代の遺構の基盤層Aの断ち割りトレチ調査を行い、1-1区の1自然流路の下位層で確認していた弥生時代前期・中期の遺物を包含する2自然流路の東側法肩と考えられる上りを2-1区の西端で確認した。

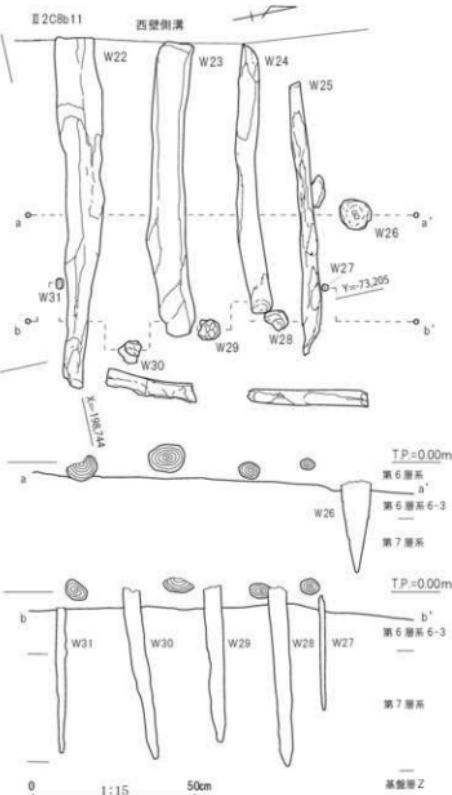
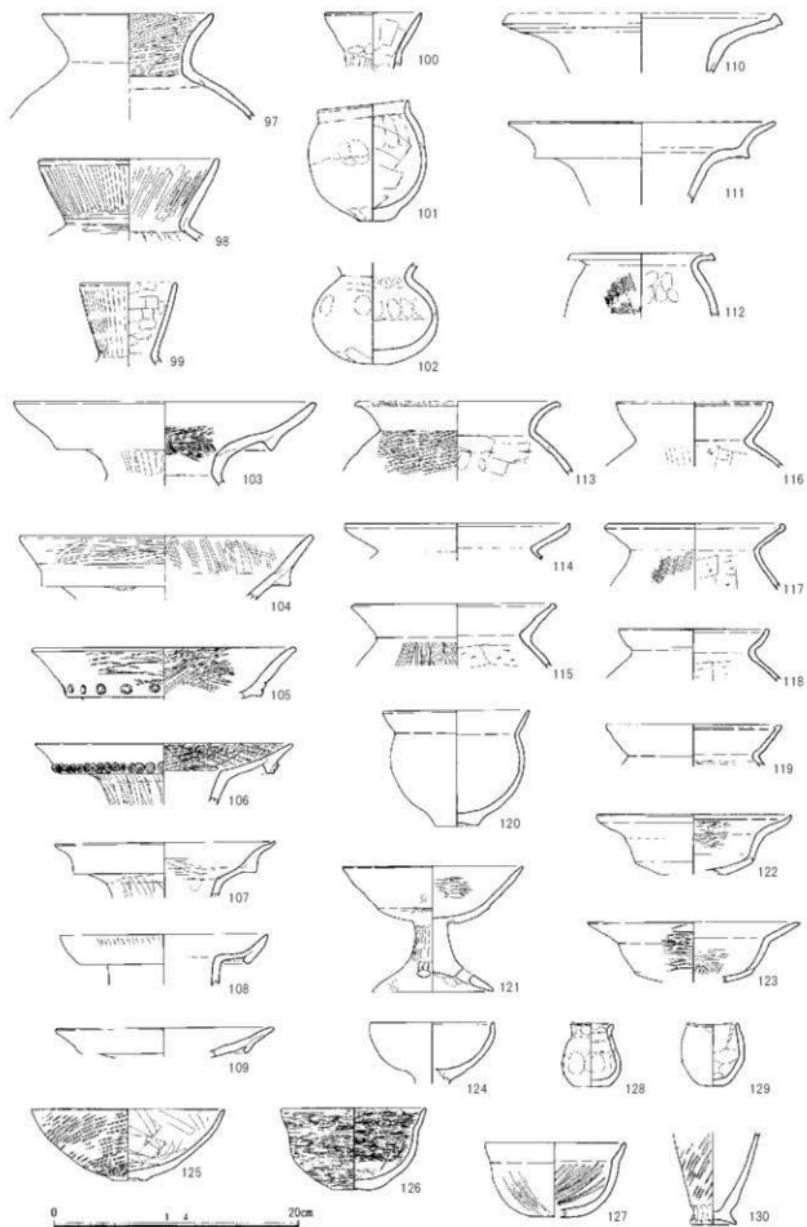


図36 1-1区 1自然流路内 3木組み構造物実測図



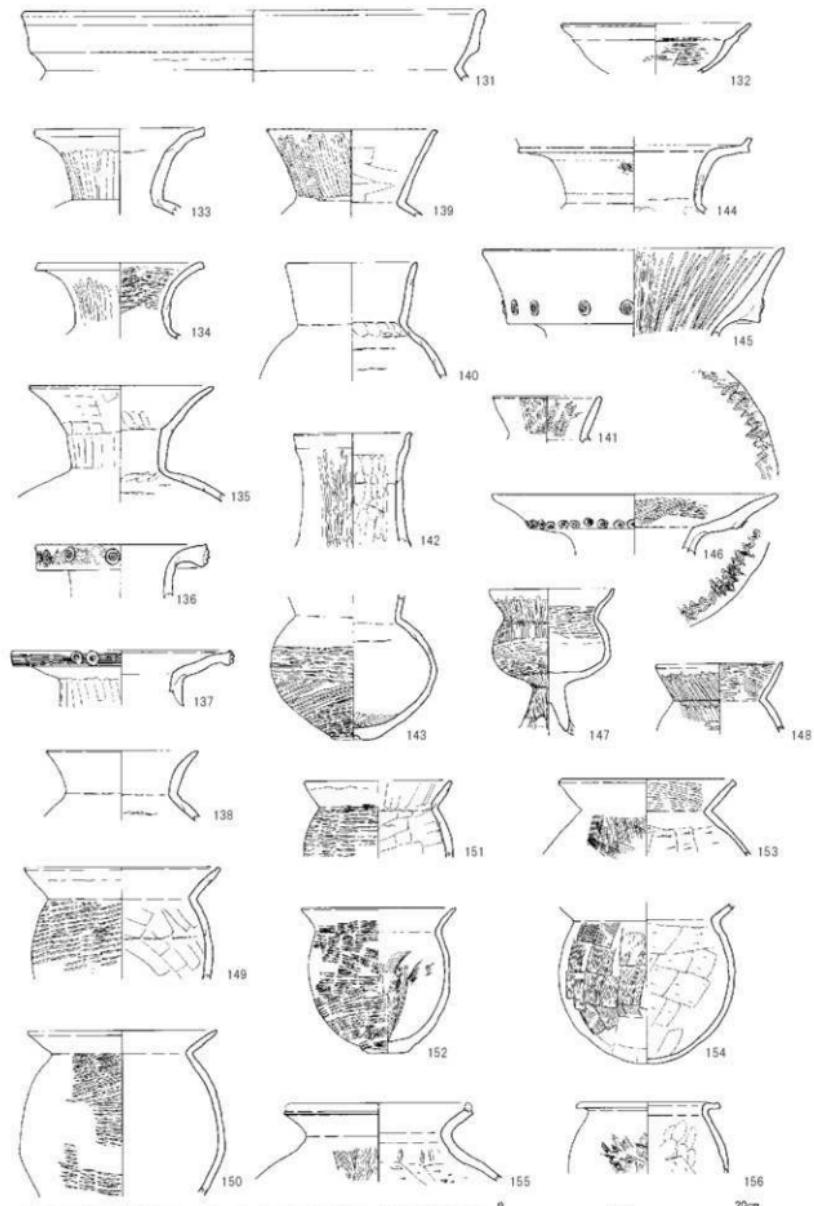
75・83・93・96：第7層系堆積層より下位の粗砂礫層目。76・79・80・82・84・88～90・92・94・95：第7層系堆積層より下位の粗砂礫層Ⅰ。77・78：第7層系堆積層。81・85：第6層系堆積層（より下位含む）。第7層系堆積層。86・87：第6層系堆積層。91：第6層系堆積層下半、基盤層Ⅱまで含む。

図37 1区 1・2自然流路出土遺物実測図



97・110・112・116・124・127・129・130：第6層系堆積層下端6-3。101・104・107・123：第6層系堆積層下半・下端。第6層系堆積層6-3。102：第6層系堆積層。第6層系堆積層6-3。103・106：第6層系堆積層下端。第7層系堆積層上端6-3。他は第6層系堆積層6-3。

图38 1区 1自然流路出土遺物実測図1



131・132：第6層堆積層6-3、133・143・151：第6層系堆積層下端。
 134・136：第5層堆積層、135・139-141・145・149・150・152-154：第6層系堆積層、137・144・148-155・156：第6層系堆積層下端。
 138：第6層系堆積層下端。第7層系堆積層上端。142：第7層系堆積層。146：第4層系堆積層。147：第6層系堆積層。
 第7層系堆積層

图39 1区 1自然流路出土遗物实测图2

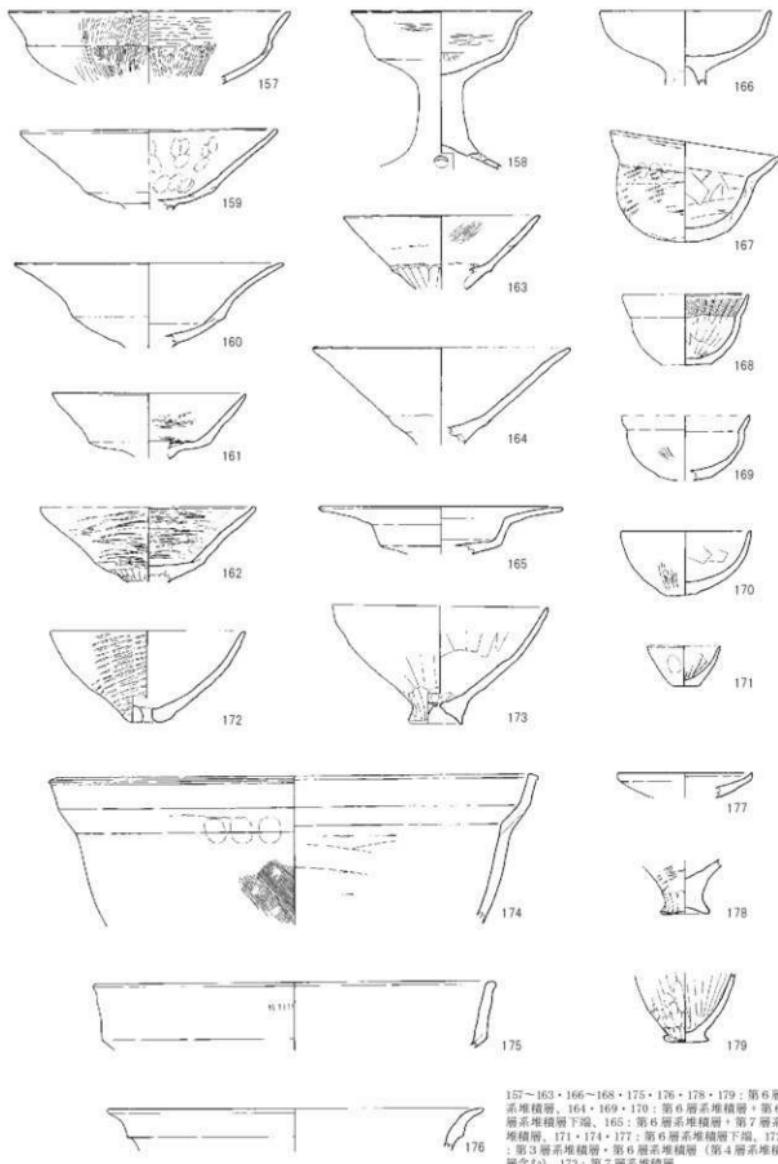


図40 1区 1自然流路出土遺物実測図3

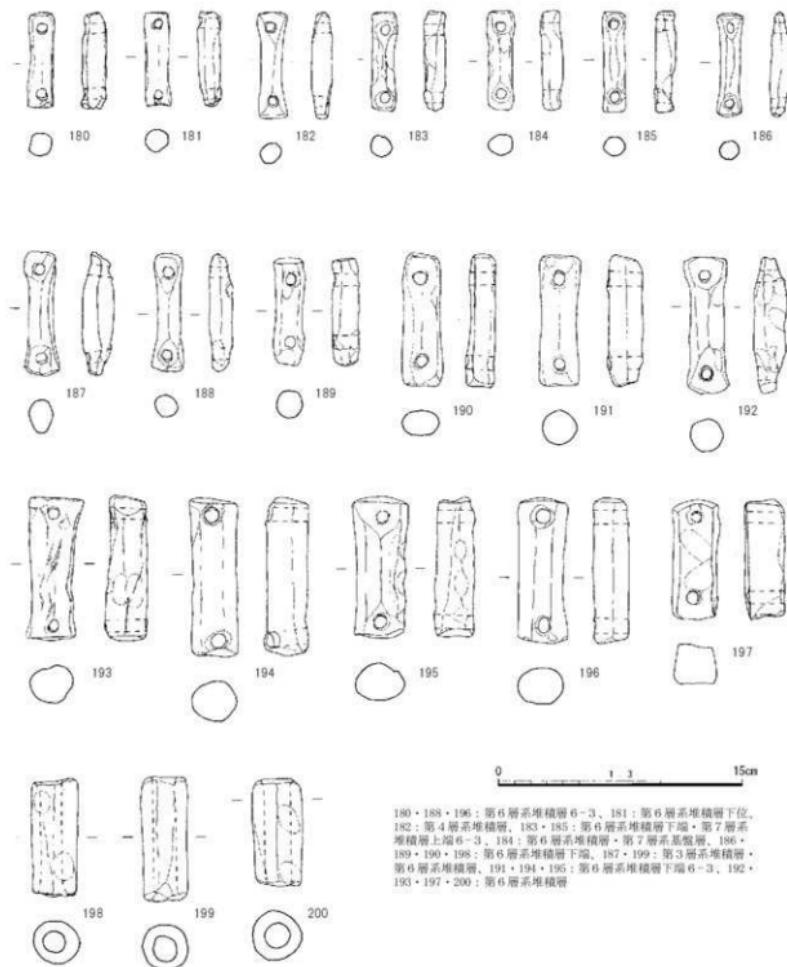
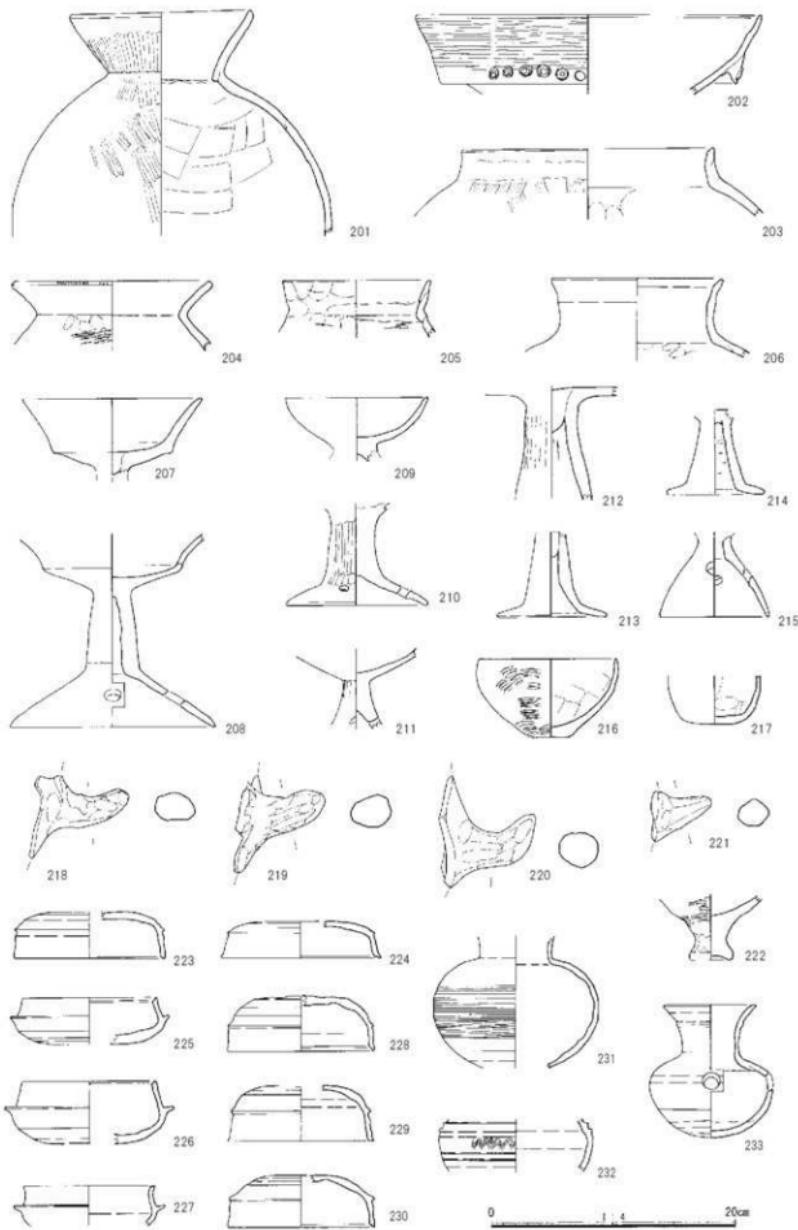
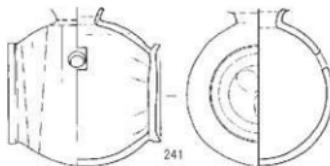
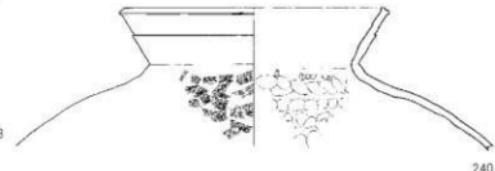
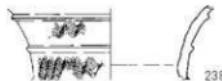
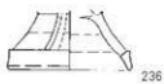
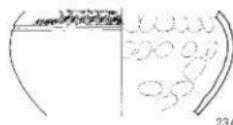


図41 1区 1自然流路出土遺物実測図4



203・205～208・214・224・227：第4層系堆積層主体・SD造構合せ、211：第4層系堆積層・第5層系堆積層、213：第3層系堆積層・第4層系堆積層、225：第2～4層系堆積層、他は第4層系堆積層

図42 1区1自然流路出土遺物実測図5

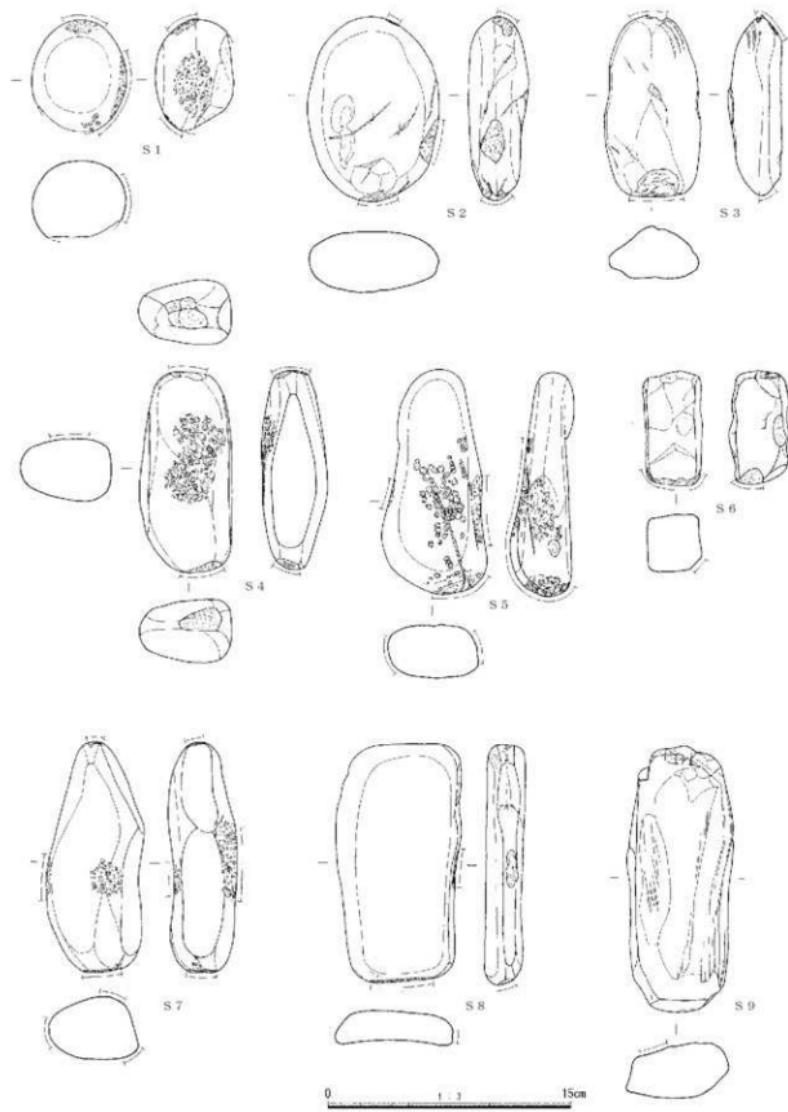


234・236・242：第4層系堆積層主体・SD遺構含む、
他は第4層系堆積帶



0 1:4 20cm

図43 1区 1自然流路出土遺物実測図6



S1 : 基盤層2に類似。(2自然流路) S2・S6 : 第6層系堆積層6-3, S3 : 第4層系堆積層。
 S4 : 第6層系堆積層下位, S5 : 第6層系堆積層下端, S7 : 第5層系堆積層, S8 : 3SD邊縁帶,
 S9 : 第6層系堆積層

図44 1区 1自然流路出土石器・石製品実測図

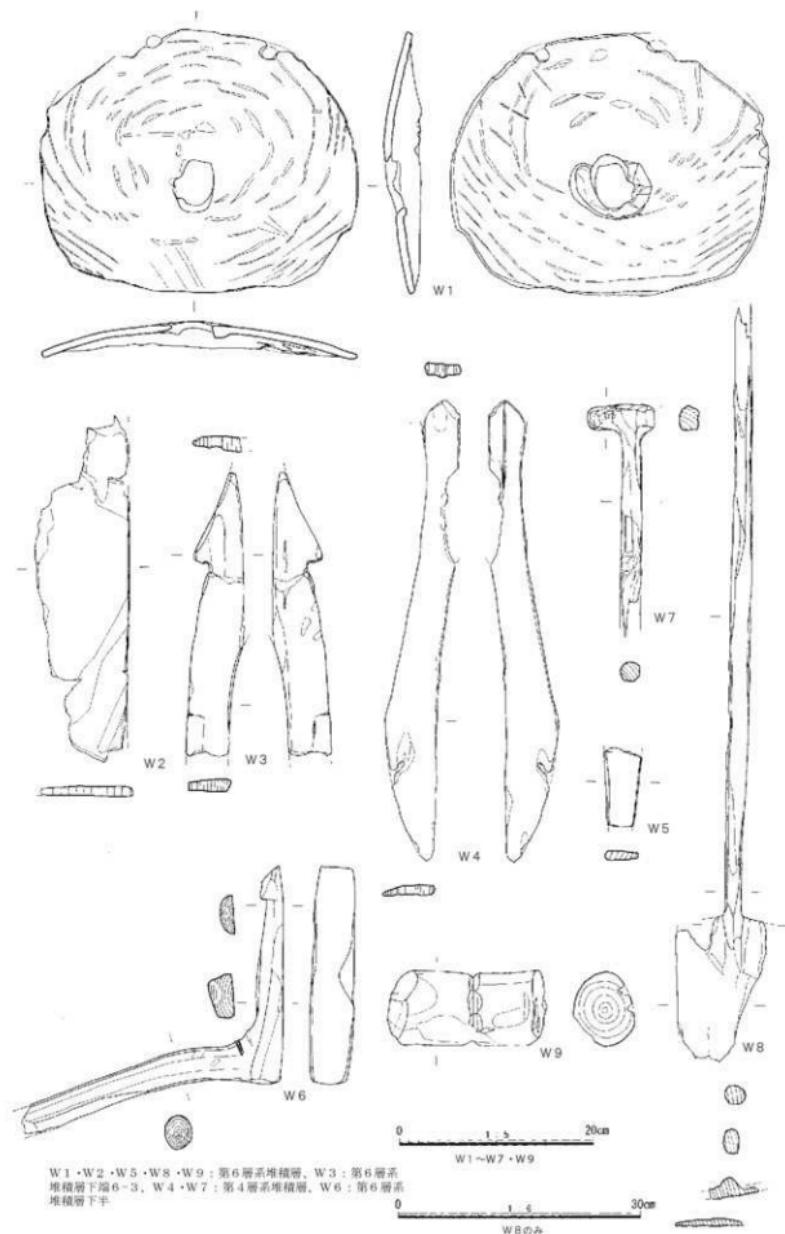


図45 1区 1自然流路出土木器・木製品実測図1

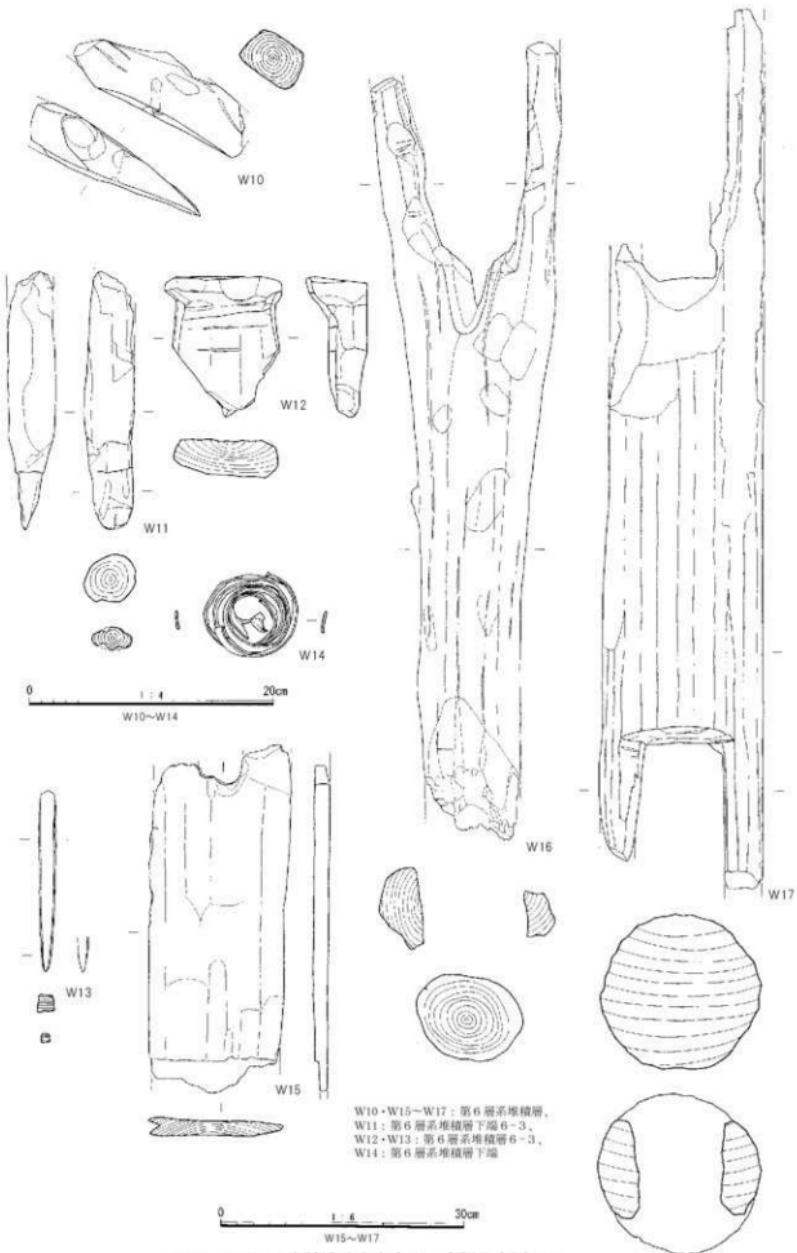
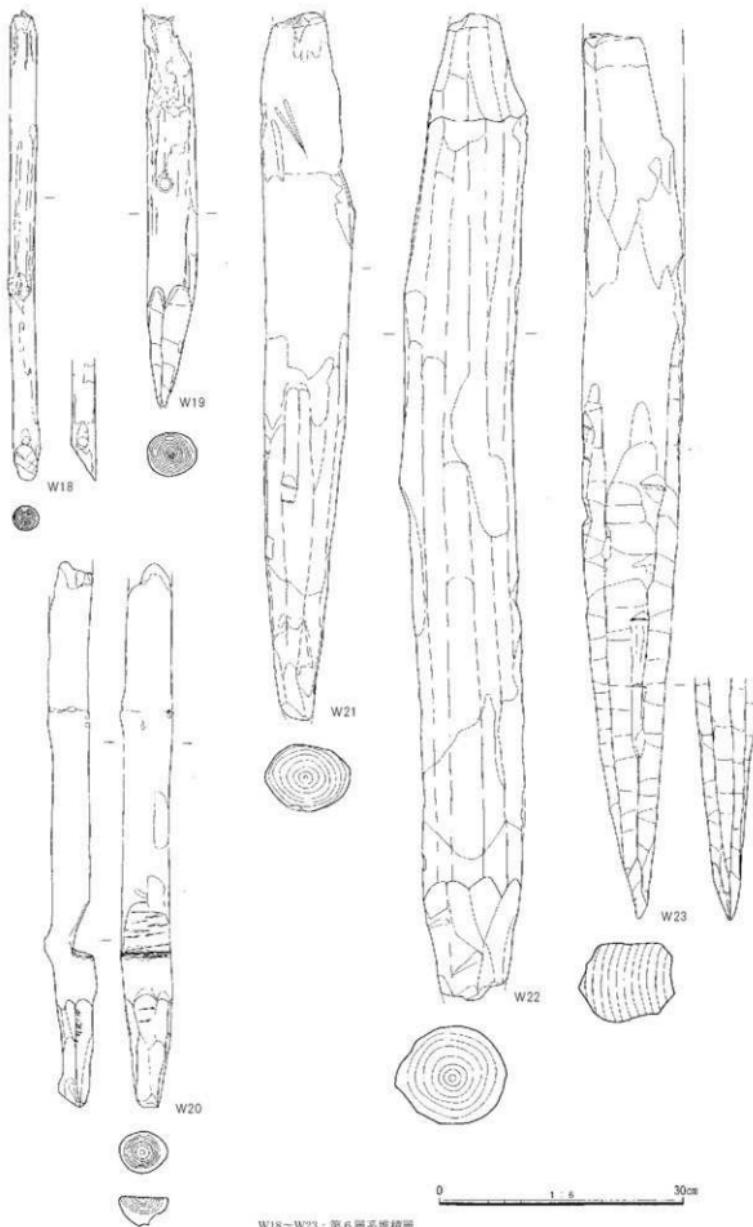


図 46 1区 1自然流路出土木器・木製品実測図 2



W18-W23: 第6層系堆積層

圖47 1區 1自然流路出土木製品實測圖

第5章　まとめ

今回の和田岩坪遺跡の調査では、大きく東側地区の2区と西側地区の1区で様相を異にすることが明らかとなった。東側地区の2区が弥生時代前期の生活域を含みつつ、主体は鎌倉時代の生活域となり、西側地区の1-1区の大半が下位層の弥生時代前期～中期・後期の遺物を含む堆積層の埋積に始まり（2自然流路）、最終埋積が鎌倉時代もしくはこれに近似する時期（1自然流路の最上層）となる自然流路の範囲に当たる。

和田岩坪遺跡周辺は、従来の地理的な理解では低湿なラグーン性低地という生活域の存在の可能性が低いものであった。しかし、今回の和田岩坪遺跡の調査では、弥生時代前期ないしは鎌倉時代の生活痕跡が明らかとなつた。また、地理的な理解の中で読み解かれていた南南西～北北東方向に流向する自然流路も検出された。さらに、東側地区的2区では、遺物の中に僅かながら古墳時代後期・奈良時代（図27-25・26）・平安時代中期の土器が見受けられることから、その時代・時期の生活痕跡の存在した証左となるところでもある。

現在においても和田川周辺は、たびたび湛水被害に見舞わられる地域である。和田遺跡を含め、弥生時代や古墳時代・奈良時代・鎌倉時代等の多くの生活痕跡が存在することから考えれば、度重なる自然流水に悩まされながらも集落を営んでいたことは想像に難くない。

弥生時代前期の遺構・遺物の意義付け

調査で検出・出土したものの中で特に目を引くものの一つが、弥生時代前期に位置付けが可能な遺構・遺物である。これらは、2-1区・2-3区の東半側に集中することになり、1-1区の1自然流路の下位層の第6層系堆積層やその下位の2自然流路の埋積層からも少ないながらもまとまりのある遺物が出土している。遺物の中には、縄文時代晩期の突帯文系土器の系譜をひく古相の紀伊形甕（図37-82）や紀伊I-2様式新相とみられる壺（76・79）、甕（81）、高坏（86）等も見受けられる。

また、弥生時代前期と判断できた多くの土坑は、143溝の東側に集中することから143溝と一連の関係性があるものと考えられる。107・109土坑を土壤墓とみた場合、143溝が墓域を区切る区画溝の一部であつた可能性の高いものである。

現在のところ、近隣の範囲で弥生時代前期の遺構・遺物が検出されているのは、和田岩坪遺跡の東側約500mに位置する和田遺跡、北東側約500mに位置する神前遺跡である。和田岩坪遺跡と類似する立地にある和田遺跡では、遺構の検出面がT.P.=0.9～1.1mとなり、和田岩坪遺跡での遺構の検出面T.P.=0.9m前後と大差ない状況にある。神前遺跡では、岩橋山塊の南西端に位置する半独立丘陵的な福飯ヶ峯（標高約102m）の南西側の丘陵裾部から沖積平野部に立地することから遺構の検出面はT.P.=2.0m前後から和田川に向かって下降する南側ではT.P.=1.30m前後となる。和田岩坪遺跡や和田遺跡より遺構の検出面が高くなり、より安定した立地に生活域を形成していたものと考えられる。

このように、従来の地理的な理解では低湿なラグーン性低地という生活域ではあるが、周辺に点在する僅かな高まりを生活域として弥生時代前期の段階ですでに人々の営みが開始されたことが明らかとなってきた意義は重要である。

なお、和田岩坪遺跡の南側に位置する坂田遺跡では、時代が下って、弥生時代終末期の庄内式併行期の土器群が初現となるが、遺構の検出面がT.P.=1.2～1.7mとなり、和田岩坪遺跡より高くなる。

自然流路の埋積状況

下位の2自然流路の粗砂礫層及び粘泥層の埋積（写真図版19）の繰り返しから取り上げた遺物群は、弥生時代前期を主体とするものの、確実に弥生時代中期後半・後期の遺物（図37）を含む状況にある。遺物は、基本的に粗砂礫層Ⅰ・Ⅱから出土し、間の粘泥層からは出土していない。これは、弥生時代後期段階に前期・中期後半の遺物包含層（もしくは遺構）もろとも押し流す土砂流のような河川堆積が調査地南側の上流側から生じた結果であると考えられる。調査できた範囲では、T.P. = -1.30 m以下に粗砂礫層Ⅱが続く河川堆積が存在する。少なくとも、大きく2回の粗砂礫層（上位の粗砂礫層Ⅰ：層厚0.20 m、下位の粗砂礫層Ⅱ：層厚0.50 m以上）の埋積が認められる。

統いて、遺物の出土量が顕著になるのが、第6層系堆積層及び第6層系堆積層（第6-3層）にみられる弥生時代終末期の庄内式併行期から古墳時代前期の布留式併行期の遺物を埋積する様相である。1区全体の遺物の中での弥生時代終末期の遺物が占める割合は、各時代の中で最も高い比率を占める（1-1区・1-2区全体で9,580点の内、6,563点（68.5%））。統いて、古墳時代前期の遺物となる。特に遺物の集中する範囲として、1自然流路の西半側があり、1自然流路以外は、東側地区の2-1区・2-2区・2-3区にも明確な遺構がない状況である。これらのことから、上位の1自然流路の埋積の主体についても、土砂流のような河川堆積が調査地南側の上流側から生じた結果であると考えられる。

最終的に遺物の埋積の多い第4層系堆積層の段階では、第5層系堆積層に植物質の根痕跡を極めて多量に含むことから、湿地状の藪みに植物群の繁殖した様相が窺い知ることができる。その上位の第4層系堆積層にみられる須恵器などの遺物と共に多量の埋積物が生じたものと考えられる。

なお、現在の和田川の水位面は、調査地北側でT.P. = -0.20 m前後となる（平成30年12月5日午前11時計測値：計測時点の潮位は考慮していない）。1-1区調査区南壁断面土層での1自然流路第7層系堆積層下端でT.P. = -0.40 m前後、1-1区調査区北壁断面土層での第7層系堆積層削除途中でT.P. = -0.50 m前後となる。

弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての土器群（図38～41、写真図版25～27）

出土遺物の内、1-1区・1-2区の1自然流路に埋積する第6層系堆積層及び第6層系堆積層（第6-3層）の同一層位で最も新しい一群を古墳時代前期の布留式併行期と認識している。但し、1自然流路の下層では、一時期古い弥生時代終末期の庄内式併行期に属すると判断できるものが主体を占める。これらは、布留式併行期の土器様相に庄内式併行期の土器様相が共存するような状況にあるが、和歌山平野の南東部の土器様式が共存するという、極端に偏在化する様相とは考え難いため従来の視点で土器を観察して大過ないものと考えた。

庄内式併行期から布留式併行期にかけての一群の土器には、搬入品として、図38-110～112・図39-155等の東阿波型土器の一群が認められる。その他、山陽・山陰の可能性が考えられる鉢（図40-176）、大和南西部と考えられる細片1点がある。なお、生駒山西麓産（河内）の土器は認められなかった。

和田岩坪遺跡発見の契機と今回の調査地との関係

ここで、今回の調査地の西側を南北方向に延びる名草川について、往時の遺跡発見の契機となった状況と今回の層序の対比を試みておきたい。昭和31年の県営和田川沿岸地盤沈下対策工事の基幹事業としての名草川改修工事（龜山陵前から和田川本流までの延長400mの新流水路の開鑿）に伴い、郷土史家

の田中敬忠（たなか よしただ）氏によって多量の遺物の出土と近接地点から削り抜き式井戸枠1基、合せ板の組み合わせ式井戸枠1基と思われるものの発見が記録されている。

田中敬忠「和田川流域の弥生式遺跡」『紀州今昔—和歌山県の歴史と民俗—』昭和54年(1979)（原文は、「和田川流域の弥生式文化遺跡について」『和歌山春秋』昭和31年(1956)）によると、「べつち山麓に近く、(中略)地表下15~60cmの地層からおびただしい土器片が出土し、さらに地表下1.5~1.8mの部分からは弥生式の壺・甕・高杯などの土器片が続々と発掘された」とある。田中氏が立ち会った地点位置は不明であるが、今回の調査地の1自然流路からさほど遠くない名草川の上流地点であると考えれば、上層が1自然流路の第4・5層系堆積層、下層が「弥生式土器」と限定していることから、弥生時代終末期から古墳時代前期の遺物を主体的に埋積する第6層系堆積層及び第6層系堆積層(第6~3層)に該当する蓋然性は高いと考えられる。この対応が妥当であるとすれば、1自然流路から南南西側約50mの名草川がやや西に屈折する地点付近(図6の「2-2区」の文字附近)と推定することができ、かなりの広範囲にわたり土砂流の埋積が生じたものと思われる。

また、和田岩坪遺跡の南東側に位置する和田II遺跡周辺においても弥生時代中期の資料が表面採取されているとの報告があり、当該期の生活痕跡の存在が濃厚と考えられることから、弥生時代集落の展開は広範囲に広がるものと考えられる。

1 自然流路出土の土錘について(図41・48、表3、写真図版27)

1自然流路からは、土器・石器・石製品・木器・木製品などと共に土錘(180~200)30点が出土した。第6層系堆積層、第6層系堆積層(第6~3層)等、共伴遺物との関係で帰属時期を明確にできないものもあるが、今回出土した土錘は形態的に共通する要素をもつため一括して取り扱うこととする。

土錘には、形態の違いから有孔土錘と管状土錘の2種類がある。各々、有孔土錘をA類、管状土錘をB類とする。有孔土錘は、扁平な隅丸長方形の延板状の両端に近い部分に紐孔を穿った形態となる。表3及び図48に示す法量と重量の分布から有孔土錘をA1類~A5類に分類することができる。各々の長さと重量は、A1類(小型)9点の長さ平均値6.2cm、重量平均値15.1g、A2類(中型)3点の長さ平均値7.1cm、重量平均値(参考値)22.6g、A3類(大型)7点の長さ平均値7.9cm、6点の重量平均値46.0g、A4類(特大型)6点の長さ平均値8.8cm、5点の重量平均値81.8g、A5類(特大型)の長さ7.35cm、重量平均値(参考値)75.0gとなる。また、B類(大型)3点の長さ平均値7.2cm、重量平均値(参考値)55.3gとなる。

これらの表と図から、長さと重量の関係において、A3類の有孔土錘とB類の管状土錘の分布領域が近接あるいは重複することになる。これらの土錘の長さと重量の差の意味するところは、取りも直さず、先行研究の成果により刺し網漁に使用される漁網の種別、もしくは漁網に装着する位置によって異なるものと考えられる。

鎌倉時代の遺構・遺物の様相

最後に、鎌倉時代の遺構・遺物について触れておくことにする。東側地区の2-1区・2-2区・2-3区で検出・出土した鎌倉時代の遺構・遺物は、少ないながらもまとまりが認められる。

2-1区で検出した鎌倉時代の13区画溝は、2-1区の調査時点では14・15土器等廃棄土坑等の配置から2-3区で東側に折れ曲がるものと推定していた。しかし、2-3区の調査によって、13区画溝は2

表3 土錘法量計測値一覧

() 付数値は、残存値を表す。

A類：有孔土錐							B類：管状土錐								
A5類：特大型							大型								
報告書番号	実測通路番号	出土通路番号	長さ (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	重量 (g)	備考	報告書番号	実測通路番号	出土通路番号	長さ (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	重量 (g)	備考
197	美156	157	7.35	2.6～2.8	2.4	75	僅かに欠損	198	美11	287	7.2	2.4～2.6	2.7～2.9	64	
								199	東143	140	7.7	2.7	2.7～2.8	52	僅かに欠損
								200	東155	162	6.7	2.85～3.0	3.0	50	僅かに欠損
平均値	—	—	7.35	2.6～2.8	2.4	75.0	1点	平均値	—	—	7.2	2.6～2.8	2.8～2.9	55.3	3点

※平均値は、小数点第2位を四捨五入
一部欠損のため参考値

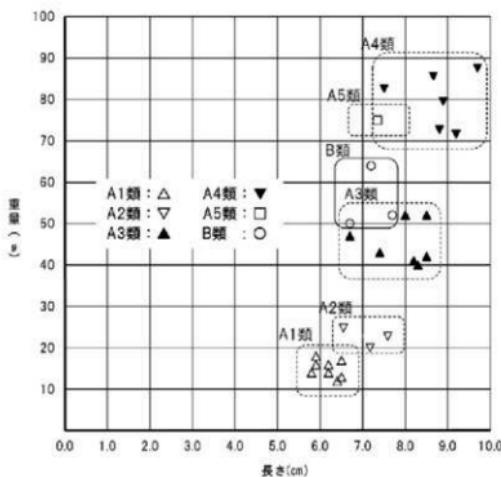


図 48 土錘の法量分布

-3区の中央で西側に折れ曲がり、112区画溝へと続き、2-3区の西端で1自然流路に最終埋積した第3層系堆積層によって削平を受けることが判明した。2-1区・2-3区内で13区画溝及び112区画溝に囲まれた範囲は、北北東-南南西方向に15.5m以上、東南東-西北西方向に14.5m以上となる。13区画溝及び112区画溝に囲まれた内側には、鎌倉時代の建物跡等、明確な遺構が検出できなかった。むしろ、2-1区の13区画溝の東側で鎌倉時代の14・15土器等廃棄土坑や16水溜・17土坑・123土坑等を検出したことから、当該期の生活域は調査地の東側に展開するものと考えられる。

では、2-1区・2-3区内で13区画溝及び112区画溝に囲まれた範囲は、何を区画していたのか。現状では、区画溝の内側に鎌倉時代の明確な遺構が検出されていないため、不明と言わざるを得ない。

また、西側の自然流路（河川）が東側と同じような平坦地になるのが鎌倉時代もしくはこれに近似する時期に入ってからであることも判明してきた。このことは、文献史料等から指摘されている和田川の築堤による当地域一帯の土地開発の安定化の時期と関係してくるものと思われる。

繰り返しになるが、文献史料では、林家所蔵文書の大治2年（1127年）「紀伊国在官人等解案」に日前宮領であった和田川の塩入常荒田を開発するため、40町余の塩除堤を築造した記録が見られる。このように、和田川周辺城は、平安時代後期に大規模な整備が行われ、それ以後、水田耕作地及び安定した居住域として利用されたと推測される。

なお、額田氏による和田条里区とされる現行の条里型地割は、南北方向の軸線からN-11° 前後-W（座標軸では、N-18° 前後-W）に偏る。2-1区検出の13区画溝は、南北方向の軸線から座標軸N-13° -Eに偏る。また、2-3区検出の103溝は、東西方向の軸線から座標軸E-11° -Sに偏る。これらのことから、今回の調査で検出した遺構は、何れも現行の条里型地割の軸線とずれることになる。

【参考文献】

- 1979 田中敬忠「和田川流域の弥生式遺跡」『紀州今昔—和歌山県の歴史と民俗—』田中敬忠先生頌寿記念会（原文は、「和田川流域の弥生式文化遺跡について」『和歌山春秋』1号 昭和31年（1956）
- 1981 『和田岩坪遺跡緊急発掘概要』和歌山市教育委員会
- 1989 中野榮治「第四章 名草郡の条理」『紀伊国の条里制』古今書院
- 1993 『木器集成図録 近畿原始編（解説）』奈良国立文化財研究所 史料第36冊 奈良国立文化財研究所
- 2002 三田郷土誌編集委員会『和歌山市 三田郷土誌』和歌山市三田地区連合自治会
- 2006 野田阿紀子「第1章 中世以前宮領の研究—百姓と職能民の世界—」『和歌山平野における莊園遺跡の復元研究—中世以前宮領の研究—』海津一朗編 課題番号15520403 平成15～17年度科学研究費補助金研究成果報告書
- 2016 樋上 昇「樹木と暮らす古代人 木製品が語る弥生・古墳時代」吉川弘文館
- 2017 田中元浩「和田盆地の開発と中世宮井水路—中世以前宮領の考古学的検討—」『紀伊考古学研究』第20号 紀伊考古学研究会
- 2017 額田雅裕「第3章 和歌山平野南部の地形と土地開発」『絵図でよむ莊園の立地と環境』古今書院（初出は、2013 額田雅裕「和歌山平野南部の地形と土地開発」『和歌山市立博物館 研究紀要28』和歌山市教育委員会）
- 2018 樋上 昇「二 木製品の組成と社会変容」『モノと技術の古代史 木器編』宇野隆夫編 吉川弘文館

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧

土器・土製品

*残存率は、図示できた遺物部位の割合

No. 1

遺物番号	特因番号	写真回数	実測遺物番号	出土遺物登録番号	地区、取上区画	遺構番号/構造部位	遺構番号/種類	遺物種類	器種	部位	残存率	備考
1	図27	圓版21	40	523	2-3区 II 288g-r 12	—	109 土枕北半側 層位-括	弥生土器	広口壺	口縁部	9%	全体に難読極めて著しいため調査不明。内面は分厚いラミガキ調査。外面は複数のハケ付調査。後付斜面のラミガキ調査の跡。口縁部には斜面と直角に矢羽根状のV字彫み有り。紀伊I-3様式。照片のため口径・底径・頸部・反転復元。
2	図27	圓版21	45	432	2-1区 II 288e16	—	12 土枕 北西半側 層位-括	弥生土器	広口壺	口縁部	10%	全体に難読極めて著しいため調査不明。内面は分厚いラミガキ調査。外面は複数のハケ付調査。後付斜面のラミガキ調査の跡。口縁部には斜面と直角に矢羽根状のV字彫み有り。紀伊I-3様式。照片のため口径・底径・頸部・反転復元。
3	図27	—	42	432	2-1区 II 288a16	—	12 土枕 北西半側 層位-括	弥生土器	広口壺	口縁部	—	全体に難読極めて著しいため調査不明。内面は分厚いラミガキ調査。外面は複数のハケ付調査。後付斜面のラミガキ調査の跡。口縁部には斜面と直角に矢羽根状のV字彫み有り。紀伊I-3様式。照片のため口径・底径・頸部・反転復元。
4	図27	圓版21	43	432	2-1区 II 288e16	—	12 土枕 北西半側 層位-括	弥生土器	壺	頸部	10%	全体に難読極めて著しいため調査不明。内面は分厚いラミガキ調査。外面は複数のハケ付調査。後付斜面のラミガキ調査の跡。口縁部には斜面と直角に矢羽根状のV字彫み有り。紀伊I-3様式。照片のため口径・底径・頸部・反転復元。
5	図27	圓版21	49	533	2-3区 II 268i12-13	—	143 滝 層位-括	弥生土器	壺	～肩部	—	肩部外側に直巻有り。全体に刻劃・難読極めて著しいため調査不明。内面は分厚いラミガキ調査。外面は複数のハケ付調査。後付斜面のラミガキ調査の跡。口縁部には斜面と直角に矢羽根状のV字彫み有り。断面・外窓のみ。
6	図27	圓版21	50	554	2-3区 II 288g11	—	143 滝 層位-分か	弥生土器	壺	体部	—	全体に難読極めて著しいため調査不明。外面は複数のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。紀伊I-3様式。照片のため底径・断面・外窓のみ。
7	図27	圓版21	39	523	2-3区 II 288g-r 12	—	109 土枕北半側 層位-括	弥生土器	壺	体部	—	全体に難読極めて著しいため調査不明。外面は複数のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。後付斜面のラミガキ調査の跡。口縁部には斜面と直角に矢羽根状のV字彫み有り。紀伊I-3様式。照片のため底径・断面・外窓のみ。
8	図27	圓版21	51	548	2-3区 II 288i12	—	143 滝 層位-括	弥生土器	壺	～体部	—	全体に難読極めて著しいため調査不明。外面は複数のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。後付斜面のラミガキ調査の跡。口縁部には斜面と直角に矢羽根状のV字彫み有り。断面・外窓のみ。
9	図27	—	44	408	2-1区 II 288g16 東北半側溝	—	遺構12 合む 層位-括	弥生土器	壺	底部	40%	全体に難読・難通しで著しいため調査不明。外面は複数のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。紀伊I-2・3様式。反転復元。
10	図27	—	41	522	2-3区 II 288g-r 12	—	109 土枕南半側 層位-括	弥生土器	壺	底部	25%	外窓全部に刻劃・難通しで著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。外窓全部に刻劃・難通しで著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。後付斜面のラミガキ調査。断面・外窓のみ。
11	図27	圓版21	46	432	2-1区 II 288g16	—	12 土枕 北西半側 層位-括	弥生土器	紀伊形壺	底部	75%	全体に難読・難通しで著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。紀伊I-2・3様式。一部反転復元。
12	図27	—	62	443	2-1区 II 288i15	—	13区画溝 層位-括	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に難通しで著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。外窓全部に刻劃・難通しで著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。断面・外窓のみ。
13	図27	—	65	530	2-3区 II 268i12-13	—	13区画溝 層位-括	弥生土器	広口壺	口縁部	20%	全体に難通し・難讀極めて著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。断面・外窓のみ。
14	図27	—	63	528	2-3区 II 268i11-12	—	112 区画溝 層位-括	弥生土器	壺	口縁部	—	全体に難通しで著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。紀伊I-3様式。断面・外窓のみ。
15	図27	—	61	442	2-1区 II 288i14	—	13区画溝 層位-括	弥生土器	壺	底部	50%	全体に難通しで著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。断面・外窓のみ。後成溝跡は良好。ロクロ回転方向:右回り。頸部に当たる部分の底面は底面が左回りで、右回りのものより底面が左回りのもの多く。反転復元。
16	図27	—	67	434	2-1区 II 288i15	—	13区画溝 層位-括	須恵器	壺	頸部	15%	全体に難通し・難讀極めて著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。断面・外窓のみ。後成溝跡は良好。ロクロ回転方向:右回り。時期比較不分明。細片のため往々結合・底径・頸部・反転復元。
17	図27	—	64	466	2-1区 II 288i13	—	13区画溝 層位-括	須恵器	环盖	口縁部	—	全体に難通しで著しいため調査不明。内面は斜面のハケ付調査。琵琶形底足→ヘラミガキ調査。断面・外窓のみ。後成溝跡はやや軟化化。ロクロ回転方向:左回り。須恵器型式2期(田辺M14・15)と同様。断面のため口径・底径・頸部・反転復元。
18	図27	—	80	452	2-1区 II 288i16	—	13区画溝 下層-括	瓦器	接	口縁部	10%	後成溝跡はまあ良好。体部の面に定名ミガキ。北野獣耳山:一期。反転復元。
19	図27	—	69	435	2-1区 II 288i14	—	13区画溝 層位-括	束縛系 須恵器	接	～底部	5%	ロクロ回転方向:右回り。時期比較不分明。細片のため往々結合・底径・頸部・反転復元。
20	図27	—	68	452	2-1区 II 288i16	—	13区画溝 下層-括	無鉢陶器 備前	鉢?	口縁部	10%	内外面に僅かに自然釉付着。口縁部外側に直巻有り。片口に近い部分の鋏刃。ロクロ回転方向:左回りか。兼同編著近世2a期か。細片のため断面・内窓のみ。
21	図27	圓版21	71	444	2-1区 II 288i16	—	13区画溝 層位-括	無鉢陶器 備前	鉢	口縁部	—	口縁部直巻やや込み有り。片口に近い部分の鋏刃。ロクロ回転方向:左回りか。兼同編著近世2a期か。細片のため断面・内窓のみ。
22	図27	圓版21	66	454	2-1区 II 288i15	—	13区画溝 下層-括	肥前系 青磁染付	縁折 皿?	口縁部	5%	難調は100Y/1 綠縞灰。断面N8/0 灰白色。江戸時代。細片のため口径・底径・頸部・反転復元。
23	図27	圓版21	79	444	2-1区 II 288i14	—	13区画溝 層位-括	肥前系 青磁染付	碗	～底部	40%	内外面に刷毛目。直巻有り。蓋付は露胎。江戸時代。細片のため口径・底径・頸部・反転復元。
24	図27	圓版21	70	442	2-1区 II 288i14	—	13区画溝 層位-括	瓦	丸瓦	丸瓦部	20%	全体に僅かに不十分。凹面に直巻有り。直巻の工具によるナデ調査。室町時代か。

遺物 番号	呼出 番号	万葉 伝承	実測遺物 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番号 堆積層番号	遺構番号・埋蔵 堆積層番号	遺物種類	器種	部位	残存率	備考	
25	図 27	—	58	490	—	2-1 区 II 289r - s16	—	16 水溜 下屨下層	土師器	皿	口縁部	—	全体にやや坐つ。全体に塵著しいた め調整不規則。奈良時代。細片のため 引き不明瞭。断面のみ。
26	図 27	—	57	489	—	2-1 区 II 289r - s16	—	16 水溜 下屨 8 層	土師器	甕	口縁部	—	全体に塵著しいため調整不規則。口 縁部内面は横位で低いハケ部調 整。瓶底は以下外面は縦位で低い ハケ部調整。奈良時代。細片のため 引き不明瞭。断面のみ。
27	図 27	圓板 21	56	448	—	2-1 区 II 289r - s16	—	16 井戸 井側内下層	瓦器	瓶	口縁部 ～体部	—	全体にならり坐つ。傳成遺存はやや 良評。体部内面にやや粗いミガキ。北野 編年中期。細片のため引き不明瞭。 断面・内面のみ。
28	図 28	—	53	545	—	2-3 区 II 286s - s11	—	148 土枕 層位一括	弥生土器	広口壺	口縁部 ～瓶部	15%	全体に制限。塵著しいため調整不規 則。内面の調整は不良。外表は板状工 具によるナデ調整不規則。記伊 II - 3 様 式か。反転復元。
29	図 28	—	74	402	2-1 区 II 286s 16	第 1 層	遺構埋土含む	弥生土器	甕	体部	—	全体に制限。塵著しいため調整不規 則。内面の調整は不良。字形か。記伊 I - 2 - 3 様式。細片のため引き不明 瞭。断面・内面のみ。	
30	図 28	—	48	408	2-1 区 II 286s 16	層位一括	遺構埋土含む	弥生土器	甕	口縁部	—	全体に塵著してあるが、土質不明 瞭。土質に 0.5 厘米の石英・石英・チャ ードを多く含む。記伊 I - 2 - 3 様式。細 片のため引き不明瞭。断面のみ。	
31	図 28	—	73	413	2-1 区 II 289t 14 - 15	第 1 層直下 基盤埋土上	遺構埋土含む	弥生土器	甕	底部	20%	全体に塵著してあるが、土質不明 瞭。内面の調整は不良。外表は不定方向 の細かいハケ部調整。字形か。記伊 I - 2 - 3 様式。 反転復元。	
32	図 28	圓板 21	78	411	2-2 区 II 286y 16	—	因 A' 甕	土師器	高环	脚台部	20%	全体に塵著してあるが、土質不明 瞭。字形で行灯吉段形。欠口有るが著しい ため複数。反転復元。	
33	図 28	圓板 21	77	411	2-2 区 II 286y 16	—	因 A' 甕	土師器	高环	脚台部	12%	全体に塵著してあるが、土質不明 瞭。布面式併行脚。細片のため引き 不明瞭。反転復元。注文併行脚	
34	図 28	—	72	414	2-1 区 II 286t 14 - s14	第 1 层直下 基盤埋土上	遺構埋土含む	瓦器	板	口縁部 ～底部 (高台部)	30%	全体に塵著してあるが、土質不明 瞭。塵著してあるが、字形か。ガキは不 明瞭。体部内面にやや粗いミガキ。北野編 年Ⅱ - 1 期。反転復元。	
35	図 28	圓板 21	55	446	2-1 区 II 286s - s16	—	16 井戸 井側内上層	瓦器	板	口縁部 ～底部 (高台部)	40%	全体にならり坐つ。傳成遺存はやや 軟質化。塵著してあるが、字形か。ガキは不 明瞭。体部内面にやや粗いミガキ。見込に 横位の凹面的文面痕があるが、瓶の貼り付 けは非常に難しく。北野編年Ⅱ - 2 期。反転 復元。	
36	図 28	—	52	542	2-3 区 II 286s - s11	—	144 土枕 半仰仰 層位一括	瓦器	板	口縁部 ～体部	10%	傳成遺存は極めて良評。塵著して あるが、字形か。ミガキは不明 瞭。北野編年Ⅱ - 2 期。細片のため引き 不明瞭。反転復元。	
37	図 28	—	54	431	2-1 区 II 288t 16	—	22 杖穴 兩半側 一括	瓦器	板	口縁部 ～体部	—	傳成遺存は極めて良評。塵著して あるが、字形か。ミガキは不明 瞭。内面にやや粗いミガキの痕跡。北野編 年Ⅱ - 2 期。細片のため引き不明瞭。断面・ 内面のみ。	
38	図 28	—	75	422	2-1 区 II 288t 13	第 1 層直下 基盤埋土上	遺構埋土含む	土師器	土釜	口縁部 ～瓶部	—	全体にやや坐つ。細部外面上に保護 する。全体に塵著してあるが、調査不 明瞭。鍍金時。細片のため引き不明 瞭。内面のみ。	
39	図 28	圓板 21	47	412	2-1 区 II 289r - s15	第 1 层直下 基盤埋土上	遺構埋土含む	瓦器	甕	口縁部 ～瓶部	8%	傳成遺存はやや坐ち。細部外面上に保 護する。全体に塵著してあるが、調査不 明瞭。鍍金時。細片のため引き不明 瞭。内面のみ。	
40	図 28	—	60	513	2-3 区 II 289t 11 - s12	—	106 滝 上層一括	瓦器	甕	瓶部 ～体部	—	傳成遺存はやや坐ち。細部外面上に保 護する。全体に塵著してあるが、調査不 明瞭。鍍金時。細片のため引き不明 瞭。内面のみ。	
41	図 28	圓板 21	59	513	2-3 区 II 289t 11 - s12	—	106 滝 上層一括	無地陶器 備前	罐体	体部	—	東周羅斗型式不明。室町時代か。細片 のため引き不明瞭。内面灰本のみ。	
42	図 28	圓板 21	76	417	2-1 区 II 288t 15	第 1 层直下 基盤埋土上	遺構埋土含む	無地陶器 備前	罐体	口縁部	8%	クロ口回転方向: 右回り。東周羅年中 世 50 年。細片のため口徑・引き不明瞭。 反転復元。	
43	図 28	圓板 22	89	496	2-1 区 II 289r - s14	—	14 - 15 土枕 北半側 4 層下	土師器	小皿	口縁部 ～底部	63%	全体にやや坐つ。全体に塵著してある が、字形か。ミガキは不明瞭。奈良時代。	
44	図 28	圓板 22	82	480	2-1 区 II 289r - s14	—	14 - 15 井戸 南半側 4 層	瓦器	小皿	口縁部 ～底部	85%	全体にやや坐つ。傳成遺存はやや軟質 化。全体にやや塵著さみのため調査不 明瞭。近世遮蔽面に粘土の難合痕有り。 繩文時代。	
45	図 28	圓板 22	81	479	2-1 区 II 289r - s14	—	14 - 15 井戸 南半側 4 層	瓦器	小皿	口縁部 ～底部	65%	全体にやや坐つ。傳成遺存はやや軟質 化。外表に多角的凹面的文面痕有り。 跡は横位で低いハケ部調整。後口縁部 はコニカ調整。外表は行灯タキ印跡。後 に縫合跡はヨコナダ調整。鍍金時。細片 のため引き不明瞭。断面・外面灰本のみ。	
46	図 28	圓板 22	85	486	2-1 区 II 289r - s14	—	14 - 15 土枕 北半側 4 層下	瓦器	小皿	口縁部 ～底部	65%	全体にやや坐つ。傳成遺存はやや軟質 化。全体にやや塵著さみのため調査不 明瞭。近世遮蔽面に粘土の難合痕有り。 繩文時代。	
47	図 28	圓板 22	84	483	2-1 区 II 289r - s14	—	14 - 15 井戸 北半側 3 層下	瓦器	小皿	口縁部 ～底部	60%	全体にやや坐つ。傳成遺存はやや良評。 外表に多角的凹面的文面痕有り。 跡は横位で低いハケ部調整。後口縁部 はコニカ調整。鍍金時。	
48	図 28	圓板 22	83	487	2-1 区 II 289r - s14	—	14 - 15 土枕 北半側 5 層	瓦器	小皿	口縁部 ～底部	100%	全体にやや坐つ。傳成遺存はやや良評。 外表に多角的凹面的文面痕有り。 跡は横位で低いハケ部調整。後口縁部 はコニカ調整。鍍金時。	

遺物 番号	時代 区分	万葉 登録番号	実物番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番 号・埋 植構造	遺構番号・埋 植構造	遺物種 類	器種	部位	残存率	備考	
49	図 28	圓版 22	86	479	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 南半側 3 層	土師器	皿 口縁部 ~底部	58%	全体に磨滅著しいため調査不正確、体 部外表面は通する小ビッチの 2 段のユ ビオサエ、縫合時代、一部反転丸元	
50	図 28	圓版 22	87	483	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 土杭 北半側 上層下位 3 層下位	土師器	皿 口縁部 ~底部	90%	全体に磨滅著しいため調査不正確、体 部外表面は通する小ビッチの 2 段のユ ビオサエ、縫合時代	
51	図 28	圓版 22	88	477-8	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 上層下位 3 層	土師器	皿 口縁部 ~底部	70%	全体に磨滅著しいため調査不正確、 底部表面は直角無切り目、鋸歯部は 斜め切られたため粘土色のみ出しており、鋸 歯部は削除	
52	図 28	圓版 22	107	486	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 土杭 北半側 4 層下半	白磁	碗 ~底部	40%	全体に細かい入れ目有り、腹部外面 から底面表面にかけて露出し、露出し部は カンナ式によるケリ底、高部はカンナ式 によるスリスリ出し、縫合時代、V 1a 項 か、反転丸元	
53	図 28	圓版 22	90	486	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 北半側 4 層下半	滑生土器	器台形 土器	口縁部 ~底部	60%	全体にやや凹、全体、やや磨滅著 しいため調査、全体の表面は直角無 切り目で、底部表面は斜め切られたため から一部の土器はやうす利と特徴
54	図 28	—	106	427	—	2-1 区 II 288r- s14	—	井戸側 内南半側 上層	須恵器	口縁部 ~底部	5%	肩部は全体外表面自然離脱せらる に付着する。口クロロ開口向右回り、陶 色編年 II 式第 2 期(縫合 T 型式)か、 細片のみ口縁部、鋸歯不正確、反転復 元	
55	図 28	圓版 22	96	477-9 428	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 上層下位 3 層	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	90%	焼成過程でやや変形有り、全体に磨滅著 しいた調査、縫合、ミガキは不明瞭、 体部内部のミガキは下半にやや細く、見 込込は平行線状の縫合の語文、体部外表面 は通する小ビッチの 2 段のユビオサ エ、北野編年 II -2 期	
56	図 28	圓版 22	98	486 484 485	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 北半側 3 層	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	70%	全体に細みやや薄し、焼成過程はま ま良好、体部内部のミガキは粗く、見 込込は平行線状の縫合の語文、体部外表面 は通する小ビッチの 2 段のユビオサ エ、北野編年 II -2 期	
57	図 28	圓版 22	94	477-11	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 上層下位 3 层	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	70%	焼成過程でやや変形有り、全体に磨滅著 しいた調査、縫合、ミガキは不明瞭、 体部内部のミガキは半下にやや細く、見 込込は平行線状の縫合の語文、体部外表面 は通する小ビッチの 2 段のユビオサ エ、北野編年 II -2 期	
58	図 28	圓版 22	92	480 481	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 南半側 4 層	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	50%	焼成過程はまま良好、体部内部の ミガキは粗く、見込込は平行線状の縫合 の語文、体部外表面は通する小ビッチ の 2 段のユビオサエ、北野編年 II -2 期 、一部反転復元	
59	図 28	圓版 22	97	484	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 土杭 北半側 3 层	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	90%	全体に細みやや薄し、焼成過程はま ま良好、体部内部のミガキは粗く、見 込込は平行線状の縫合の語文、体部外表面 は通する小ビッチの 2 段のユビオサ エ、北野編年 II -2 期	
60	図 28	—	93	485	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 土杭 北半側 4 層上半	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	60%	全体に細みやや薄し、焼成過程はま ま良好、体部内部のミガキは粗く、見 込込は平行線状の縫合の語文、体部外表面 は通する小ビッチの 2 段のユビオサ エ、北野編年 II -2 期	
61	図 28	圓版 23	101	480 481	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 南半側 4 層 南半側 基底部	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	55%	焼成過程はまま良好、体部内部の ミガキは粗く、見込込は平行線状の縫合 の語文、体部外表面は通する小ビッチ の 2 段のユビオサエ、北野編年 II -1 期	
62	図 28	圓版 23	100	477-29 483	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 上層下位 3 层 14・15 土杭 北半側 上層下位 3 层下位	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	70%	焼成過程はまま良好、全体にやや磨滅著 しいため調査、縫合、ミガキは不明瞭、 体部内部のミガキは粗く、見込込は平行 線状の縫合の語文、体部外表面は通する 小ビッチの 2 段のユビオサエ、北野 編年 II -1 期	
63	図 28	—	99	487	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 土杭 北半側 5 层	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	30%	焼成過程はまま良好、全体にやや磨滅著 しいため調査、縫合、ミガキは粗く、見 込込は平行線状の縫合の語文、体部外表面 は通する小ビッチの 2 段のユビオサエ、 北野編年 II -1 期	
64	図 28	圓版 23	91	480 479	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 南半側 4 层	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	70%	全体に細みやや薄し、焼成過程はま ま良好、全体に磨滅著しいため調査、縫合、 ミガキは不明瞭、体部内部のミガキは やや粗く、見込込は平行線状の縫合の語 文、体部外表面は通する小ビッチの 2 段の ユビオサエ、北野編年 II -2 期	
65	図 28	圓版 23	95	477-20	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 上層下位 3 层	瓦器	碗 口縁部 ~底部 (高台部)	60%	焼成過程はまま良好化、全体に磨滅著 しいため調査、縫合、ミガキは粗く、見 込込は平行線状の縫合の語文、体部外表面 は通する小ビッチの 3 段のユビオサエ、 北野編年 II -2 期	
66	図 29	圓版 23	108	477-3 477-4 477-5 477-12 427	—	2-1 区 II 288r- s14	—	14・15 井戸 上層下位 3 层	土師器	土釜 口縁部 ~底部	60%	外表面全体に煤垢付着する。体部内面 下半は黒け付きのため暗褐色する。体 部内面は当ててある 10cm の外壁。 体部内面のミガキは粗く、見込込は平行 線状の縫合の語文。体部外表面は通する 小ビッチの 3 段のユビオサエ、北野編 年 II -1 期	

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧

土器・土製品

* 残存率は、図示できた遺存部位の割合

No. 4

遺物 番号	時代 区分	万葉 登録番号	実物番 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番 号・埋 植構造	遺構番号・埋植 構造	遺物種 類	器種	部位	残存率	備考
67	國 29	—	109	477-22 477-24 477-23 468	2-1 区 II 289r. -s14 II 289r. -s14 II 289r. -s14	—	14・15 井戸 上層下位 3層 14・15 井戸? 北半側 上層下位一括	土器器	土釜	口縁部 ～体部	20%	外周全体に煤滓く付する。体部内面 は当面及びユビオサエによる凹凸痕。 外周はユビオサエ痕、脚はさき 0.5 cm 前 Ⅲ-1 施工。北野焼年 II-2 期に対応。反転復元
68	國 29	國版 23	110	477-28 477-14 483	2-1 区 II 289r. -s14 II 289r. -s14 II 289r. -s14	—	14・15 井戸 上層下位 3層 北半側 上層下位。3 層下 位	土器器	土釜	口縁部 ～体部	40%	全体に凹み有り。外周全体に煤滓 く付する。体部内面は当面及びユ ビオサエによる凹凸痕。外周はユビ オサエ痕、脚はさき 0.3 ~ 0.5 cm の幅の 凹凸痕。脚は高さ 1.1 cm 前後の断面二 等辺三脚形。鍾倉時代。北野焼年 II-1 期に対応。反転復元
69	國 29	—	111	486	2-1 区 II 289r. -s14	—	14・15 土杭 北半側 4 層下半	土器器	土釜	口縁部 ～体部	20%	全体に強く二次焼成を受ける。全体に 凹凸痕。脚はさき 0.3 cm の幅の凹凸痕。 体部内面は当面と異なる凹凸痕。外周は 調整不良。脚は高さ 1.1 cm 前後の断面二 等辺三脚形。鍾倉時代。北野焼年 II-2 期に対応。反転復元
70	國 29	國版 23	112	477-1 477-2 477-3 483	2-1 区 II 289r. -s14 II 289r. -s14 II 289r. -s14	—	14・15 井戸 上層下位 3層 南半側 上層下位 3 層下位	土器器	土釜	口縁部 ～体部	80%	外周全体に煤滓く付する。体部内面 は当面及びユビオサエによる凹凸痕。 脚部には凹い内部形状は板状である。具による 凹凸痕。脚はさき 0.3 cm の幅の凹 凸痕。脚は高さ 1.1 cm 前後の断面二 等辺三脚形。鍾倉時代。北野焼年 II-1 期に対応。一部反転復元
71	國 29	國版 23	104	477-7	2-1 区 II 289r. -s14	—	14・15 井戸 上層下位 3 层	束縛系 須恵器	程鉢	口縁部 ～底部	25%	焼成過程はまだ良好。ロクロ回転方向： 右回り。口縁部端面には浅い舟形痕。外周は 第Ⅱ期前 2 段階。反転復元。
72	國 29	國版 23	105	477-6	2-1 区 II 289r. -s14	—	14・15 井戸 上層下位 3 层	束縛系 須恵器	程鉢	口縁部 ～体部	12%	焼成過程はまだ良好。ロクロ回転方向： 右回り。口縁部端面には重ね舟形痕。 第Ⅱ期前 2 段階。絹片のため焼き不 明。反転復元。
73	國 29	國版 23	103	485	2-1 区 II 289r. -s14	—	14・15 土杭 北半側 4 層上半	瓦器	甕	口縁部 ～瓶部	5%	ロクロ回転方向。左回り。頭部から口 縁部外周は端面の平行タキリ彫形と異 なる方向でタキリ彫形。口縁部内面に も同様のタキリ彫形。後に頭部ヨコナ デ調節。鍾倉時代。絹片のため口径、 引き不不明。反転復元。
74	國 29	—	102	481	2-1 区 II 289r. -s14	—	14・15 井戸 南半側 5 層 基底部	瓦器	甕	瓶部 ～肩部	—	焼成過程はやや軟化現象。肩部内面は当 面と異なる凹凸痕。脚部には凹い内部 形状。外周は上がり引ひの平行タキリ彫形、 後に頭部ヨコナデ調節。鍾倉時代。絹片 のため引き不不明。断面のみ。
75	國 37	國版 24	36	343	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路の下位 第 7 層系より下 の粗砂礫層	共生土器	甕	瓶部 ～体部	8%	全体に磨耗著しいため調整不分明。体 部内面はユビオサエ・ユビオサエ調節。 体部外周はヘラミキヨウ形の脚跡、記 号のため引き不不明。絹片のみ。
76	國 37	國版 24	24	342	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗砂礫層	共生土器	甕	瓶部 ～体部	8%	全体に剥離・暴落著しいため調整不分明。 瓶部内面はヒボニヤサエ調節。肩 部以下部には不定方向のハバケ調節。 瓶部は脚位の細かいハケメ調節。後に 墨書き墨文。記号のため引き不不明。絹 片のみ。
77	國 37	國版 24	20	340	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路 第 7 层系 断続	共生土器	広口甕	口縁部	—	全体に剥離・暴落著しいため調整不分明。 体部外周は墨書き墨文に複数のため目印。 脚部外周に墨書き墨文の入り交えに斜格 子のため引き不不明。記号のため引き不 明。絹片のみ。
78	國 37	國版 24	21	340	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路 第 7 层系 断續	共生土器	甕	体部	—	全体に剥離著しいため調整不分明。記 号伊 I-2 様式か、絹片のため引き不不明。 断面のみ。
79	國 37	—	25	342	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗砂礫層	共生土器	甕	体部	—	全体に剥離著しいため調整不分明。記 号伊 I-2 様式か、絹片のため引き不不明。 断面のみ。
80	國 37	—	29	342	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗砂礫層 I	共生土器	紀伊形甕	口縁部 ～瓶部	5%	全体に剥離著しいため調整不分明。口 縁部内面に丁寧なヨコナデ調節。記 号伊 I-2 様式か、絹片のため引き不 明。絶壁のみ。
81	國 37	國版 24	174	262	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路 第 6 层系 (より下位合む) 第 7 层系	共生土器	甕	口縁部 ～体部	9%	全体に剥離著しいため調整不分明。口 縁部内面に丁寧なヨコナデ調節。記 号伊 I-2 様式か、絹片のため引き不 明。絶壁のみ。
82	國 37	國版 24	23	342	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗砂礫層 I	共生土器	紀伊形甕	口縁部	—	全体に剥離著しいため調整不分明。内 外周部は左上がり斜位のハケメ調節。 脚部は大の石窓。結晶片の粗面が多い 含む。記号伊 I-2 様式。
83	國 37	—	33	343	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗砂礫層 II	共生土器	紀伊形甕	口縁部	—	全体に剥離著しいため調整不分明。口 縁部内面共に丁寧なヨコナデ調節。 記号伊 I-2 様式か、絹片のため引き不 明。
84	國 37	—	30	342	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗砂礫層 II	共生土器	紀伊形甕	口縁部	—	全体に剥離著しいため調整不分明。内 外周部は左上がり斜位のハケメ調節。記 号伊 I-2 様式か、絹片のため引き不 明。
85	國 37	國版 24	175	262	1-1 区 II 208a12	—	1 自然流路 第 6 层系 (より下位合む) 第 7 层系	共生土器	甕	口縁部 ～体部	9%	全体に剥離著しいため調整不分明。体 部外周は左上がり斜位のハケメ調節の 僅かな痕跡。内面は調整不分明。記号伊 I-2 様式新組か。絹片のため口径・引き 不分明。反転復元。

* 残存率は、図示できた遺存部位の割合

No. 5

遺物 番号	時代 区分	万葉 登録番号	実物登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番 号・埋 植部位	遺構番号・埋植 部位	遺物種 類	器種	部位	残存率	備考
86	国 37 国版 24	17	242	II-1 区 II 2C8a13	—	—	1 自然流路 第 6 層系	弥生土器	高环	口縁部 ～脚部	80%	H 部内部の約 1/4 及びそれに対応する外側の約 1/4 に亘る表面に、全体に施された彫刻。後には下部内部に脚台部が設けられ、脚台部外側に外側に位する丁寧な彫かいヘラミガキ調整。紀伊 I - 2 - 3 様式。
87	国 37 国版 24	176	242	II-1 区 II 2C8a13	—	—	1 自然流路 第 6 層系	弥生土器	脚台部	脚台部	100%	外側の約 4/5 に黒斑有り、全体に磨滅著しいため調整不正確。外側は底位のヘラミガキ調整の跡かな痕跡。脚台部内側に施された彫刻。紀伊 I - 2 - 3 様式、一部反転復元。
88	国 37 国版 24	27	342	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路の下位 第 7 層系より下 の粗妙彫留 I	弥生土器	甕	底部	50%	全体に磨滅著しいため調整不正確。外側はユコサエ・ユビナデ調整。外側は板状工具による粗妙彫留のナメ調整。紀伊 I - 2 - 3 様式、反転復元。
89	国 37 国版 24	26	342	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路の下位 第 7 層系より下 の粗妙彫留 I	弥生土器	甕	底部	40%	全体に磨滅著しいため調整不正確。底部外側に施された彫刻はハマガキ調整。全体に磨滅著したため粗妙彫留不正確。底部内側はユコサエ・ユビナデ調整。外側は板状工具による粗妙彫留のナメ調整。紀伊 III - 1 様式か、反転復元。
90	国 37 国版 24	28	342	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路の下位 第 7 層系より下 の粗妙彫留 I	弥生土器	(紀伊形) 甕	口縁部 ～体部	9%	口縁部下外面に僅く付着。内面は赤分色の着色で施されたため調整不正確。外側は板状工具による粗妙彫留のナメ調整。紀伊 IV - 1 様式か、反転復元。
91	国 37 国版 24	173	318	II-1 区 II 2C8a13	—	—	1 自然流路 第 6 層系下半 基盤部 Z 面で含む	弥生土器	甕	口縁部 ～体部	10%	口縁部下外面に僅く付着。内面は赤分色の着色で施されたため調整不正確。外側は板状工具による粗妙彫留のナメ調整。紀伊 IV - 1 様式か、反転復元。
92	国 37 国版 24	32	342	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗妙彫留 I	弥生土器	甕	口縁部 ～体部	10%	全体に磨滅著したため調整不正確。全体内側はユビナデ。ユビナデ調整。後には下部内部に施された彫刻はハマガキ調整。外側は板状工具による粗妙彫留のナメ調整。紀伊 III - 1 様式か、反転復元。
93	国 37 —	38	343	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗妙彫留 I	弥生土器	高环	外部 口縁部	8%	全体に磨滅著したため調整不正確。外側は横位の丁寧なラミガキ調整。紀伊 IV - 1 様式。照片のため口径不正確。反転復元。
94	国 37 —	31	342	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗妙彫留 I	弥生土器	広口甕	口縁部	—	全体に磨滅・磨滅著したため調整不正確。口縁部周囲に施された彫刻はハマガキ調整。外側は板状工具による粗妙彫留のナメ調整。紀伊 III - 1 様式か、反転復元。
95	国 37 国版 24	22	341	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗妙彫留 I 基盤部 Z か?	弥生土器	高环	外部	25%	全体に磨滅は極めて良好堅好。外側共に強めの丁寧なラミガキ調整。紀伊 IV - 2 様式。
96	国 37 国版 24	37	343	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路の下位 第 7 层系より下 の粗妙彫留 I	弥生土器	甕	底部	70%	全体に磨滅著したため調整不正確。内面は不同方向のカケメ調査の痕跡。外側は強めの丁寧なラミガキ調整。内面は底部に施された彫刻はハマガキ調整。庄内式復行期。反転復元。
97	国 38 国版 25	198	193 171 173 138	II-1 区 II 2C8a12 北東端 II 2C8a11 II 2C8a11 北端 II 2C8a11	—	—	1 自然流路 第 6 層系下端 6-3 第 6 層系下端 第 7 层系上端 6-3 6-37 第 6 層系	弥生土器	広口甕 (直口甕)	口縁部 ～体部	67%	全体に磨滅著したため調整不正確。口縁部内側に施された彫刻はハマガキ調整。口縁部外側に施された彫刻はヘラミガキ調整。肩部から全体前面は右上上がり斜めのラミガキ調整の跡跡。内面は不規。庄内式復行期。一部反転復元。
98	国 38 国版 25	15	321	II-1 区 II 2C8a13 北端	—	—	1 自然流路 第 6 层系 6-3	土器	太頸甕	口縁部 ～體部	95%	口縁部内外両面に施された丁寧な太いヘラミガキ調整。肩部から外側面部は右上へラミガキ調整。布留式復行調査。布留式古墳調査。
99	国 38 国版 25	203	321	II-1 区 II 2C8a13 北端	—	—	1 自然流路 第 6 层系 6-3	弥生土器	小型長颈甕	口縁部 ～體部	40%	全体に磨滅著したため調整不正確。口縁部内側に施された彫刻はハマガキ調整。外側はヨリナデ調査。後に位する丁寧なヘラミガキ調整。庄内式復行期。反転復元。
100	国 38 国版 25	204	198	II-1 区 II 2C8a11 北西半	—	—	1 自然流路 第 6 层系 6-3	弥生土器	小型直口甕	口縁部 ～體部	20%	全体に磨滅著したため調整不正確。口縁部内側に施された彫刻はハマガキ調整。外側はヨリナデ調査。後に位する丁寧なヘラミガキ調整。庄内式復行期。反転復元。
101	国 38 国版 25	4	251	II-1 区 II 2C8a11 南端	—	—	1 自然流路 第 6 层系下 下 - 下端 + 第 6 层系 6-3	弥生土器	小型甕	口縁部 ～底部	90%	全体に磨滅・磨滅著したため調整不正確。体部内側に施された彫刻はハマガキ調整。内面は底部に施された彫刻はヘラミガキ調整。庄内式復行期。
102	国 38 国版 25	2	261	II-1 区 II 2C8a11 南西隅	—	—	1 自然流路 第 6 层系 + 第 6 层系 6-3	土器	小型甕	體部 ～底部	60%	全体に磨滅著したため調整不正確。体部内側に施された彫刻はハマガキ調整。内面は底部に施された彫刻はヘラミガキ調整。庄内式復行期。
103	国 38 国版 25	191	171 138	II-1 区 II 2C8a11 II 2C8a11	—	—	1 自然流路 第 6 层系下端 第 7 层系上端 6-3? 6-37 第 6 层系	弥生土器	二重口縁甕	口縁部 ～體部	45%	全体に磨滅・磨滅著したため調整不正確。内面は底部に施された彫刻はハマガキ調整。内面は底部に施された彫刻はヘラミガキ調整。庄内式復行期。反転復元。
104	国 38 —	14	251	II-1 区 II 2C8a11 南端	—	—	1 自然流路 第 6 层系 下半 - 下端 + 第 6 层系 6-3	土器	二重口縁甕	口縁部	20%	口縁部内外両面に施された彫刻はハマガキ調整。内面は底部に施された彫刻はヘラミガキ調整。庄内式復行期。反転復元。
105	国 38 —	189	240	II-1 区 II 2C8a12	—	—	1 自然流路 第 6 层系 6-3	弥生土器	二重口縁甕	口縁部	12%	透かし状の内側に施された彫刻はハマガキ調整。内面は底部に施された彫刻はヘラミガキ調整。庄内式復行期。反転復元。
106	国 38 国版 25	192	173	II-1 区 II 2C8a11 北端	—	—	1 自然流路 第 6 层系下端 第 7 层系上端 6-3?	弥生土器	二重口縁甕	口縁部 ～體部	25%	内面の約 2/3 に黒斑有り。全体に磨滅著したため調整不正確。口縁部内側には乱雑なハマガキ調査。後にやや石上がり斜めのカケメ調査。外側は底部に施された彫刻はハマガキ工具によるナメ調査。庄内式復行期。反転復元。

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧

土器・土製品

* 残存率は、図示できた遺存部位の割合

No. 6

遺物 番号	時代 区分	万葉 登録番号	実測遺物 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番 号・埋 植層番	遺構番号・埋 植層番号	遺物種 類	器種	部位	残存率	備考
107	図 38	圓版 25	13	251	I-1 区 II 20c811 南端	—	I 自然流路 第 6 層系 下端 + 第 6 層系 6-3	土器器	二重口縁 壺	口縁部 ～腹部	60%	腹部内部裏面に柔らかな板状工具によるナデ調整、布留式併行期古段階、反転復元
108	図 38	圓版 25	184	252	I-1 区 II 20c812 h14 南壁側溝	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	二重口縁 壺	口縁部 ～腹部	40%	内面全体に墨痕有り、全体に剥離、意識著しいため調整不鮮明。口縁部内外共に丁寧なヨココテ調整。腹部外面は縦位の板状工具によるナデ調整。庄内式併行期初期段階
109	図 38	—	190	320	I-1 区 II 20c812	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	二重口縁 壺	口縁部	15%	全体に剥離、墨痕著しいため調整不明。内面全体に二重口縁は僅かにヘラコキ調整の痕跡、庄内式併行期、反転復元
110	図 38	—	180	195 218	I-1 区 II 20c812 北西隅 II 20c812	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3 第 6 層系	弥生土器	広口壺	口縁部	40%	全体に剥離、墨痕著しいため調整不明。胎土に 3~5 mm の粗粒英片岩を混入。形態の特徴から阿波式土器。布留式併行期古段階、反転復元
111	図 38	圓版 25	186	288 138	I-1 区 II 20c811 西南半 II 20c811	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3 第 6 層系	弥生土器	二重口縁 壺	口縁部 ～腹部	15%	全体に剥離、墨痕著しいため調整不明。内面全体に二重口縁は僅かにヘラコキ調整の痕跡、庄内式併行期、反転復元
112	図 38	圓版 25	212	195	I-1 区 II 20c812 北西隅	—	I 自然流路 第 6 層系下端 6-3	土器器	小型甕	口縁部 ～体部	10%	肩部以下外面に墨痕有り、全体に剥離著しいが調整不鮮明。内面全体に墨痕有り、全体に剥離著しいが調整不鮮明。口縁部内外共に丁寧なヨココテ調整。腹部は上上がり倒位の丁寧なヨココテ調整。胎土に 1cm 程度の石英、石英片岩を混入。形態の特徴から阿波式土器、布留式併行期初期段階、反転復元
113	図 38	—	217	279	I-1 区 II 20c810 北東半	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	甕	口縁部 ～体部	17%	全体に剥離、墨痕著しいため調整不明。内面全体に二重口縁は右上がり倒位の平行タキ調整、庄内式併行期、反転復元
114	図 38	—	219	279	I-1 区 II 20c810 北東半	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	紀伊形 庄内式甕	口縁部 ～腹部	25%	全体にやや剥離著しいため調整不鮮明。口縁部以外裏面に丁寧なヨココテ調整。体部内面はユビサオサ調整、胎部以下倒位は右上がり倒位の平行タキ調整。内面全体は右上がり倒位のヨココテ調整、庄内式併行期新段階、布留式併行期初期段階、反転復元
115	図 38	—	224	321	I-1 区 II 20c813 北端	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	土器器	紀伊形 布留式甕	口縁部 ～体部	18%	口縁部前面に煤灰有り付着する。全体に剥離著しいが調整不鮮明。口縁部内外共に丁寧なヨココテ調整。体部内面は右上がり倒位のヨココテ調整。体部外側は横位の左へヨココテ調整、体部外側前面は横位の右へヨココテ調整。後後に下半は左上がり倒位のヨココテ調整、布留式併行期初期段階、反転復元
116	図 38	—	220	186	I-1 区 II 20c812	—	I 自然流路 第 6 層系下端 6-3	土器器	紀伊形 布留式甕	口縁部 ～体部	12%	腹部外側に墨痕有り、全体に剥離著しいが調整不鮮明。口縁部内外共に丁寧なヨココテ調整。体部内面は横位の左へヨココテ調整、体部外側前面は横位の右へヨココテ調整。後後に下半は左上がり倒位のヨココテ調整、布留式併行期中期段階、反転復元
117	図 38	—	222	321	I-1 区 II 20c813 北端	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	土器器	紀伊形 布留式甕	口縁部 ～体部	8%	口縁部前面に煤灰有り付着する。全体に剥離著しいが調整不鮮明。口縁部内外共に丁寧なヨココテ調整。体部内面は横位の左へヨココテ調整、体部外側は横位の右へヨココテ調整。後後に下半は横位の左へヨココテ調整、布留式併行期初期段階、反転復元
118	図 38	圓版 25	223	281	I-1 区 II 20c810 南半中央	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	土器器	紀伊形 布留式甕	口縁部 ～体部	8%	口縁部前面に煤灰有り付着する。全体に剥離著しいが調整不鮮明。口縁部内外共に丁寧なヨココテ調整。体部内面は横位の左へヨココテ調整、体部外側は横位の右へヨココテ調整。後後に下半は横位の左へヨココテ調整、布留式併行期中期段階、反転復元
119	図 38	—	216	277	I-1 区 II 20c812	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	土器器	紀伊形 布留式甕	口縁部 ～腹部	15%	外側全体に剥離著しいが調整不鮮明。内面全体に墨痕著しいため調整不鮮明。口縁部内外共に丁寧なヨココテ調整。胎部は内側面上に大きく肥厚する。胎部内面は横位の左へヨココテ調整、体部外側は横位の右へヨココテ調整。胎部下面は横位の左へヨココテ調整、布留式併行期初期段階、反転復元
120	図 38	圓版 25	206	284 283	I-1 区 II 20c810 中央	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3 第 6 層系下端	弥生土器	小型甕	口縁部 ～体部	90%	全体に剥離、墨痕著しいため調整不鮮明。内面全体に墨痕著しいため調整不鮮明。内面全体は不規則、外表面は上上がり倒位のハケ彫りの痕跡、胎部外面は不規則、布留式併行期中期段階
121	図 38	圓版 25	240	249	I-1 区 II 20c812 中央	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	高环	口縁部 ～腹部	60%	全体に剥離、墨痕著しいため調整不鮮明。内面全体に墨痕著しいため調整不鮮明。内面全体は不規則、外表面は上上がり倒位のハケ彫りの痕跡、胎部外面は横位の右へヨココテ調整、胎部下面は横位の左へヨココテ調整、庄内式併行期、反転復元

* 残存率は、図示できた遺存部位の割合

No. 7

遺物 番号	時代 区分	万葉 登録番号	実用遺物 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番 号・埋 植構造	遺構番号・埋 植構造	遺物類	器種	部位	残存率	備考
122	国 38	—	244	321	I-1 区 II 2C8b13 北端	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	高环	坪部 口部部 ~腹部	25%	全体に磨滅著しいため調査不分明。口 縁部・底部内面は模様のヘラミガ 調査が困難で不明。庄内式 便行期前段階。反転復元。
123	国 38	国版 25	242	251	I-1 区 II 2C8b11 南端	—	I 自然流路 第 6 層系 下端・下端 + 第 6 層系 6-3	弥生土器	高环	坪部 口部部 ~腹部	40%	底部内面の一部に磨滅著しく、全体に磨 滅著しいため調査不分明。口縁部内面 は模様のヘラミガ調査が困難。底部 内面は複数・後に複数位のヘラミガキ調 査、口部部と柄部外面上半部模様の細 かいヘラミガキ調査。庄内式便行期前 段階。反転復元。
124	国 38	—	245	192 193	I-1 区 II 2C8b12 北端 II 2C8b12 北端	—	I 自然流路 第 6 層系下端 6-3 第 6 層系下端 6-3	弥生土器	高环	坪部	70%	内外面間に部分的に磨滅・変形及び 鉄分付着による変色がある。内部には 糞糞状の茶色い瓦礫工具による不整方 向のナゴテ調査。庄内式便行期、一部 反転復元。
125	国 38	国版 25	1	249	I-1 区 II 2C8b12 中央	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	钵	口部部 ~底部	60%	底部底面から全体部内面にかけて裏斑有 り。口縁部から底部内面にかけて外側面共 に模様の板状工具によるナゴテ調査、後 に内部に複数位に複数位の丁寧な手彫りで細 かいヘラミガキ調査。庄内式便行期、一部 反転復元。
126	国 38	国版 25	19	249	I-1 区 II 2C8b12 中央	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	钵	口部部 ~底部	60%	底部底面から全体部内面にかけて裏斑有 り。口縁部から底部内面にかけて外側面共 に模様の板状工具によるナゴテ調査、後 に内部に複数位に複数位の丁寧な手彫りで細 かいヘラミガキ調査。庄内式便行期、一部 反転復元。
127	国 38	—	230	193	I-1 区 II 2C8b12 北端	—	I 自然流路 第 6 層系下端 6-3	弥生土器	小型鉢	口部部 ~底部	30%	全体に磨滅著しいため調査不分明。口 縁部内面は右上がりに複数位のヘラミ ガキ調査。庄内式便行期。反転復元。
128	国 38	国版 25	6	284	I-1 区 II 2C8a10 中央	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	弥生土器	平捏ね差	口部部 ~底部	95%	口縁部と身から底部底面にかけて約 1/2に裏斑有り。全体に磨滅著しいた め調査不分明。内部内面はナゴテ調査。 全体部外壁は板状工具による押し当て、 庄内式便行期。
129	国 38	国版 25	252	206	I-1 区 II 2C8a11	—	I 自然流路 第 6 層系下端 6-3	弥生土器	平捏ね鉢	口部部 ~底部	60%	全体部外壁から底部底面の一部にかけて 裏斑有り。全体に磨滅著しいため調査不 分明。内部内面はコピヤオヌエ。コピ ヤオヌエ調査。庄内式便行期。反転復元。
130	国 38	国版 25	251	206	I-1 区 II 2C8a11	—	I 自然流路 第 6 層系下端 6-3	弥生土器	製陶土器 鋸台 2 式	体部 ~底部	65%	全体に一次焼成を経る。全体に磨滅 著しいため調査不分明。内部は見込か ら全体部に向てコピヤオヌエ、全体部 裏斑有りが複数位に複数位のヘラミ ガキ調査。庄内式便行期。反転復元。
131	国 39	—	226	320	I-1 区 II 2C8b12	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	土師器	大型鉢	口部部 ~底部	8%	全体に磨滅著しい。複数位で著しいため 調査不分明。口縁部外側面に複数の凹 文状の凹みが一つ。形態の特徴から外來 系土器。布留式併用型古墳形。細片の ため口径・底径・反転復元。
132	国 39	—	247	249	I-1 区 II 2C8b12 中央	—	I 自然流路 第 6 層系 6-3	土師器	鉢	口部部 ~底部	10%	全体に磨滅著しいため調査不分明。口 縁部内面下半から内部にかけて複数位 の凹文状の凹みがある。口縁部外側面 は複数位の丁寧なヘラミガキ調査の痕 跡。庄内式便行期。反転復元。
133	国 39	国版 26	178	214	I-1 区 II 2C8a10	—	I 自然流路 第 6 層系 + 第 6 层系下端	弥生土器	広口壺	口部部 ~底部	周 40%	口縁部内面約 1/4に裏斑有り。全体に 磨滅著しいため調査不分明。底部内面 は複数位の広広のヘラミガキ調査。庄内 式併用型古墳形。一部反転復元。
134	国 39	国版 26	183	179	I-2 区 II 2B8v9	—	I 自然流路 第 5 层系下半	弥生土器	広口壺	口部部 ~底部	85%	全体に磨滅著しいため調査不分明。口 縁部内面は丁寧なコピヤオヌエ調査、 口縁部外側面は複数位のヘラミガキ調 査の痕跡。庄内式併用型古墳形。細片の ため口径・底径・反転復元。
135	国 39	国版 26	202	212	I-1 区 II 2B8v10	—	I 自然流路 第 6 层系	弥生土器	広口壺 (長頸壺)	口部部 ~底部	40%	全体に磨滅著しいため調査不分明。口 縁部内面は丁寧なコピヤオヌエ調査、 口縁部外側面は複数位のヘラミガキ調 査の痕跡。庄内式併用型古墳形。細片の ため口径・底径・反転復元。
136	国 39	国版 26	182	177	I-2 区 II 2B8v9	—	I 自然流路 第 5 层系上半	弥生土器	広口壺	口部部 ~底部	70%	全体に磨滅・廢棄して著しいため調 査不分明。口縁部外側面の僅かな磨 擦跡。庄内式併用型古墳形。細片の ため口径・底径・反転復元。
137	国 39	国版 26	181	292	I-1 区 II 2C8a12	—	I 自然流路 第 6 层系下端	弥生土器	広口壺	口部部 ~底部	20%	全体に磨滅著しいため調査不分明。口 縁部内面は左上がりに複数位の凹文状の 凹みがある。頭部外側面は複数位の ヘラミガキ調査。庄内式併用型古 墳形。細片のため口径・底径・反 転復元。
138	国 39	国版 26	200	173	I-1 区 II 2C8a11 北端	—	I 自然流路 第 6 层系下端 第 7 层系上端 6-3?	弥生土器	広口壺 (直口壺)	口部部 ~底部	30%	全体に磨滅・廢棄して著しいため調 査不分明。口縁部内面は丁寧なコ ピヤオヌエ調査、口縁部外側面は 複数位で細かいヘラミガキ調査。庄内 式併用型古墳形。細片のため口径・底 径・反転復元。
139	国 39	国版 26	210	163	I-1 区 II 2C8a13	—	I 自然流路 第 6 層系	弥生土器	直口壺	口部部 ~底部	60%	全体に磨滅著しいため調査不分明。口 縁部内面は丁寧なコピヤオヌエ調査、 口縁部外側面は複数位の凹文状の凹 みがある。頭部外側面は複数位の ヘラミガキ調査。庄内式併用型古 墳形。細片のため口径・底径・反 転復元。
140	国 39	国版 26	197	165	I-1 区 II 2C8a14	—	I 自然流路 第 6 层系下端	弥生土器	直口壺	口部部 ~底部	50%	全体に磨滅・廢棄して著しいため調 査不分明。口縁部内面は丁寧なコ ピヤオヌエ調査、口縁部外側面は 複数位で細かいヘラミガキ調査。庄内 式併用型古墳形。細片のため口径・底 径・反転復元。
141	国 39	—	205	148	I-1 区 II 2C8a14	—	I 自然流路 第 6 層系	弥生土器	小型直口 壺	口部部 ~底部	55%	全体に磨滅著しいため調査不分明。口 縁部内面は丁寧なコピヤオヌエ調査、 口縁部外側面は複数位のヘラミガキ調査、 庄内式併用型古墳形。細片のため口径・底 径・反転復元。

遺物 番号	時代 区分	万葉 登録番号	実測遺物 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番 号・埋 植部位	遺構番号・埋植 部位	遺物種 類	器種	部位	残存率	備考
142	国 39	—	201	235	I-1 区 II 28B11 北東端	—	I 自然流路 第 7 層系	弥生土器	長頸壺	口縁部 ～腹部	20%	全体に磨滅著しいため調査不困難。口縁部外面は丁寧なヨコナギ調整。後半部は内面は板状工具による放射状のナデ調整。体部内部は不明。底部から外側面部は分割成形による平行タタキ壓型。庄内式併行型、反転復元
143	国 39	圓版 26	199	219	I-1 区 II 2C8b11	—	I 自然流路 第 6 層系 + 第 6 層系下端	弥生土器	直口壺	頸部 ～底部	70%	肩部から底面部にかけて残存する位置に黒漆あり。全体に磨滅著しいため調査不困難。底部外面は板状工具による放射状のナデ調整。体部内部は不明。底部から外側面部は分割成形による平行タタキ壓型。庄内式併行型、反転復元
144	国 39	—	18	197	I-1 区 II 2C8a11 西側中央	—	I 自然流路 第 6 層系下端	弥生土器	二重口縁壺	頸部	40%	全体に削開・磨滅極めて著しいため調査不困難。庄内式併行型、反転復元
145	国 39	圓版 26	193	191	I-1 区 II 2C8b12	—	I 自然流路 第 6 層系	弥生土器	二重口縁壺	口縁部	18%	内面は大部分質の変化が著しく調査不困難。外側面部は模倣位の簡単なハラミガキ調整。底部調整の痕跡。庄内式併行型、反転復元
146	国 39	圓版 26	187	57	I-1 区 II 2C8a12	—	I 自然流路 第 4 層系 + 第 6 層系	弥生土器	二重口縁壺	口縁部 ～腹部	20%	全体に削開・磨滅著しいため調査不困難。口縁部外面は丁寧な分厚ヘラミガキ調整。外側面部は模倣位の丁寧な分厚ヘラミガキ調整。庄内式併行型、反転復元
147	国 39	圓版 26	177	182 183 223	I-1 区 II 2B8w9 西北 II 2B8w9 II 2B8w9	—	I 自然流路 第 6 層系 + 第 7 層系 + 第 6 層系	弥生土器	斜台付壺	口縁部 ～脚部	70%	体部内部に底以下を含むして丁寧な細かいハラミガキ調整。体部外部下半は分割によつてハラミガキ調整。庄内式併行型、一部反転復元
148	国 39	—	179	280	I-1 区 II 2C8a10 南半中央	—	I 自然流路 第 6 層系下端	土器器	小型壺	口縁部 ～腹部	20%	體部内部に底以下を含むして丁寧な細かいハラミガキ調整。口縁部外面は模倣位の分厚ヘラミガキ調整。布留式併行期古段階、一部反転復元
149	国 39	圓版 26	218	153	I-1 区 II 2B8y13	—	I 自然流路 第 6 層系	弥生土器	甕	口縁部 ～体部	30%	外周全体に保溝まだらに付する。全体に遺存状態良好。口縁部の外表面共に丁寧なヨリナギ調整。頭部内部倒上方に小さく開け上揚げ。体部外面ははやや右上がりの斜面で平行タタキ壓型。庄内式併行型、反転復元
150	国 39	圓版 26	213	48	I-1 区 II 2B8y10	—	I 自然流路 第 6 層系 墨灰色シルト	弥生土器	甕	口縁部 ～体部	25%	外周全体に保溝なく付する。内面は削開・磨滅著しいため調査不困難。頭部下面は左下外側面部分割成形による平行タタキ壓型。庄内式併行型、反転復元
151	国 39	圓版 26	214	214	I-1 区 II 2C8a10	—	I 自然流路 第 6 層系 + 第 6 層系下端	弥生土器	小型甕	口縁部 ～体部	30%	全体にやや歪み著しい。全体に磨滅及び鉄分の因縁著しいため調査不困難。調整の単位は粗い分厚ヘラミガキ調整。頭部以下には縫合位から右上方に斜位のケメ調整。頭部以下は左上右上に斜位のケメ調整。後左上に斜位のハラミガキ調整。庄内式併行型、反転復元
152	国 39	圓版 26	208	213 112	I-1 区 II 2B8y11 II 2B8y10	—	I 自然流路 第 6 層系 + 第 6 層系	弥生土器	小型甕	口縁部 ～底部	70%	口縁部外面に保溝なく付する。全体に磨滅著しいため調査不困難。口縁部内部は穂穂の粗い分厚ヘラミガキ調整。頭部は内側面に小さく開け上揚げ。体部外面ははやや右上に斜位のケメ調整。頭部以下は左上右上に斜位のケメ調整。頭部内部は穂穂のハラミガキ調整。後左上に斜位のハラミガキ調整。布留式併行期古段階、反転復元
153	国 39	圓版 26	215	162	I-1 区 II 2C8a12 南半	—	I 自然流路 第 6 層系	土器器	紀伊形 布留式甕	口縁部 ～体部	15%	口縁部外面に保溝なく付する。全体に磨滅著しいため調査不困難。頭部内部は穂穂の粗い分厚ヘラミガキ調整。頭部は内側面に小さく開け上揚げ。体部外面ははやや右上に斜位のケメ調整。頭部以下は左上右上に斜位のケメ調整。後左上に斜位のハラミガキ調整。庄内式併行期古段階、反転復元
154	国 39	圓版 26	207	289	I-1 区 II 2C8a14 調査区南壁	—	I 自然流路 第 6 層系 6-1	土器器	紀伊形 布留式甕	頸部 ～底部	同 40%	全体に削開・磨滅著しいため調査不困難。体部外面に保溝なく付する。全体に磨滅著しく形態・調整の単位不明确。頭部以下外面は縫合位の丁寧な斜面で平行タタキ壓型。外側面部は模倣位から右上方に斜位のケメ調整。頭部以下は左上右上に斜位のケメ調整。後左上に斜位のハラミガキ調整。布留式併行期古段階、反転復元
155	国 39	圓版 26	211	280	I-1 区 II 2C8a10 南半中央	—	I 自然流路 第 6 層系下端	弥生土器	甕	口縁部 ～腹部	20%	全体に削開・磨滅著しいため調査不困難。口縁部外面は丁寧なヨコナギ調整。頭部以下は右上に斜位のハラミガキ調整。外側面部は模倣位の丁寧な斜面で平行タタキ壓型。頭部下面は左上右上に斜位のケメ調整。頭部以下は左上右上に斜位のケメ調整。後左上に斜位のハラミガキ調整。布留式併行期古段階、反転復元
156	国 39	圓版 26	209	197	I-1 区 II 2C8a11 西側中央	—	I 自然流路 第 6 層系下端	土器器	小型甕	口縁部 ～体部	14%	全体に削開・磨滅著しいため調査不困難。口縁部外面は丁寧なヨコナギ調整。頭部以下は右上に斜位のハラミガキ調整。外側面部は模倣位の丁寧な斜面で平行タタキ壓型。頭部下面は左上右上に斜位のケメ調整。頭部以下は左上右上に斜位のケメ調整。後左上に斜位のハラミガキ調整。布留式併行期古段階、反転復元
157	国 40	圓版 26	234	211	I-1 区 II 2B8w11	—	I 自然流路 第 6 層系	弥生土器	高环	口縁部 ～底部	20%	全体に削開・磨滅及び鉄分質の因縁著しいため調査不困難。外側面部は模倣位の丁寧な斜面で平行タタキ壓型。外側面部は模倣位のハラミガキ調整。外側面部は模倣位のヨコナギ調整。頭部下面は左上右上に斜位のケメ調整。頭部以下は左上右上に斜位のケメ調整。後左上に斜位のハラミガキ調整。紀伊 V-5 様式か。一部反転復元
158	国 40	圓版 26	233	212	I-1 区 II 2B8y10	—	I 自然流路 第 6 層系	弥生土器	高环	口縁部 ～底部	40%	全体に削開・磨滅及び鉄分質の因縁著しいため調査不困難。外側面部は模倣位の丁寧な斜面で平行タタキ壓型。外側面部は模倣位のヨコナギ調整。頭部下面は左上右上に斜位のケメ調整。頭部以下は左上右上に斜位のケメ調整。後左上に斜位のハラミガキ調整。布留式併行期古段階、反転復元

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧

土器・土製品

* 残存率は、図示できた遺存部位の割合

No. 9

遺物 番号	時代 区分	万葉 登録番号	実用遺物 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺傳番 地図上区画	遺傳番号・埋蔵 場所	遺傳番号・埋蔵 場所	遺物種類	器種	部位	残存率	備考
159	四 40	圓版 27	235	242	I-1 区 II 208a13	—	1 自然流路 第6層系	—	弥生土器	高环	平部 口部 ～底部	25%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。口 縁部内部はヨコマガリ調整跡。後にヨコ マガリ調整が施され、調査不眞跡。庄内 式併行期調整。反転復元。
160	四 40	圓版 27	238	263	I-1 区 II 208a12	—	1 自然流路 第6層系	—	弥生土器	高环	平部 口部 ～底部	25%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。 口縁部内部はヨコマガリ調整跡。後にヨコ マガリ調整が施され、調査不眞跡。庄内 式併行期調整。反転復元。
161	四 40	圓版 27	241	47 138 171	I-1 区 II 208a9-10 II 208a11 II 208a11 北端	—	1 自然流路 第6層系 黑灰シルト 第6層系 第6層系下端 第7層系上端 6-3?	—	弥生土器	高环	平部 口部 ～底部	70%	口縁部内部はヨコマガリ調整跡。口縁 部内部は柱状の丸く丁寧なノグメ調整。 後に一部底位のラミガキ調整。口縁部 外部はヨコナガリ調整。皿の内面は一 定方向へのラミガキ調整。外縁の調整 は不明。庄内式併行期新段階。
162	四 40	圓版 27	237	135 134 144	I-1 区 II 208a12 II 208a12 中央 EW チッタ II 208b12	—	1 自然流路 第6層系 第6層系 第6層系	—	弥生土器	高环	平部 口部 ～底部	75%	口縁部内部はヨコマガリ調整跡。全体に 磨滅著しいため調査不眞跡。口縁部 内部は柱状の丸く丁寧なノグメ調整。 皿の内面は放射狀の組立ハリイガリ調整。 口縁部外側は組立ハリイガリ調整。皿の 内面はヨコマガリ調整。口縁部内部は一 定方向へのラミガキ調整。外縁の調整 は不明。庄内式併行期新段階。
163	四 40	圓版 27	236	138	I-1 区 II 208a11	—	1 自然流路 第6層系	—	弥生土器	高环	平部 口部 ～底部	25%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。口 縁部内部は柱状の丸く丁寧なノグメ調整。 外縁は底位のラミガキ調整。口縁部 内部は放射狀の組立ハリイガリ調整。 口縁部外側は組立ハリイガリ調整。皿の 内面はヨコマガリ調整。庄内式併行期 新段階。
164	四 40	圓版 27	239	275	I-1 区 II 208b12	—	1 自然流路 第6層系 下端 - 下端 + 第6層系	—	弥生土器	高环	平部 口部 ～底部	30%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。 口縁部内部は柱状の丸く丁寧なノグメ調整。 口縁部内部は放射狀の組立ハリイガリ調整。 口縁部外側は組立ハリイガリ調整。皿の 内面はヨコマガリ調整。庄内式併行期 新段階。
165	四 40	—	243	290	I-1 区 II 208a12 南東端	—	1 自然流路 第6層系 第6層系 基盤層 Z	—	土器器	高环	平部 口部 ～底部	15%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。 口縁部上面は半円柱位のヘラミガキ調整の 痕跡。口縁部外側は底位のヨコナガリ調整。 庄内式併行期新段階。反転復元。
166	四 40	—	246	168	I-1 区 II 208b12 中央	—	1 自然流路 第6層系	—	弥生土器	高环	平部 ～底部	40%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。 口縁部上面は半円柱位のヘラミガキ調整の 痕跡。口縁部外側は底位のヨコナガリ調整。 庄内式併行期新段階。一部反転復元。
167	四 40	圓版 27	16	243	I-1 区 II 208a14	—	1 自然流路 第6層系	—	土器器	钵	口縫部 ～底部	60%	全体に磨滅著しい。特に口縁部の歪 みと斜位の底位が目立つ。庄内式併行期 新段階。
168	四 40	—	229	110	I-1 区 II 208y10	—	1 自然流路 第6層系	—	弥生土器	小型鉢	口縫部 ～底部	30%	全体に磨滅著しい。全体に磨滅著 しいため調査不眞跡。口縁部内部は左上 部に柱状の丸く丁寧なノグメ調整。
169	四 40	—	231	214	I-1 区 II 208a10	—	1 自然流路 第6層系 + 第6層系下端	—	弥生土器	小型鉢	口縫部 ～底部	45%	全体に磨滅著しい。全体に磨滅著 しいため調査不眞跡。口縁部内部は左上 部に柱状の丸く丁寧なノグメ調整。
170	四 40	—	232	214 197	I-1 区 II 208a10 II 208a11 西端中央	—	1 自然流路 第6層系 + 第6層系下端 第6層系下端	—	弥生土器	小型鉢	口縫部 ～底部	85%	底部はやわらか。口縁部外側から底 部歪位が目立つ。全体に磨滅著 しいため調査不眞跡。全体の外側は板 状工具によるナガヌ整か。底部外側は 底位のラミガキ調整。
171	四 40	—	5	278	I-1 区 II 208a10 北東半	—	1 自然流路 第6層系下端	—	弥生土器	手捏ね鉢	口縫部 ～底部	60%	口縫部外側から底位にかけて底面に はる2方向に歪位があり、全体に磨滅著 しいため調査不眞跡。底部外側にヨコ マガリ調整。庄内式併行期新段階。
172	四 40	圓版 27	227	140	I-1 区 II 208b11	—	1 自然流路 第3層位のみ 第4層位含む 第6層系	—	弥生土器	底部有孔 鉢	口縫部 ～底部	45%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。 内 部全体に板状工具(洗くろい)のハケメ によるダメージ。体部外側にタクタキ整 形。後に底位のラミガキ調整か。底位 外側は左上に柱状の丸く丁寧なノグメ 調整。庄内式併行期新段階。
173	四 40	圓版 27	228	231	I-1 区 II 208a10 北側溝 内側斜面	—	1 自然流路 第7層系	—	弥生土器	底部有孔 鉢	口縫部 ～底部	70%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。 内 部全体に板状工具(洗くろい)のハケメ によるダメージ。体部外側にタクタキ整 形。後に底位のラミガキ調整か。底位 外側は左上に柱状の丸く丁寧なノグメ 調整。庄内式併行期新段階。
174	四 40	圓版 27	3	278	I-1 区 II 208a10 北東半	—	1 自然流路 第6層系下端	—	土器器	大型鉢	口縫部	10%	口縫部外側の一部に裏窓があり、全体に 磨滅著しいため調査不眞跡。体部内面 は左上に柱状の丸く丁寧なノグメ調整。 体部外側は左上に柱状の丸く丁寧なノグメ 調整。庄内式併行期新段階。反転復元。
175	四 40	—	225	141	I-1 区 II 208y11-12 中央 EW レンチ	—	1 自然流路 第6層系	—	弥生土器	大型鉢	口縫部	7%	全体に磨滅著しいため調査不眞跡。 内 部全体に板状工具(洗くろい)のハケメ によるダメージ。口縫部外側は底位の 工芸なラミガキ調整の痕跡。曲面部 以下は底位のラミガキ調整の痕跡。庄内 式併行期新段階。鉢片のため口徑・縦 幅不明瞭。反転復元。

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧

土器・土製品

* 残存率は、図示できた遺存部位の割合

No.10

遺物 番号	時代 番号	万葉 伝承	実測遺物 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番 号・埋 植層番号	遺構番号・埋 植層番号	遺物種 類	器種	部位	残存率	備考
176	四 40	—	185	134	I-1 区 II 20c812	—	I 自然流路 第6層系	弥生土器	鉢	口縁部	10%	全体に磨滅ぎみのため調整不正確。内 外唇共に丁寧なコナツアレ調節が 見られる。内側の腰部に擦痕。土器 紀伊V式併行型。反転底元。
177	四 40	—	248	197	I-1 区 II 20c811 西側中央	—	I 自然流路 第6層系下端	弥生土器	小型器台	口縁部	25%	全体に磨滅してしまったので調整不 正確。口縁部内面は個別の丁寧なヘラミ ガキの跡。庄内式併行期後段階。反 転底元。
178	四 40	圓板 27	250	47	I-1 区 II 20c89- 10 北壁側溝	—	I 自然流路 第6層系 風呂シルト -50 ~ 70 cm	弥生土器	製陶土器 器台2式	体部 ~底部	70%	全体に二次焼成を被ける。全体に磨滅 著しいため調整不正確。内部はユビナ ヒアテル調節。庄内式併行期後段階。 平行ヨリキ整形。庄内併行期。一部 反転底元。
179	四 40	圓板 27	249	213	I-1 区 II 20c811	—	I 自然流路 第6層系	弥生土器	製陶土器 器台2式	体部 ~底部	55%	全体に磨滅著しいため調整不正確。内 部は見ただらき部に向けて調節工具 によるナス上げ。外縁はユビナヒアテ ル調節。庄内式併行期。一部反転 底元。腰部と底部の特徴から掘入 品の可能性有り。
180	四 41	圓板 27	9	281	I-1 区 II 20c810 南北中央	—	I 自然流路 第6層系6-3	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に磨滅著しいため調整不正確。長 さ 5.9cm・幅 1.4 ~ 1.6cm・厚さ 1.3 ~ 1.5 cm。穿孔径 0.6cm。重量 18g。
181	四 41	圓板 27	12	196	I-1 区 II 20c811 北西隅	—	I 自然流路 第6層系下位	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に磨滅著しいため調整不正確。長 さ 5.9cm・幅 1.4 ~ 1.6cm・厚さ 1.1 ~ 1.4 cm。穿孔径 0.5 ~ 0.6cm。重量 16g。
182	四 41	圓板 27	138	70	I-1 区 II 20c813 北半	—	I 自然流路 第6層系4-3	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に磨滅著しいため調整不正確。長 さ 6.2cm・幅 1.4 ~ 1.6cm・厚さ 1.3 ~ 1.5 cm。穿孔径 0.6cm。重量 13g。
183	四 41	圓板 27	160	173	I-1 区 II 20c811 北端	—	I 自然流路 第6層系下端 第7層系上端 6-3?	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に磨滅めて著しいため調整不 正確。長さ 6.2cm・幅 1.3 ~ 1.5cm・厚さ 1.2 ~ 1.3cm。穿孔径 0.5 ~ 0.7cm。重量 16g。
184	四 41	圓板 27	161	290	I-1 区 II 20c812 南西隅	—	I 自然流路 第6層系 風呂シルト 基盤層 Z	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に磨滅・施設極めて著しいため調 整不正確。長さ 6.2cm・幅 1.4 ~ 1.7cm・ 厚さ 1.1 ~ 1.3cm。穿孔径 0.6cm。重量 16g。
185	四 41	圓板 27	162	173	I-1 区 II 20c811 北端	—	I 自然流路 第6層系下端 第7層系上端 6-3?	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に磨滅めて著しいため調整不 正確。長さ 6.2cm・幅 1.3 ~ 1.5cm・厚さ 1.0 ~ 1.2cm。穿孔径 0.6 ~ 0.7cm。重量 14g。
186	四 41	圓板 27	169	191	I-1 区 II 20c812 北東端	—	I 自然流路 第6層系下端	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に磨滅めて著しいため調整不 正確。長さ 6.4cm・幅 1.2 ~ 1.6cm・厚さ 0.7 ~ 1.1cm。穿孔径 0.4 ~ 0.5cm。重量 12g。
187	四 41	圓板 27	144	140	I-1 区 II 20c811	—	I 自然流路 第3層系凹み 第4層系合む 第6層系	土製品	有孔土縫	—	95%	全体に磨滅めて著しいため調整不 正確。長さ 7.6cm・幅 1.5 ~ 2.2cm・厚さ 0.9 ~ 2.0cm。穿孔径 0.5 ~ 0.7cm。重量(23) g。
188	四 41	圓板 27	159	236	I-1 区 II 20c811 南端	—	I 自然流路 第6層系6-3	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に剥離・施設極めて著しいため調 整不正確。長さ 7.2cm・幅 1.4 ~ 2.0cm・ 厚さ 1.1 ~ 1.4cm。穿孔径 0.7cm。重量 20g。
189	四 41	圓板 27	172	202	I-1 区 II 20c811	—	I 自然流路 第6層系下端	土製品	有孔土縫	—	98%	全体に剥離・施設極めて著しいため調 整不正確。長さ 6.55cm・幅 1.6 ~ 1.8cm・ 厚さ 1.5 ~ 1.65cm。穿孔径 0.6 ~ 0.8cm。 (22) g。
190	四 41	圓板 27	7	194	I-1 区 II 20c812 北西隅	—	I 自然流路 第6層系下端	土製品	有孔土縫	—	98%	全体に剥離・施設極めて著しいため調 整不正確。長さ 6.2cm・幅 1.2 ~ 2.5cm・厚さ 1.5 ~ 1.7 cm。穿孔径 0.7 ~ 0.8cm。重量 (41) g。
191	四 41	圓板 27	8	195	I-1 区 II 20c812 北西隅	—	I 自然流路 第6層系下端6-3	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に剥離・施設極めて著しいため調 整不正確。長さ 8.0cm・幅 2.1 ~ 2.5cm・厚さ 2.1 ~ 2.2 cm。穿孔径 0.6cm。重量 52g。
192	四 41	圓板 27	157	162	I-1 区 II 20c812 中央 EW トレンチより 南	—	I 自然流路 第6層系	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に剥離・施設及び鉄分質の因循が 著しいため調整不正確。長さ 5.3cm・幅 1.95 ~ 2.7cm・厚さ 0.9 ~ 2.0cm。穿孔 径 0.7 ~ 0.9cm。重量 40g。
193	四 41	圓板 27	10	242	I-1 区 II 20c813	—	I 自然流路 第6層系	土製品	有孔土縫	—	95%	全体に剥離・施設極めて著しいため調 整不正確。2本の粘土縫を拾った際の作 り。長さ 8.8cm・幅 2.1 ~ 3.2cm・厚さ 2.3 ~ 2.6cm。 穿孔径 0.6cm。重量 (73) g。
194	四 41	圓板 27	158	193	I-1 区 II 20c812 東北端 中央 EW トレンチより 南	—	I 自然流路 第6層系6-3	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に剥離・施設極めて著しいため調 整不正確。長さ 9.7cm・幅 2.7 ~ 3.0cm・厚 さ 2.5 ~ 2.7cm。穿孔径 0.9cm。重量 88g。
195	四 41	圓板 27	170	193	I-1 区 II 20c812 北東端	—	I 自然流路 第6層系6-3	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に剥離・施設極めて著しいため調 整不正確。長さ 8.65cm・幅 3.0 ~ 3.4cm・厚 さ 2.2 ~ 2.4cm。穿孔径 0.8cm。重量 86g。
196	四 41	圓板 27	171	240	I-1 区 II 20c812 中央 EW トレンチより 南	—	I 自然流路 第6層系6-3	土製品	有孔土縫	—	100%	全体に剥離・施設極めて著しいため調 整不正確。長さ 8.9cm・幅 2.8 ~ 3.1cm・厚 さ 2.0 ~ 2.2cm。穿孔径 0.8 ~ 0.9cm。重量 80g。
197	四 41	圓板 27	156	157	I-1 区 II 20c812 中央 EW トレンチより 南	—	I 自然流路 第6層系6-3	土製品	有孔土縫	—	98%	全体に剥離・施設及び鉄分質の因循が 著しいため調整不正確。長さ 7.35cm・ 幅 2.6 ~ 2.8cm・厚さ 2.0 ~ 2.2cm。穿孔 径 0.6cm。重量 (76) g。
198	四 41	圓板 27	11	287	I-1 区 II 20c811 南西端	—	I 自然流路 第6層系下端	土製品	管状土縫	—	100%	全体に剥離著しいため調整不正確。長 さ 7.2cm・長径 (2) 2 ~ 2.9cm・短径 (2) 2.4 ~ 2.6cm・内径 1.3 ~ 1.5cm。重量 64g。

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧

土器・土製品

* 残存率は、図示できた遺存部位の割合

No.11

遺物 番号	呼名 番号	万葉 伝承	実測値 登録番号	出土遺物 登録番号	地区 取上区画	遺構番 号・埋 蔵層位	遺構番号・埋 蔵層位	遺物種 類	器種	部位	残存率	備考	
199	図 41	圓板	27	143	140	I-1 区 II 208a11	—	I 自然流路 第 3 層系込み 第 4 層系含む 第 6 層系	土製品	管状土錐	—	95%	全体に磨滅して著しいため調査不明、長さ 7.7 cm、直径 2.7 cm、内径 1.4 cm、重量 (52) g
200	図 41	圓板	27	155	162	I-1 区 II 208a12 中段トレン チより東	—	I 自然流路 第 6 層系	土製品	管状土錐	—	90%	全体に磨滅、磨滅及び鉄分質の斑が 著しいため調査不明、長さ 6.7 cm、幅 2.85 × 3.05 cm、厚さ 3.0 cm、内径 1.5 ~ 1.6 cm、重量 (50) g
201	図 42	圓板	28	163	71 67 156	I-1 区 II 208a13 南半	—	I 自然流路 第 4 層系 第 6 層系	弥生土器	口縁部 ～体部	70%	全体に磨滅、内部には左上がり斜位の鋸状工具によ るよじかけ子剥落、体部外側は墨滅の 跡、口縁部外側は墨滅の跡、基部は 円錐形で墨滅の跡、基部は丁寧なラミガキ 調査、三内式併行型、一部反転復元。	
202	図 42	—	—	166	64	I-1 区 II 208y14	—	I 自然流路 東側肩口	土師器	二重口縁 豆	口縁部	10%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調査不明、 内部には底面のラミガキ調整の痕跡、 口縁部外側は墨滅の跡、基部は丁寧なラミガキ 調査、三内式併行型、一部反転復元。
203	図 42	圓板	28	146	34	I-1 区 II 208-014 南壁側溝	—	I 自然流路 SD 連携含む 第 4 層系主体 焼灰色シルト	土師器	甕	口縁部 ～肩部	20%	全体に墨滅して著しいため調査不明、 内面の墨滅は不明、頭部外側には斜位 の粗いハメ調査、古墳時代中期か、 反転復元。
204	図 42	—	—	167	64	I-1 区 II 208y14	—	I 自然流路 東側肩口	弥生土器	甕	口縁部 ～肩部	20%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調査不明、 内部には底面のラミガキ調整の痕跡、 口縁部外側は墨滅の跡、基部は丁寧なラミガキ 調査、三内式併行型、一部反転復元。
205	図 42	圓板	28	150	9	I-1 区南側 II 208a b14	—	I 自然流路 SD 連携 第 4 層系 焼灰色シルト	土師器	甕	口縁部 ～肩部	13%	全体に墨滅して著しいため調査不明、 頭部以下内面はヘラマガキ整理、 外側は墨滅の跡、基部は丁寧なラミガキ 調査、三内式併行型、一部反転復元。
206	図 42	圓板	28	151	34	I-1 区 II 208-14 南壁側溝	—	I 自然流路 SD 連携含む 第 4 层系主体 焼灰色シルト	土師器	甕	口縁部 ～肩部	13%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、古墳時代中期、反転復元。
207	図 42	圓板	28	148	34	I-1 区 II 208-014 南壁側溝	—	I 自然流路 SD 連携含む 第 4 层系主体 焼灰色シルト	土師器	高坏	坏部	40%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、布留式併行型、反転復元。
208	図 42	—	—	142	32	I-1 区 II 208y15	—	I 自然流路 SD 連携含む 第 4 层系主体 基部焼灰色シルト	土師器	高坏	坏部 ～脚部	30%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、布留式併行型、反転復元。
209	図 42	圓板	28	149	843	I-1 区 II 208y10	—	I 自然流路 第 4 层系 褐灰色シルト	土師器	高坏	坏部 ～基部	90%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、頭部内面は複数の太いラミガキ 調整の跡、外面部不明、古墳時代中期 か、反転復元。
210	図 42	圓板	28	164	62	I-1 区 II 208a14	—	I 自然流路 第 4 层系	弥生土器	高坏	脚台部	70%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、柱状部外側は底面のヘラマガキ 整理の跡、柱状部内面は柱状工具による 粗いハメ調査、庄内式併行型、一部反転復元。
211	図 42	圓板	28	141	101	I-1 区 II 208a11	—	I 自然流路 第 5 层系	土師器	高坏	基部	65%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、柱状部外側は底面のヘラマガキ 整理の跡、柱状部内面は柱状工具による 粗いハメ調査、庄内式併行型、一部反転復元。
212	図 42	—	—	168	42	I-1 区 II 208a9- 10	—	SD 連携含む 第 4 层系 焼灰色シルト 東半焼灰色シルト	弥生土器	高坏	基部 ～脚部	60%	全体に墨滅して著しいため調査不明、 柱状部外側は底面のヘラマガキ調整の 跡、基部上部は接合部に墨滅による 切込みがあり、庄内式併行型、一部反転復元。
213	図 42	—	—	152	143	I-1 区 II 208b10	—	I 自然流路 第 3 层系込み 第 4 层系	土師器	高坏	脚台部	30%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、布留式併行型、一部反転復元。
214	図 42	—	—	147	9	I-1 区南側 II 208a- b14	—	I 自然流路 SD 連携含む 第 4 层系 焼灰色シルト	土師器	高坏	脚台部	45%	全体に墨滅して著しいため調査不明、 柱状部外側は底面のヘラマガキ調整の 跡、柱状部内面は柱状工具による粗 いハメ調査、外面部は水平から右へ 斜位の平行タキ調整、後ろにコビ ナデ調整、布留式併行型、一部反転復元。
215	図 42	—	—	145	67	I-1 区 II 208a13	—	I 自然流路 第 4 层系	土師器	小型器 台	脚台部	60%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、庄内式併行型新段階、反 転復元。
216	図 42	—	—	165	62	I-1 区 II 208a14	—	I 自然流路 第 4 层系	弥生土器	鉢	口縁部 ～底部	65%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、内面ユビコサ工房の痕 跡のみ、古墳時代中期か、一部反転復元。
217	図 42	圓板	28	136	69	I-1 区 II 208b13 南半	—	I 自然流路 第 4 层系	土師器	小型鉢	体部 ～底部	55%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、内面ユビコサ工房の痕 跡のみ、古墳時代中期か、一部反転復元。
218	図 42	圓板	28	135	65	I-1 区 II 208b14 西半	—	I 自然流路 第 4 层系	土師器	瓶	把手	95%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、ユビコサ工房の痕跡のみ、 古墳時代中期。
219	図 42	—	—	137	72	I-1 区 II 208b12	—	I 自然流路 第 4 层系	土師器	瓶	把手	95%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、ユビコサ工房の痕跡のみ、 古墳時代中期。
220	図 42	圓板	28	139	69	I-1 区 II 208b13 南半	—	I 自然流路 第 4 层系	土師器	瓶	把手	95%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、ユビコサ工房の痕跡のみ、 古墳時代中期。
221	図 42	—	—	140	78	I-1 区 II 208b12	—	I 自然流路 第 4 层系	土師器	壺	把手	100%	全体に磨滅、墨滅して著しいため調 査不明、ユビコサ工房の痕跡のみ、 古墳時代中期。
222	図 42	—	—	153	73	I-1 区 II 208a12	—	I 自然流路 第 4 层系	弥生土器	製塙土 器 脚台 式	腰部 ～脚部	80%	全体に墨滅して著しいため調査不明、 頭部内面は墨滅して著しいため調査 不明、外面部は直角の平行タキ整 理、庄内併行型、一部反転復元。

遺物番号	帰母番号	万葉版	実測遺物 合算番号	出土遺物 合算番号	地区 取上区画	造構面 堆積層位	造構番号・種類 造構層位	遺物種類	器理	部位	残存率	備考
223	圓42	圓版28	119	69	I-1区 II 2C8b13	—	1自然流路 第4層系	須恵器	坏蓋	天井部 ～口縁部	30%	天井部外面に自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第3段階（田辺TK208型式）、反転復元。
224	圓42	—	116	34	I-1区 II 2C8b14 南壁側溝	—	1自然流路 SD構造含む？ 第4層系主体 褐灰色シルト	須恵器	坏蓋	天井部 ～口縁部	20%	天井部外面に難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。自然難薄付着のため回転ハラカズリの単位は不明瞭。陶色編年I型式第3段階（田辺TK208型式）、反転復元。
225	圓42	圓版28	115	3	I-1区 II 2C8b12 ～14	—	1自然流路 第2・3層 第4層含む 機械掘削	須恵器	坏身	口縁部 ～底部	40%	ロクロ回転方向：左回り。陶色編年I型式第3段階（田辺TK208型式）、反転復元。
226	圓42	—	113	42	I-1区 II 2C8a-9-10	—	1自然流路 第4層系 褐灰色シルト 褐灰色シルト	須恵器	坏身	口縁部 ～底部	15%	ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）、反転復元。
227	圓42	—	114	9	I-1区 II 2C8a-9-14	—	1自然流路 第4層系 暗褐色シルト 褐灰色シルト	須恵器	坏身	口縁部 ～全体	10%	ロクロ回転方向：左回り。陶色編年I型式第4～5段階（田辺TK23～47型式）か、反転復元。
228	圓42	圓版28	120	70	I-1区 II 2C8b13	—	1自然流路 第4層系	須恵器	坏蓋	天井部 ～口縁部	50%	天井部外面から口縁部外面にかけて自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）、反転復元。
229	圓42	—	118	37	I-1区 II 2C8b12	—	1自然流路 第4層系主体 褐灰色シルト	須恵器	坏蓋	天井部 ～口縁部	25%	天井部から口縁部外面にかけて自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）、反転復元。
230	圓42	圓版28	117	67	I-1区 II 2C8b13	—	1自然流路 第4層系	須恵器	坏蓋	天井部 ～口縁部	50%	天井部外面に自然難薄く、口縁部外面にやや厚く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）、反転復元。
231	圓42	—	122	36	I-1区 II 2C8c14 西壁側溝	—	1自然流路 第4層系主体 褐灰色シルト	須恵器	(短蓋 壺)	頭部 ～全体	20%	体部外面に自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：左回り。自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：左回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）前後か、細片のため径・傾き不明瞭、反転復元。
232	圓42	圓版28	121	72	I-1区 II 2C8b12	—	1自然流路 第4層系	須恵器	脚台付 壺 (把手付 柄)	体部	5%	体部外面に上半分自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）前後か、細片のため径・傾き不明瞭、反転復元。
233	圓42	圓版28	125	69 65	I-1区 II 2C8b13 II 2C8b14	—	1自然流路 第4層系 第4層系	須恵器	壺	口縁部 ～底部	70%	口縁部外面から体部外面にかけて自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：左回り。底部底面は長い回転ハラカズリ整形。陶色編年I型式第2段階（田辺TK216型式）か、一部反転復元。
234	圓43	—	128	34	II 2C8b14 南壁側溝	—	1自然流路 第4層系主体 褐灰色シルト	須恵器	壺 (連)	体部 ～腰部	35%	体部外面上半分自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）か、反転復元。
235	圓43	圓版28	126	43 42 36 40	II 2C8b14 西壁側溝 II 2C8b9 西壁側溝	—	1自然流路 第4層系 褐灰色シルト 褐灰色シルト	須恵器	無蓋高 壺	口縁部 ～脚台部	40%	口縁部外面から見込にかけて自然難薄く付着する。脚台部外面に自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第3段階（田辺TK208型式）、細片のため径・傾き不明瞭、反転復元。
236	圓43	—	127	34	II 2C8b14 南壁側溝	—	1自然流路 第4層系主体 褐灰色シルト	須恵器	有蓋高 壺	脚台部	20%	ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）、反転復元。
237	圓43	圓版28	124	43	I-1区 II 2C8b10 北側側溝	—	1自然流路 第4層系	須恵器	壺	口縁部	5%	口縁部内面及び端部外面に自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：左回り。陶色編年I型式第3段階（田辺TK208型式）、細片のため径・傾き不明瞭、反転復元。
238	圓43	—	131	65	I-1区 II 2C8b14	—	1自然流路 第4層系	須恵器	壺	口縁部 ～底部	10%	ロクロ回転方向：左回り。頭部外面から肩部にかけて段位のタカラ整形、後に回転コマナデ。肩部内面は同心円文で当て真裏、後に不定方向のユビナデ調査。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）、反転復元。
239	圓43	—	129	27 1	I-2区 II 2B8w9 II 2B8v10	—	1自然流路 上位層 包第4層系 包第4層	須恵器	壺	口縁部 ～底部	30%	頸部以下内部はユビナデ、袋に一部を斜めに付着する。肩部内面は不規則な凹凸があり斜めに平行タタキ。肩部内面は不定方向のユビナデ調査。陶色編年I型式第3段階（田辺TK208型式）か、反転復元。
240	圓43	—	130	69 70 11	I-1区 II 2C8b13 II 2C8b13 II 2C8b13	—	1自然流路 第4層系 包第4層系 請褐色シルト	須恵器	直口壺	口縁部 ～全体	40%	頸部から底部外面にかけて左側半分に偏って自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）か、一部反転復元。
241	圓43	圓版28	123	61 34	I-1区 II 2C8b14 II 2C8b14 西壁側溝	—	1自然流路 第4層系 第4層系主体 褐灰色シルト	須恵器	橢形壺	頭部 ～底部	90%	頸部から底部外面にかけて左側半分に偏って自然難薄く付着する。ロクロ回転方向：右回り。陶色編年I型式第4段階（田辺TK23型式）か、一部反転復元。

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧

土器・土製品

*残存率は、図示できた遺存部位の割合

No.13

遺物番号	種類番号	万葉圓版	実測遺物登録番号	出土遺物登録番号	地区取上区画	遺構面積層位	遺構番号・種類	遺物種類	器種	部位	残存率	備考
242	圓43	—	133	10	I-1 区 II 2C8a13	—	I 自然流路 SD 遺構 包第4層系 褐色灰色シルト	須恵器	甕	口縁部	6%	内外面全体に自然鈍薄く付着する。 ロクロ回転方向：左回り。平安時代中期か。細片のため口径・積き不明瞭、反転復元。
243	圓43	—	132	45	I-1 区 II 2B8w10	—	I 自然流路 第4層系 褐色灰色シルト	須恵器	甕	口縁部～底部	5%	口縁部内面及び外面全体に自然鈍薄く付着する。 ロクロ回転方向：左回り。陶色編年V型式第1段階（田辺TK112型式）。細片のため口径・積き不明瞭、反転復元。

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧

石器（S）

*残存率は、図示できた遺存部位の割合

遺物番号	種類番号	写真圆版	実測遺物登録番号	出土遺物登録番号	地区取上区画	遺構面積層位	遺構番号・層位	遺構面積層位	遺物種類	器種	法量				石材	備考
											長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
S1 44	圓版29	S2	264	I-1 区 II 2C8a12	基礎層2に類似。 1~2cm 内鍛層	—	2 自然流路	縫石器 (投擲)	敲石	(6.8)	5.7	(4.7)	(244)	粗粒砂岩	全体に敲打による頭部破壊。下端から背面にかけて敲打による破損。	
S2 44	圓版29	S3	321	I-1 区 II 2C8b13 北端	1 自然流路 第6層系 6-3	—	縫石器	敲石	11.2	8.0	3.7	(549)	綠色片岩	両端及び右側面に敲打痕。		
S3 44	圓版29	S4	28	I-2 区 II 2B8v9	1 自然流路 上位層 包第4層系	—	縫石器 (打ち欠き石鍛)	敲石	(11.1)	5.8	3.1	(304)	綠色片岩	両端に敲打痕。打ち欠き石鍛の可能性有り。		
S4 44	圓版29	S1	196	I-1 区 II 2C8a11 北西隅	1 自然流路 第6層系 下位	—	縫石器	敲石	12.2	5.7	4.0	403	粗粒砂岩	表面及び両端に敲打痕。右側面は平滑に見えるが未使用。		
S5 44	圓版29	S8	287	I-1 区 II 2C8a11 南端半	1 自然流路 第6層系 6-3	—	縫石器	敲石	13.7	4.1~ 6.4	2.3~ 3.7	415	粗粒砂岩	表面及び両側面・片端に敲打痕。		
S6 44	圓版29	S9	281	I-1 区 II 2C8a10 南半中央	1 自然流路 第6層系 6-3	—	縫石器	敲石	7.0	3.3	3.5	162	中粒砂岩	片端に敲打痕。		
S7 44	圓版29	S6	31	I-2 区 II 2B8v9	1 自然流路 下位層 第5層系一括	—	縫石器	敲石	14.1	6.0	3.0~ 3.8	470	粗粒砂岩	石材中央の角面及び両端に敲打痕。		
S8 44	圓版29	S5	40	I-1 区 II 2C8b9	1 自然流路 3SD 遺構?	—	縫石器	磨石	14.7	7.7	1.8~ 2.3	460	綠色片岩	片端に磨面有り。		
S9 44	圓版29	S7	224	I-2 区 II 2B8v9	1 自然流路 第6層系 6-3	—	縫石器	砥石	16.2	6.2	3.2	660	石英質片岩	表面に浅い凹み状の砥面有り。		
S10 —	圓版29	S10	241	I-1 区 II 2C8b12	1 自然流路 第6層系 6-3	—	祭祀具	石棒	(10.5)	(7.3)	4.4	(468)	綠色片岩	片端が欠損。先端部に黒色の付着物有り。写真のみ。		

和田岩坪遺跡 出土遺物一覧 木製品 (W)

数値の()付は、残存値を示す。

遺物番号	採取番号	写真版	実測剖面図	出土遺物登録番号	地区取上区画	遺構番号	層位	遺物種類	器種	部位	木取り	保存処理	備考	樹種	樹種同定番号
W1	国45	国版30	木6	246 W14	I-2区 II 2B8w9 南東隅	1-2区 II 2C8s12 中央	1自然流路 第6層系	農具	泥跡	—	柾目	○	長さ 32.5cm・幅 26.7 cm・厚さ 0.7cm	イチイガシ	WKY722
W2	国45	国版30	木16	168	II 2C8s12 中央	I-1区 II 2C8s12 北西隅	1自然流路 第6層系	農具	曲柄又鋤	—	柾目	○	長さ (35.4)cm・幅 (9.3) cm・厚さ 1.0cm	コナラ属 アカガシ亜属	WKY894
W3	国45	国版30	木11 木15 接合	195	II 2C8s12 北西隅	I-1区 II 2B8s10 北壁側溝	1自然流路 第6層系下層 6-3	農具	曲柄又鋤	—	柾目	○	長さ (31.1)cm・幅 3.0 cm・厚さ 1.2~ 1.4cm	コナラ属 アカガシ亜属	WKY714 WKY916
W4	国45	国版30	木14	44	II 2B8s10 北壁側溝	II 2B8s10 褐色灰色シルト	第4層系	農具	又鋤	—	柾目	○	長さ (47.1)cm・幅 3.5 ~ 5.3cm・厚さ 1.0cm	コナラ属 アカガシ亜属	WKY719
W5	国45	—	木18	208	II 2C8s12 東端中央	I-1区 II 2C8s12 東端中央	1自然流路 第6層系泥の下	農具	曲柄又鋤	—	柾目	○	長さ (8.1)cm・幅 3.4 cm・厚さ 0.95cm	イチイガシ	WKY927
W6	国45	国版31	木7	344 W73	I-1区 II 2C8s12 南半	1自然流路第6層系下半	農具	鋤柄	—	又木	○	長さ 斧台 22.2cm・柄 (27.5)cm・幅 3.4~4.4 cm・厚さ 2.5~2.7cm	イヌマキ属	WKY721	
W7	国45	国版30	木8	82	II 2C8s10 東半 西半 2/4 含む	I-1区 II 2C8s10 東半 西半 2/4 含む	1自然流路 第4層系 搅乱含む	農具	柄握り部	追柾目	○	長さ (23.8)cm・幅 最大 (6.9)cm・厚さ 橫 2.0・幅 2.0cm	イチイガ シ?	WKY-716	
W8	国45	国版30	木1	216 W2	I-1区 II 2C8s10	I-1区 II 2C8s10	1自然流路 第6層系	農具	一本鉈	—	柾目	○	長さ (93.0)cm・幅 (11.1)cm・短径 2.3cm ~長径 2.5cm	コナラ属 アカガシ亜属	WKY860
W9	国45	国版31	木13	161	I-1区 II 2C8s14	I-1区 II 2C8s14	1自然流路 第6層系	農具	木鍬	—	芯持ち丸木	○	長さ 16.3cm・短径 6.2 cm・長径 7.6cm	タイミンタ チバナ	WKY713
W10	国46	国版31	木19	258 W19	I-1区 II 2C8s12 北西隅	I-1区 II 2C8s12 北西隅	1自然流路 第6層系	工具	鋤柄 鉄斧柄	—	芯持ち丸木	○	長さ (16.0)cm・幅 3.5 cm・厚さ 5.0cm	サカキ	WKY737
W11	国46	国版31	木17	195	II 2C8s12 北西隅	I-1区 II 2C8s12 北西隅	1自然流路 第6層系下層 6-3	工具柄	鉄製 工具柄	—	芯持ち丸木	○	長さ (20.9)cm・幅 4.1 cm・厚さ 3.8cm・鉄 製の刃先を装着せ る	コナラ属 コナラ節	WKY915
W12	国46	国版31	木12	321	II 2C8s13 北端	I-1区 II 2C8s13 北端	1自然流路 第6層系 6-3	建築部材	柱	—	割り材	○	長さ 11.4cm・幅 9.4 cm・厚さ 最大 4.9cm	コナラ属 コナラ節	WKY715
W13	国46	国版31	木10	320	I-1区 II 2C8s12	I-1区 II 2C8s12	1自然流路 第6層系 6-3	—	とがり棒	—	割り材	○	長さ (14.7)cm・幅 1.3 cm・厚さ 1.4cm	ヒノキ	WKY718
W14	国46	国版31	木9	190	I-1区 II 2C8s14	I-1区 II 2C8s14	1自然流路 第6層系下端	樹皮素材	—	樹皮	○	幅 6.7cm×7.7cm・高 さ 1.7cm・厚さ 0.15cm	サクランボ (広葉)?	WKY717	
W15	国46	国版31	木5	233 W12	I-1区 II 2C8s13	I-1区 II 2C8s13	1自然流路 第6層系	建築部材	壁板	—	板目	○	長さ (57.1)cm・幅 16.2cm・厚さ 最大 2.2 cm・合わせ板、年輪 年代可推定	ヒノキ	WKY720
W16	国46	国版32	木2	222 W4	I-1区 II 2C8s11	I-1区 II 2C8s11	1自然流路 第6層系	建築部材	柱材	—	又木	○	長さ (98.3)cm・短径 10.65cm・長径 (13.0) cm・表面焦げ	カネモチ ビワ	WKY799
W17	国46	国版32	木4	232 W11	I-1区 II 2C8s13	I-1区 II 2C8s13	1自然流路 第6層系	建築部材	柱材	—	割り材	○	長さ (109.9)cm・長径 19.7cm・短径 19cm	—	WKY797
W18	国47	国版32	木21	324 W57	I-1区 II 2B8y13	I-1区 II 2B8y13	1自然流路 第6層系	木材	杭	—	芯持ち丸木	○	長さ (58.3)cm・短径 3.1 cm	イヌマキ属	WKY786
W19	国47	国版32	木22	327 W60	I-1区 II 2B8y13	I-1区 II 2B8y13	1自然流路 第6層系	木材	杭	—	芯持ち丸木	○	長さ (48.8)cm・短径 5.3cm・長径 6.0cm	イヌマキ属	WKY762
W20	国47	国版32	木20	338 W71	I-1区 II 2C8s13	I-1区 II 2C8s13	1自然流路 第6層系	建築部材 転用杭	(垂木)	—	芯持ち丸木	○	長さ (67.5)cm・短径 5.1cm・長径 6.0cm, 大き込み有り	アカマツ	WKY791
W21	国47	国版32	木23	334	I-1区 II 2C8s12	I-1区 II 2C8s12	1自然流路 第6層系	木材	杭	—	芯持ち丸木	○	長さ (87.1)cm・短径 8.1cm・長径 10.5cm	コナラ属 アカガシ亜属	WKY789
W22	国47	国版32	木24	335 W68	I-1区 II 2C8s12	I-1区 II 2C8s12	1自然流路 第6層系	木材	杭	—	芯持ち丸木	○	長さ (121.5)cm・長径 13.7cm・短径 12.0cm	コナラ属 アカガシ亜属	WKY796
W23	国47	国版32	木3	247 W10	I-1区 II 2B8y11 北東隅	I-1区 II 2B8y11 北東隅	1自然流路 第6層系	木材	杭	—	割り材	○	長さ (109.5)cm・短径 9.8cm・長径 11.7cm, 建築部材転用杭	イヌマキ属	WKY798

付章

第1節 和田岩坪遺跡出土木材の樹種

能城修一（明治大学黒耀石研究センター）・佐々木由香（明治大学黒耀石研究センター）・村上由美子（京都大学総合博物館）・前田仁輝（京都大学大学院）

1. はじめに

和歌山市和田に所在する和田岩坪遺跡から出土した木製品類と自然木の樹種を報告する。和田岩坪遺跡では和田川南岸の後背湿地に形成された自然流路内から木製品類と自然木が出土した。内訳は、弥生時代終末期～古墳時代前期の木製品類 152 点、樹皮素材 1 点、自然木 57 点と、古墳時代中期～後期の木製品類 20 点、自然木 10 点、時代不明の板材 1 点、自然木 3 点である。

2. 方法

樹種同定は、木取りと加工を記録し、遺物から片刃カミソリで横断面と、接線断面、放射断面の切片を切り取り、ガムクロラール（抱水クロラール 50g、アラビアゴム粉末 40g、グリセリン 20mL、蒸留水 50mL の混合物）で封入しておこなった。各プレパラートには WKY-713 ～ 966 の番号を付して標本番号とした。標本は、明治大学黒耀石研究センターに保管されている。

3. 結果

同定不能 14 点をのぞいた総数 230 点の試料中には、針葉樹 8 分類群、広葉樹 30 分類群が見いだされた（表 1）。下記には簡単に木材組織の記載を行い、顕微鏡写真を提示する。

1. モミ属 *Abies* マツ科 写真 1: 1c (枝・幹材、WKY-891)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。晩材の量はやや多い。放射組織は柔細胞のみからなり、細胞壁には單壁孔が目立ち、分野壁孔はごく小型のスギ型で 1 分野に 3 ～ 4 個。

2. ツガ属 *Tsuga* マツ科 写真 1: 2c (枝・幹材、WKY-938)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急。放射組織は柔細胞と放射仮道管からなり、柔細胞の壁には単壁孔が目立ち、分野壁孔はごく小型のスギ型で 1 分野に 3 ～ 4 個。

3. アカマツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc. マツ科 写真 1: 3a, 3c (枝・幹材、WKY-887)

垂直・水平樹脂道をもつ針葉樹材。晩材の量が多い。放射組織は柔細胞と放射仮道管からなり、放射仮道管の水平壁には重鉛歯があり、分野壁孔は大型の窓状で 1 分野に 1 個。

4. イヌマキ属 *Podocarpus* マキ科 写真 1: 4a, 4c (枝・幹材、WKY-930)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。晩材の量は少なく、年輪内に樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は中型のヒノキ型で 1 分野に 1 ～ 2 個。

5. コウヤマキ属 *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc. コウヤマキ科 写真 1: 5c (枝・幹材、WKY-886)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。晩材の量は少ない。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は孔口が水平にスリット状に開き、1 分野に 1 ～ 2 個。

6. ヒノキ属 *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 写真 1: 6a, 6c (枝・幹材、WKY-826)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。晩材の量は少なく、早材の終わりから晩材に樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は中型のトウヒ型で1分野に2個。

7. スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don ヒノキ科 写真1:7a, 7c (枝・幹材、WKY-723)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。晩材の量はやや多く、早材の終わりから晩材に樹脂細胞が散在する。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔はごく大型のスギ型で1分野に2個。

8. イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch イチイ科 写真1:8a, 8c (枝・幹材、WKY-816)

垂直・水平樹脂道を欠く針葉樹材。晩材の量は少なく、年輪内に樹脂細胞が散在する。仮道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は柔細胞のみからなり、分野壁孔は小型のヒノキ型で1分野に1~2個。

9. クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl クスノキ科 写真1:9a, 9b (枝・幹材、WKY-907)

やや大型~小型でやや厚壁の道管が年輪内で徐々に小型化しながら疎らに散在する半環孔材。道管の穿孔は單一。木部柔組織は周囲状で、大型の油細胞をもつ。放射組織は異性で3細胞幅位、不規則に層階状に配列する。

10. クスノキ科 Lauraceae クスノキ科 写真1:10a (枝・幹材、WKY-739)

中型でやや厚壁の丸い道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合して疎らに散在する散孔材。周囲状の木部柔組織に油細胞をもつ。道管の穿孔は單一。放射組織は異性で2~3細胞幅。

11. イスノキ *Distylium racemosum* Siebold et Zucc. マンサク科 写真2:11a, 11b (枝・幹材、WKY-768)

小型で丸い孤立道管が均一にやや疎らに散在する散孔材。木部柔組織は3細胞幅ほどの帯状。道管の穿孔は10段ほどの階段状。放射組織は異性で2細胞幅。

12. ハギ属ヤマハギ節 *Lespedeza* sect. *Macrolespedeza* マメ科 写真2:12a, 12b (枝・幹材、WKY-874)

中型~小型で厚壁の丸い道管が単独あるいは2~3個複合して、年輪内で徐々に小型化しながらやや疎らに散在する半環孔材。木部柔組織は早材で周囲状、晩材で連合翼状。道管の穿孔は單一。放射組織は異性で3細胞幅位。

13. モモ *Amygdalus persica* L. バラ科 写真2:13a, 13b (枝・幹材、WKY-940)

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2~4個ほど複合して散在する。年輪界は採取できていない。道管の穿孔は單一で、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で8細胞幅位。

14. サクラ属(広義) *Prunus* s.l. バラ科 写真2:14a (枝・幹材、WKY-775), 15b (樹皮、WKY-717)

枝・幹材: 中型で丸い道管が単独あるいは2~3個複合して斜めに連なる傾向をみて散在する散孔材。道管の穿孔は單一で、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で4細胞幅位。

樹皮: 水平方向に細長くのびた紡錘形のコルク細胞が密に配列する外樹皮の組織。

15. カナメモチ・ビワ *Photinia* or *Eriobotrya* バラ科 写真2:16a, 16b (枝・幹材、WKY-861)

小型で丸い孤立道管が均一にやや疎らに散在する散孔材。木部柔組織は短接線状、ときに大型の菱形結晶をもつ。道管の穿孔は單一。放射組織は異性で2細胞。

16. グミ属 *Elaeagnus* グミ科 写真2:17a, 17b (枝・幹材、WKY-741)

やや小型~小型で丸い孤立道管が小型化ながらやや疎らに散在する半環孔材。ときに同心円状の障害ゴム道をもつ。道管の穿孔は單一。木部柔組織は短接線状。放射組織は同性で10細胞幅位。

17. エノキ属 *Celtis* アサ科 写真2:18a, 18b (枝・幹材、WKY-852)
大型で丸い道管が単独あるいは2～3個複合して年輪の始めに数列配列し、晩材では小型の道管が集合して斜め方向の帶をなす環孔材。道管の穿孔は單一。放射組織は異性で5細胞幅位。
18. イヌビワ *Ficus erecta* Thunb. クワ科 写真2:19a, 19b (枝・幹材、WKY-944)
やや小型でやや厚壁の丸い道管が単独あるいは2～3個放射方向に複合してごく疎らに散在する散孔材。木部柔組織は數細胞幅の帶状。道管の穿孔は單一。放射組織は異性で5細胞幅位。
19. スダジイ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T. Yamaz. et Mashiba ブナ科 写真3:20a (枝・幹材、WKY-760)
年輪の始めに大型で丸い孤立道管が放射方向に連なって断続的に配列し、晩材では小型で薄壁の孤立道管が火炎状に配列する環孔材。木部柔組織は短接線状。道管の穿孔は單一。放射組織は単列同性。
20. ツブライイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky ブナ科 写真3:21a (枝・幹材、WKY-788)
スダジイに似る環孔材で、しばしば集合状～複合状の大型の放射組織をもつ。
21. コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 写真3:22a (枝・幹材、WKY-871)
ごく大型で丸い孤立道管が年輪の始めに2～3列配列し、晩材では徐々に小型化した厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材。木部柔組織は晩材でいびつな短接線状。道管の穿孔は單一。放射組織は同性で、小型で單列か大型で複合状。
22. コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Priurus* ブナ科 写真3:23a (枝・幹材、WKY-773)
コナラ属クヌギ節に似る環孔材で、晩材の道管は薄壁で火炎状に配列する。
23. イチイガシ *Quercus gilva* Blume ブナ科 写真3:24a (枝・幹材、WKY-889)
直径220 μm 以上のごく大型で丸い孤立道管が放射状に配列する放射孔材。木部柔組織はいびつな接線状。道管の穿孔は單一。放射組織は同性で、小型で單列か大型で複合状。最大道管径が200～220 μm のものはイチイガシ?とした。
24. コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真3:25a (枝・幹材、WKY-736)
イチイガシに似る放射孔材で、道管の直径は200 μm 以下。
25. クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 写真3:26a (枝・幹材、WKY-769)
小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2～3個複合してやや疎らに散在する散孔材。木部柔組織は接線状。道管の穿孔は單一。放射組織は異性で、小型で3細胞幅位か大型で集合状。
26. ニシキギ属 *Euonymus* ニシキギ科 写真3:27a, 27b (枝・幹材、WKY-949)
ごく小型で丸い孤立道管が密に均一に散在する散孔材。道管の穿孔は單一で、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は単列同性。
27. アカメガシワ *Mallotus japonicus* (L.f.) Moll.Arg. トウダイグサ科 写真3:28a (枝・幹材、WKY-834)
中型～小型で厚壁の丸い道管が単独あるいは2～3個放射方向に複合して徐々に小型化しながら散在する半環孔材。木部柔組織は接線状。道管の穿孔は單一。放射組織は単列異性。
28. ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 写真3:29a, 29b (枝・幹材、WKY-854)
大型で丸い道管がほぼ単独で年輪の始めに1列ほど配列し、晩材では小型で丸い道管が数個ずつ放射

方向に伸びる塊をなして散在する環孔材。木部柔組織は晩材で連合翼状。道管の穿孔は单一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は同性で3細胞幅位。

29. クマノミズキ類 *Cornus* cf. *macrophylla* Wall. ミズキ科 写真3:30a, 30b (枝・幹材、WKY-772)
やや小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2~3個複合して散在する散孔材。木部柔組織は短接線状。道管の穿孔は20段ほどの階段状。放射組織は異性で4細胞幅位。

30. サカキ *Cleyera japonica* Thunb. サカキ科 写真3:31a, 31b (枝・幹材、WKY-750)
ごく小型で角張った孤立道管が密に均一に散在する散孔材。道管の穿孔は30~40段ほどの階段状。放射組織は単列異性。

31. ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. サカキ科 写真4:32a, 32b (枝・幹材、WKY-858)
小型で角張った孤立道管が密に均一に散在する散孔材。道管の穿孔は40~50段ほどの階段状。放射組織は異性で2細胞幅。

32. カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 写真4:33a, 33b (枝・幹材、WKY-755)
中型で丸い厚壁の道管が単独あるいは2個放射方向に複合してごく疎らに散在する散孔材。木部柔組織は接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で2細胞幅、層階状に配列する。

33. タイミンタチバナ *Myrsine seguinii* H.Lév. サクラソウ科 写真4:34a, 34b (枝・幹材、WKY-747)

ごく小型で丸い道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合して散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で10枚細胞幅となり、高さは4mmに達する。

34. ツバキ属 *Camellia* ツバキ科 写真4:35a, 35b (枝・幹材、WKY-900)
小型~ごく小型の孤立道管が年輪内でやや小型化ながらやや密に散在する散孔材。道管の穿孔は10段ほどの階段状。放射組織は異性で2細胞幅。

35. シャシャンボ *Vaccinium bracteatum* Thunb. ツツジ科 写真4:36a, 36b (枝・幹材、WKY-793)
小型の孤立道管がやや密に均一に散在する散孔材。道管の穿孔は単一、あるいは10段ほどの階段状。放射組織は異性で7細胞幅位。

36. イボタノキ属 *Ligustrum* モクセイ科 写真4:37a, 37b (枝・幹材、WKY-744)
年輪の始めにやや小型で丸い孤立道管が断続的に1列に配列し、晩材では小型の孤立道管が単独あるいは放射方向に2個ほど複合してやや疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で2細胞幅。

37. ムラサキシキブ属 *Callicarpa* シソ科 写真4:38a, 38b (枝・幹材、WKY-849)
ごく小型で丸い厚壁の道管が単独あるいは放射方向に2~3個複合して疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で3細胞幅位。

38. モチノキ属 *Ilex* モチノキ科 写真4:39a, 39b (枝・幹材、WKY-771)
ごく小型で丸い道管が単独あるいは2~3個複合して疎らに散在する散孔材。木部柔組織は短接線状。道管の穿孔は10~20段ほどの階段状。放射組織は異性で4細胞幅位。

4. 考察

和田岩坪遺跡から出土した弥生時代終末期~古墳時代前期の木製品類の樹種を見ると、針葉樹が7分類群、広葉樹が25分類群と多様な樹種が使われていた(表1)。この時期の鍛錬や杭に多用されているの

はイチイガシを含むコナラ属アカガシ亜属であった。このほか、イヌマキ属が鍛錠の柄と杭、加工材に、ヒノキが板材や加工材に、アカマツが杭と板材、加工材に、スギが杭と板材に、スダジイとツヅラジイ、クヌギ節、コナラ節が杭と加工材に多く使われている。杭列AとBでは、杭列Aにスダジイやツヅラジイ、クヌギ節、コナラ節、アカガシ亜属といったブナ科の樹種とヒノキが多く、杭列Bにはイヌマキ属とアカマツといった針葉樹とアカガシ亜属やシャシャンボといった広葉樹が多く、樹種選択がやや異なる。個別の製品群で見てみると、針葉樹は割りやすいため板材に多用されていた。柄にはイヌマキ属やサカキ、コナラ節が選択されており、イチイガシを含むアカガシ亜属に限定される鍛錠と比べて樹種選択が柔軟であった。建築材は、柱にカナメモチあるいはビワ、壁板にヒノキ、栓にコナラ節を使っているように、材質や加工特性を考慮して選択していた。直径をみると、ヒノキ科の柱材が直径19cmでもつとも太く、杭は直径が4～13cmのものが多く平均5.2cmであった。鍛錠は破片が多く、放射径を計測できなかった。

古墳時代中期～後期では、イヌマキ属とアカマツが加工材や割材およびヒノキとスギの板材といった針葉樹が木製品類の主体を占め、広葉樹の利用は少なかつた。

和歌山県西牟婁郡すさみ町の立野遺跡の弥生時代前期を主体とする木製品類と比較すると、立野遺跡では木製品類445点と自然木239点中に針葉樹7分類群と広葉樹34分類群、蔓植物1分類群、双子葉草本1分類群、竹笙類1分類群が見いだされたのに対し（能城ほか2013）、和田岩坪遺跡では、総数230点中に針葉樹8分類群、広葉樹30分類群が見いだされていて、当遺跡の周辺には樹木相の豊かな照葉樹林があったと想定される。ただし、アカマツがやや多く、ハギ属ヤマハギ節、エノキ属、アカメガシワが出土しているため、当遺跡の近傍には二次林もあったと考えられる。またスダジイとツヅラジイ、イスノキの存在は海岸に近い当遺跡の立地を反映している。

より南方に位置する立野遺跡では、クスノキやイスノキ、リンボク、ユズリハ属といった照葉樹林の主要な要素が見いだされ、クスノキとイスノキが多用されていた。一方、立野遺跡ではまったく見いだされなかつたクヌギ節やコナラ節が和田岩坪遺跡では杭に多用されていた。さらに和田岩坪遺跡では、コウヤマキといったやや内陸寄りに生育する樹種が見いだされた。こうした樹種組成の違いは、立地の違いを反映していると考えられる。立野遺跡の樹種選択を特徴づけていたクスノキとイスノキの利用が和田岩坪遺跡で少ないのは、いずれも西日本の海岸沿いに生育する樹種のため、やや北方の和田岩坪遺跡周辺では資源量が少なかつたと考えられる。鍛錠の樹種選択は対照的で、立野遺跡ではイスノキおよびクスノキ製の板目の鍛錠や泥除が多かったのに対し、和田岩坪遺跡では、近畿地方の他の遺跡のようにイチイガシを含むアカガシ亜属製の栓目の鍛錠と泥除のみが出土した。

【引用文献】

能城修一・佐々木由香・村上由美子・小林和貴 2013「立野遺跡出土木材の樹種同定」『立野遺跡－近畿自動車道紀勢線事業に伴う発掘調査報告書』: 114-125. 公益財團法人和歌山県文化財センター

表1 和田岩坪遺跡出土木製品類と自然木の樹種

樹種名	SP	学生時代終末～古墳時代前期(第6層系)										古墳時代中期～後期(第4～5層系)										総計				
		樹幹	泥除	輪郭	斧柄	木棒	尖棒	柱	檻	板	板列	板列他	板材	加工材	木製品類	樹皮	素材	計	板材	加工材	木製品類	樹皮	素材	板村	自然木	
モミ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ツガ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
アカマツ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
イヌマキ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
コウヤマキ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ヒノキ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
スギ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ヒノキ科	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
イヌガヤ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
クスノキ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
クスノキ科	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
イスノキ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ハギ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ヤマハギ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
モモ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
モミジ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
サクラ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
(庄喬)	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
サクラ属 (広葉)	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
サクランボ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
カナメモチ・ビワ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
グミ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
エノキ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
イヌビワ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
スタジイ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ツタジイ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
コナラ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
クヌギ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
コナラ属 (ナラ属)	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
イチイガシ?	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
コナラ属 (アカガシ?)	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
クマシテ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ニシキギ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
アカメガシワ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ムクロジ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
クマノミズキ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
サカキ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ヒサカキ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
カキノキ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
タイミニンタチバナ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ツバキ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
シャシャンボ	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
イボタノキ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
ムラサキシキ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
エチノキ属	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
固定不能	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
枝・幹材	5	1	1	1	1	1	2	1	1	22	16	20	22	57	152	1	57	1	1	4	2	14	10	1	3	244
総計	5	1	1	1	1	1	2	1	1	2	3	2	3	6	8	1	4	1	1	2	2	14	14	14	14	14

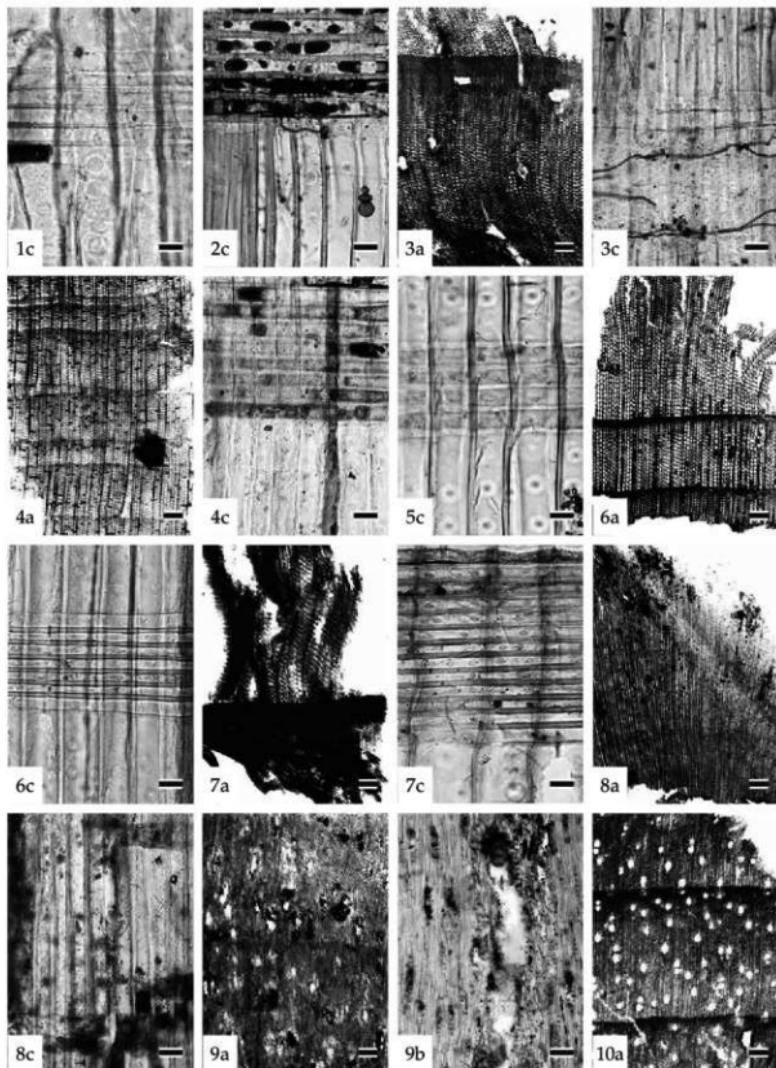


写真1. 和田岩坪遺跡出土木材の顕微鏡写真(1)

1c:モミ属(枝・幹材、WKY-891)、2c:ツガ属(枝・幹材、WKY-938)、3a, 3c:アカマツ(枝・幹材、WKY-887)、4a, 4c:イスマキ属(枝・幹材、WKY-930)、5c:コヤマキ(枝・幹材、WKY-886)、6a, 6c:ヒノキ(枝・幹材、WKY-826)、7a, 7c:スギ(枝・幹材、WKY-723)、8a, 8c:イナガヤ(枝・幹材、WKY-816)、9a, 9b:クスノキ(枝・幹材、WKY-907)、10a:クスノキ科(枝・幹材、WKY-739)。a:横断面(スケール=200 μm)、b:接線断面(スケール=100 μm)、c:放射断面(スケール=25 μm)。

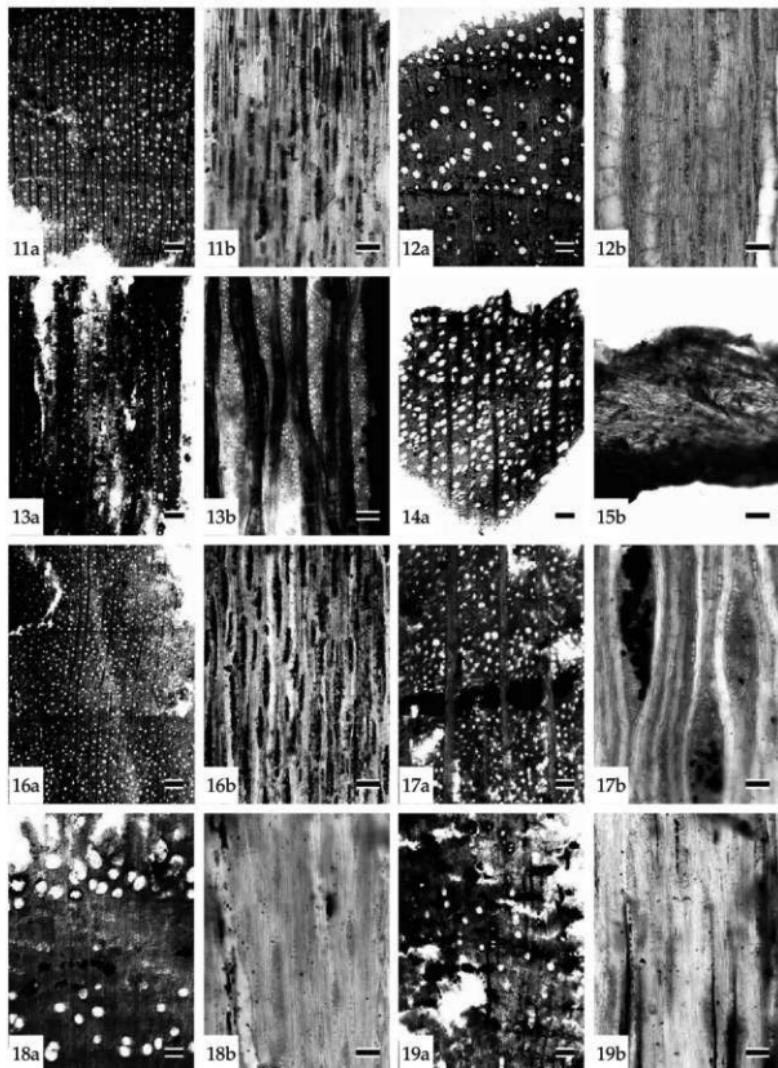


写真2. 和田岩坪遺跡出土木材の顕微鏡写真(2)

11a, 11b: イスノキ (枝・幹材、WKY-768)、12a, 12b: ハギ属ヤマハギ節 (枝・幹材、WKY-874)、13a, 13b: モモ (枝・幹材、WKY-940)、14a: サクラ属 (広義) (枝・幹材、WKY-775)、15b: サクラ属 (広義) (樹皮、WKY-717)、16a, 16b: カナメモチ・ビワ (枝・幹材、WKY-861)、17a, 17b: グミ属 (枝・幹材、WKY-741)、18a, 18b: エノキ属 (枝・幹材、WKY-852)、19a, 19b: イヌビワ (枝・幹材、WKY-944)。a: 横断面 (スケール = 200 μm)、b: 接線断面 (スケール = 100 μm)。

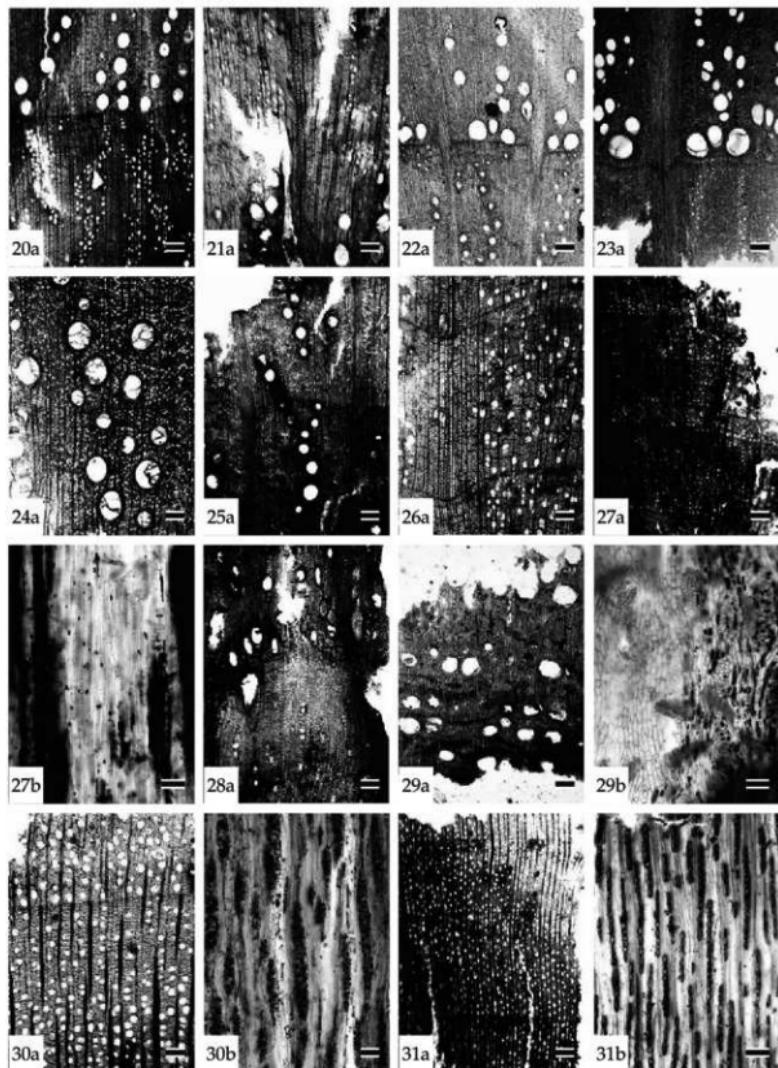


写真3. 和田岩坪遺跡出土木材の顕微鏡写真(3)

20a:スダジイ(枝・幹材、WKY-760)、21a:ツブラジイ(枝・幹材、WKY-788)、22a:コナラ属クヌギ節(枝・幹材、WKY-871)、23a:コナラ属コナラ節(枝・幹材、WKY-773)、24a:イチイガシ(枝・幹材、WKY-889)、25a:コナラ属アカガシ亜属(枝・幹材、WKY-736)、26a:クマシデ属イヌシデ節(枝・幹材、WKY-769)、27a, 27b:ニシキギ属(枝・幹材、WKY-949)、28a:アカメガシワ(枝・幹材、WKY-834)、29a, 29b:ムクロジ(枝・幹材、WKY-854)、30a, 30b:クマノミズキ類(枝・幹材、WKY-772)、31a, 31b:サカキ(枝・幹材、WKY-750)。a:横断面(スケール=200 μm)、b:接線断面(スケール=100 μm)。

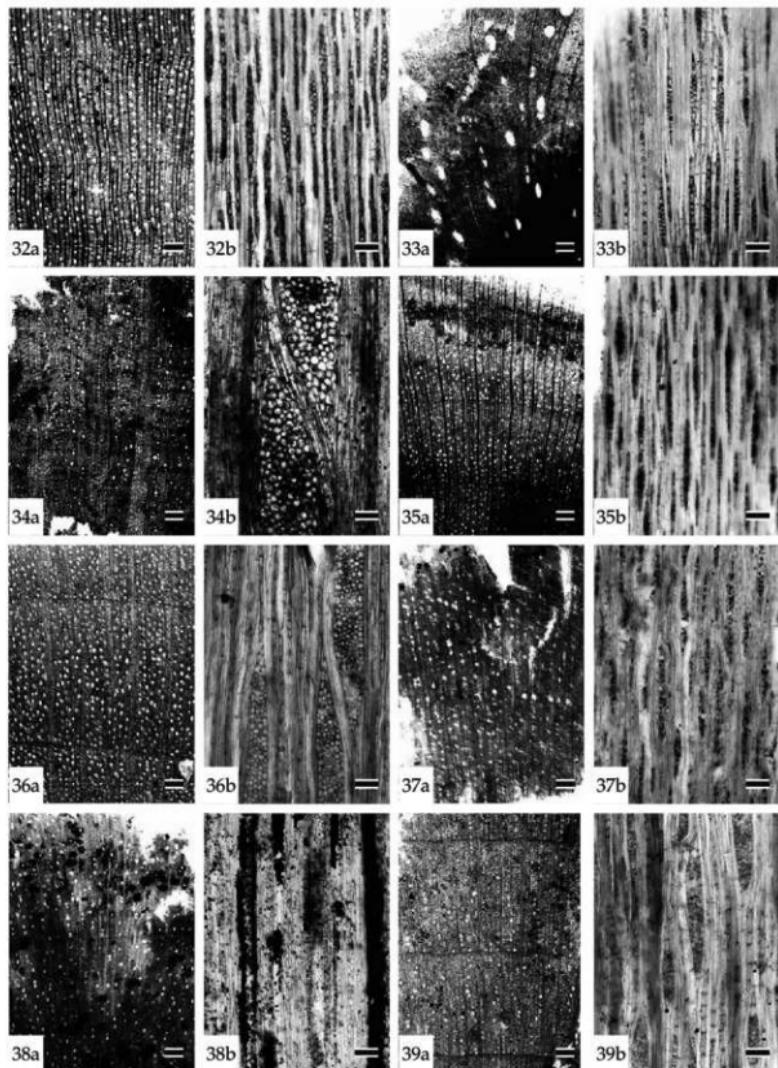


写真4. 和田岩坪遺跡出土木材の顕微鏡写真 (4)

32a, 32b: ヒサカキ (枝・幹材、WKY-858)、33a, 33b: カキノキ属 (枝・幹材、WKY-755)、34a, 34b: タイミンタチバナ (枝・幹材、WKY-747)、35a, 35b: ツバキ属 (枝・幹材、WKY-900)、36a, 36b: シャシャンボ (枝・幹材、WKY-793)、37a, 37b: イボタノキ属 (枝・幹材、WKY-744)、38a, 38b: ムラサキシキブ属 (枝・幹材、WKY-849)、39a, 39b: モチノキ属 (枝・幹材、WKY-771)。a: 横断面 (スケール = 200 μm)、b: 接線断面 (スケール = 100 μm)。

第2節 和田岩坪遺跡における大型種実同定

金原美奈子（一般社団法人 文化財科学研究センター）

1. はじめに

和田岩坪遺跡より1-1区及び2-1区の自然流路から出土した種実類について報告する。出土時期は、弥生時代終末期（庄内式併行期）から古墳時代前期（布留式併行期）である。植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

2. 試料と方法

試料は1-1区及び2-1区の自然流路（42地点）より出土した大型種実類である。全て水洗選別済み試料である。

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

3. 結果

（1）分類群

樹木11、草本5の計16分類群が同定される。学名、和名および粒数を表1に示し、モモの計測値を表2に示す。主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

〔樹木〕

マツ属複維管束亞属 *Pinus subgen. Diploxylon* 毯果 マツ科

黒褐色で卵形を呈す。種鱗先端の外部に露出する部分は扁平5角形であり、その中央にはへそがある。

ヤマモモ *Myrica rubra* S. et Z. 核 ヤマモモ科

茶褐色で梢円形を呈し、両端がややとがる。一端にへそがあり、表面は粗い。断面は扁平である。

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核 (完形・破片) クルミ科

茶褐色で円形～梢円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。

コナラ属 *Quercus* 果皮(破片) ブナ科

黒褐色で梢円形を呈し、一端につき部が残る。表面は平滑である。この分類群は殻斗欠落し、属レベルの同定までである。

クスノキ *Cinnamomum camphora* S. 種子(破片) クスノキ科

黒褐色で球形を呈す。一条の稜線が走りその中央が突起する。

クマノミズキ *Cornus brachypoda* C. A. Mey. 核 ミズキ科

淡褐色で球形を呈す。表面に一本の広い溝がめぐり、数本の細い縦筋が走る。

モモ *Prunus persica* Batsch 核 (完形・半形・破片) パラ科

黄褐色～黒褐色で梢円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

イヌザンショウ *Zanthoxylum schinifolium* S. et Z. 種子 ミカン科

種子は黒褐色で楕円状球形を呈す。側面に長く深いへそがある。表面にやや大きな網目模様がある。

サンショウ属 *Zanthoxylum* 種子(破片) ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面にへそがある。表面には網目模様がある。この分類群はへそが欠落し破片のため、属レベルの同定までである。

ブドウ属 *Vitis* 種子 ブドウ科

茶褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

ホルトノキ属 *Elaeocarpus* 核 ホルトノキ科

黄褐色で長卵形を呈す。表面には不明瞭で微細な凸凹がある。

[草本]

イネ *Oryza sativa* L. 炭化果実(完形・破片) イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。また、数個体には表面に穎の残存(微細な顆粒状突起)が認められる。

アサ *Cannabis sativa* L. 種子 クワ科

茶褐色で広卵形を呈す。一端には円形のへそ部がある。

ササゲ属 *Vigna* 炭化種子 マメ科

炭化しているため黒色で楕円形を呈す。へそは縦に細長い。ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれるが、現状の研究では識別は困難である。

ウリ類 *Cucurbita maxima* L. 種子(破片) ウリ科

淡褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。藤下によると小粒種子(雑草メロン型)、中粒種子(マクワウリ・シロウリ型)、大粒種子(モモルディカ型)がある。

ヒヨウタン類 *Lagenaria siceraria* Standl. 種子(破片) ウリ科

淡褐色で楕円形を呈す。上端にはへそと発芽孔があり、下端は波うつ切形を呈す。表面には縦に2本の低い稜が走る。

不明種実 Unknown seeds 種子

種実と考えられるが、表面模様、特徴などが観察されず、不明種実までの同定に留める。

4. 出土種実類から推定される植生と農耕

和田岩坪遺跡において同定された大型種実類は樹木のマツ属複維管束亞属、ヤマモモ、オニグルミ、コナラ属、クスノキ、モモ、クマノミズキ、イヌザンショウ、サンショウ属、ブドウ属、ホルトノキ属、草本のイネ、アサ、ササゲ属、ウリ類、ヒヨウタン類である。

樹木では、常緑針葉樹のマツ属複維管束亞属は広く分布し二次林種であり、ヤマモモ、クスノキは照葉樹林の構成要素で西南日本の海岸沿いに多い樹木である。オニグルミは谷沿いや谷間などやや湿潤なところに生育し、ブドウ属は落葉蔓性植物で林縁に多い。クマノミズキ、イヌザンショウ、サンショウ属は人為環境やその縁辺に多い。モモは大量に同定されており、食用となる。稲作と共に伝來した栽培植物であり、極めて多くの遺跡から出土し、弥生時代から古墳時代にかけて多くなる傾向にある。計測値の平均値は長さ 23.11 mm、幅 19.67 mm、厚さ 15.08 mm、最大値は長さ 26.45 mm、幅 23.85 mm、厚さ 19.05 mm、最小値は長さ 18.92 mm、幅 15.36 mm、厚さ 11.88 mmであった。ヤマモモとオニグルミは食用となるが、野

生植物からの採取と考えられる。いずれも核となる果実の最内層の内果皮が残存しやすく出土する。モモ核については、大きさを図示したが、長さは 26.45 mm まで中型までの大きさで、幅と厚さのある丸いタイプのものである。金原（1996）に示される A 類にあたり、5 世紀の古墳時代中期から出現する厚みがやや薄く大型で皺の稜線が尖ったり小孔を有する B 類や C 類は混在しない。草本はいずれも栽培植物であり、イネおよび畑作物であるアサ、ササゲ属、ウリ類、ヒヨウタン類が出土している。また、ウリ類は、完形ではないものの、長さは 6.67 mm で、藤下（1982 等）が示す大きさの中型のマクワ・シロウリ型（6.1～8.0 mm）にあたる。なお、食用となる植物を除けば、コナラ属、クスノキ、クマノミズキ、イヌザンショウ、サンショウ属の樹木が分布し、沿岸に生育する樹木と二次林傾向の樹木が分布していた。

5. まとめ

和田岩坪遺跡の大型種実類の同定を行った結果、樹木のマツ属複維管束亞属、ヤマモモ、オニグルミ、コナラ属、クスノキ、モモ、クマノミズキ、イヌザンショウ、サンショウ属、ブドウ属、ホルトノキ属、草本のイネ、アサ、ササゲ属、ウリ類、ヒヨウタン類が同定された。

食用となるヤマモモ、モモ、オニグルミ、ブドウ属、イネ、アサ、ササゲ属、ウリ類、ヒヨウタン類が検出され、そのうちモモ、イネ、アサ、ササゲ属、ウリ類、ヒヨウタン類は栽培植物であり、周辺で水田および畑が営まれていたとみなされる。なお、モモ核は中型の大きさのもので古墳時代に出土する幅と厚みのある丸いタイプ（A 類）であり、ウリ類は中型の大きさ（マクワ・シロウリ型）であった。また、遺跡周辺には沿岸および二次林傾向のマツ属複維管束亞属、コナラ属、クスノキ、クマノミズキ、イヌザンショウ、サンショウ属が分布していた。

【参考文献】

- 藤下典之 1982 「菜畑遺跡から出土したメロン仲間 *Cucurbita molo* L. とヒヨウタン仲間 *Lagenaria siceraria* Standl. の種子について」『唐津市文化財調査報告第 5 集菜畑遺跡』唐津市教育委員会 p. 455～463.
- 笠原安夫 1965 『日本雑草図説』養賢堂, 494p.
- 笠原安夫 1968 「作物および田畠雜草種類」『弥生文化の研究』第 2 卷生業 雄山閣 出版 p. 131～139.
- 南木勝彦 1991 「栽培植物」『古墳時代の研究』第 4 卷生産と流通 I 雄山閣出版株式会社 p. 165～174.
- 南木勝彦 1993 「葉・果実・種子」『日本第四紀学会編』第四紀試料分析法 東京大学出版会 p. 276～283.
- 藤下典之 1992 「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝搬、利用について」『月刊考古学ジャーナル』No. 354 ニュー・サイエンス社 p. 7～13.
- 金原正明 1996 「古代モモの形態と品種」『月刊考古学ジャーナル』No. 409 ニュー・サイエンス社 p. 15～19.

表1 和田岩坪遺跡における種実同定結果

出土標本番号	地図	取上区画	遺跡番号 展位	分類群		個数	備考
				学名	和名		
159	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Elaeocarpus</i>	ゼルトノキ属	1	
161	1-1K	B20a14	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	複数個有り
162	1-1K	B20a12 南半	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
169	1-1K	B20a12 千先	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
171	1-1K	B20a11 北東	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	(半形)
						1	
						1	(半形)
						1	(複合)
173	1-1K	B20a11 北東	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	複数個有り
185	1-1K	B20a12 北東	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	(半形)
186	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	2
191	1-1K	B20a12 北東	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	複数個有り
192	1-1K	B20a12 北東	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
193	1-1K	B20a12 北東	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
						1	複数個有り
194	1-1K	B20a12 北西隅	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
				<i>Ficus</i>	サツバ属	1	複化開子
195	1-1K	B20a12 北西隅	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
				<i>Quercus</i>	コナラ属	1	
					葉皮(複合)	1	
					ハツ	1	複化葉裏
				<i>Oryza sativa L.</i>	イネ	3	複合
						1	(複合)
196	1-1K	B20a11 北西隅	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
				<i>Quercus</i>	コナラ属	1	葉皮(複合)
				<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	(複合)
				<i>Zanthoxylum schinifolium</i> S. et Z.	ヤシノキ属	1	
				<i>Zanthoxylum</i>	サシヨウ属	1	
197	1-1K	B20a11 西側中央	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	複数個有り
198	1-1K	B20a11 北西半	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
200	1-1K	B20a12 千先	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
201	1-1K	B20a11	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
204	1-1K	B20a11 南東端	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	ツツジ属複葉密生被覆
206	1-1K	B20a12 東端中央	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
214	1-1K	B20a10	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
				<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	(半形)
220	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	2	
227	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	複数個有り
						1	(複合)
228	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	複数個有り
229	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
261	1-1K	B20a11 南西隅	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
275	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	2	
277	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
				<i>Cinnamomum camphora</i> S.	タヌキモク	1	葉子(複合)
				<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	(半形)
				<i>Ostrya carpinifolia</i> C.A. Mey.	クマノミズキ	1	
				<i>Ostrya carpinifolia</i> C.A. Mey.	クマノミズキ	1	複化葉裏
				<i>Crataegus sibirica</i> L.	アザ	1	
				<i>Crataegus sibirica</i> L.	アザ	1	複化葉裏
				<i>Cuscuta mele L.</i>	ウツク	1	葉子(複合)
				<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
				<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	(半形)
280	1-1K	B20a10 南中央	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
281	1-1K	B20a10 南中央	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	(半形)
284	1-1K	B20a10 千先	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	2	
				<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	葉子(複合)
				<i>Ulmus parviflora</i>	ウルム	1	不明葉裏
				<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
				<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	(半形)
285	1-1K	B20a11 南西半	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	葉子(複合)
288	1-1K	B20a11 南西半	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
292	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
320	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
321	1-1K	B20a11 北東	1自然洞路	<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	
						2	
						1	(半形)
				<i>Quercus</i>	コナラ属	4	
				<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
				<i>Ficus</i>	サツバ属	1	複化葉裏
				<i>Oryza sativa L.</i>	イネ	2	複化葉裏
				<i>Lagerstroemia speciosa</i> Standl.	ヒョウタン	1	葉子
						1	(複合)
343	1-1K	B20a12	1自然洞路	<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	
				<i>Myrice rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	1	(半形)
403	2-1K	B20a14+15	基礎面倒り割り	<i>Juglans oliverioides</i> Carr.	オニグルミ	1	
				<i>Prunus persica</i> Benth.	モモ	1	複数個有り

表2 和田岩坪遺跡におけるモモ核の計測値

出土遺物 登録番号	部位	個数	備考	モモ		
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
161	核	1	噛み痕有1	22.96	—	13.51
162	核 (半形)	1		24.15	23.03	17.15
171	核 (半形)	1		19.44	16.01	—
173	核	1	噛み痕有1	23.46	20.37	15.54
185	核(半形)	1		26.28	23.19	—
186	核	2	噛み痕有1	20.54	—	13.18
192	核	1		23.47	22.00	—
193	核	3	噛み痕有3	25.38	20.12	15.35
				23.51	—	17.15
				23.48	18.19	14.83
197	核 (半形)	1	噛み痕有1	—	20.96	15.55
200	核	1		24.52	—	14.70
202	核	1		20.17	—	14.24
208	核	1		22.96	—	15.51
214	核 (半形)	1		19.62	17.11	—
220	核	2		24.85	20.70	16.00
237	核 (破片)	1	噛み痕有1	20.72	17.96	14.27
238	核	1	噛み痕有1	20.74	17.65	14.48
239	核	1		23.86	19.07	14.09
275	核	2		20.69	17.49	—
277	核(半形)	1		25.09	23.24	17.38
279	核	2		26.21	19.22	13.82
288	核	3		—	15.36	11.88
289	核	1		25.83	—	—
320	核(半形)	1		22.73	—	13.18
321	核 (半形)	1		21.39	18.01	13.82
493	核	2	噛み痕有1	25.41	23.85	18.90
				21.07	17.31	13.55
				18.92	16.04	—
				24.93	21.00	15.68
				25.33	20.71	14.74
				26.45	20.55	14.08
				23.08	21.29	16.56
				21.67	21.00	14.71
				20.72	17.61	13.65
				24.67	19.15	—
				25.13	20.37	16.02
				21.67	18.20	—
				25.85	23.10	19.05
				21.55	—	15.06

モモ	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
平均値	23.11	19.67	15.08
最大値	26.45	23.85	19.05
最小値	18.92	15.36	11.88

出土遺物 登録番号	部位	個数	備考	オニグルミ		
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
493	核	1		29.63	24.93	24.06

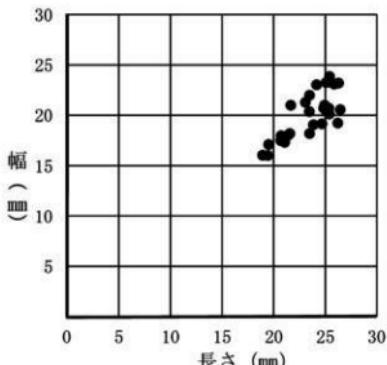


図1 モモ核の計測値分布

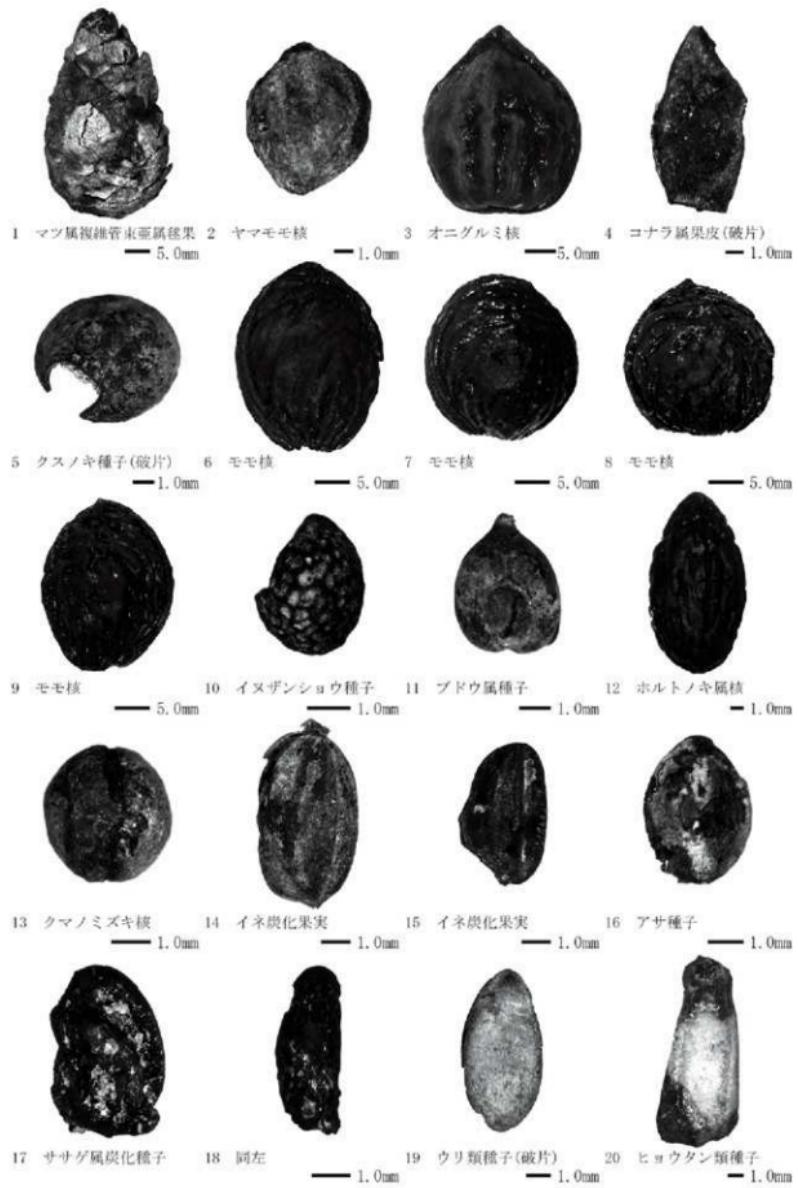
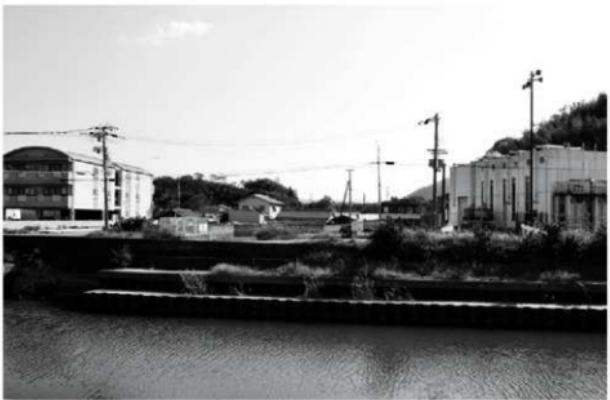


写真1 和田岩坪遺跡の種実

写真図版1 調査地遠景・調査前の現況



1 調査地遠景（北から）



2 1区 調査前の現況（北北東から）



3 2区 調査前の現況（北北東から）



1 2-1区 調査遺構全景（北北東寄り北上空から）



2 2-1区 調査遺構全景（東北東から）



3 2-1区 調査遺構全景（西北西から）



1 2-3 区 調査遺構全景（真上上空から）上側が北



2 2-3 区南半側 調査遺構全景（西北西寄り西から）



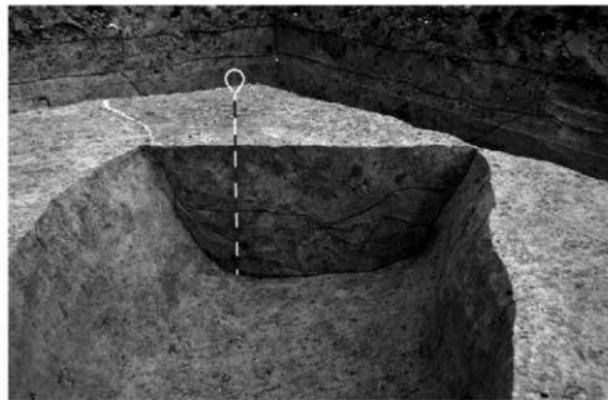
3 2-3 区北半側 調査遺構全景（北北東寄り北から）



1 2-3区南半東側 調査遺構全景（東南東から）



2 2-1区B8s16 12 土坑完掘状況と調査区東・南壁断面土層（北西から）



3 2-1区B8s16 12 土坑北東-南西断面土層（北西から）



1 2-3区 B8q・r12 102・109 土坑完掘状況（東南東寄り東から）



2 2-3区 B8q・r12 109 土坑に伴う標石か（東南東寄り東から）



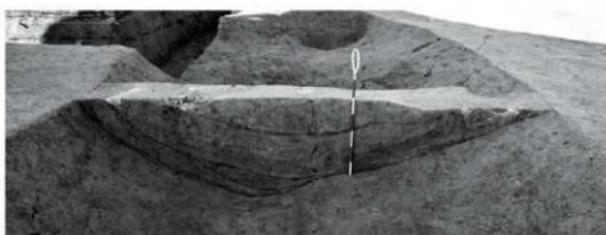
3 2-3区 B8q・r12 109 土坑東西断面土層（南から）



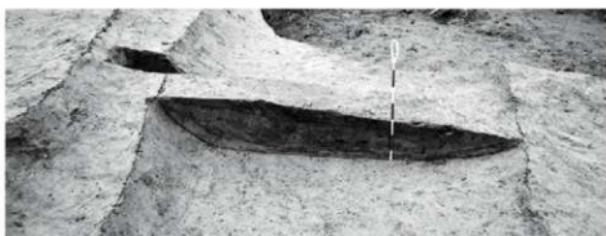
1 2-3区 B8s12 107 土坑完掘状況（東南東から）



2 2-3区 143 溝完掘状況（北北東寄り北から）



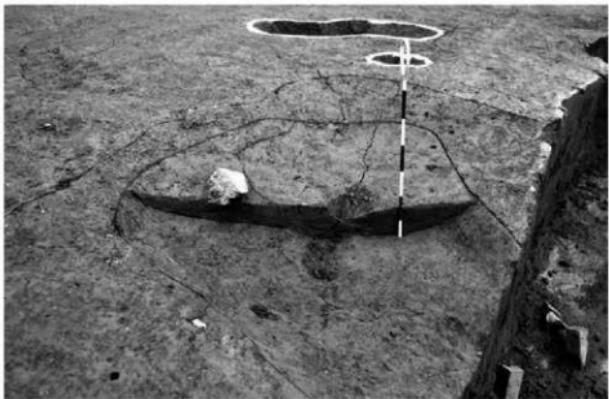
3 2-3区 B8s+t11 143 溝東西断面土層（南南西寄り南から）



4 2-3区 B8t12 143 溝東西断面土層（南南西寄り南から）



1 2-3区 B8s12 147 土坑完掘状況（北東から）



2 2-3区 B8s12 147 土坑北東-南西断面土層（北西から）



3 2-1区 B8v13 84 楕円形状痕跡検出状況（北北東から）



1 2-1区 13区画溝完掘状況（北北東から）



2 2-1区 B8t・u16 13区画溝調査区南壁東西断面土層（北西から）



3 2-1区 B8s・t・u15 13区画溝東西断面土層（南南西から）



4 2-3区 B8u11・12 112区画溝南北断面土層（東南東寄り東から）



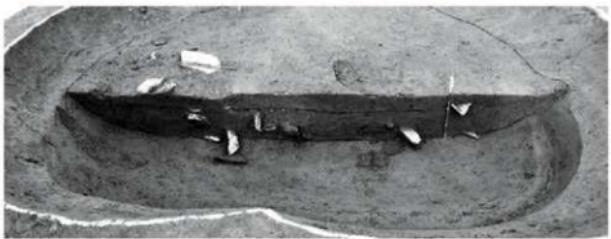
1 2-1区 B8r・s14 14・15 土坑上層下位遺物等出土状況（東南東から）



2 2-1区 B8r・s14 14・15 土坑上層下位遺物等出土状況（北北東から）



3 2-1区 B8r・s14 14・15 土坑上半東西断面土層（南南西から）



4 2-1区 B8r・s14 14・15 土坑下半東西断面土層（南南西から）



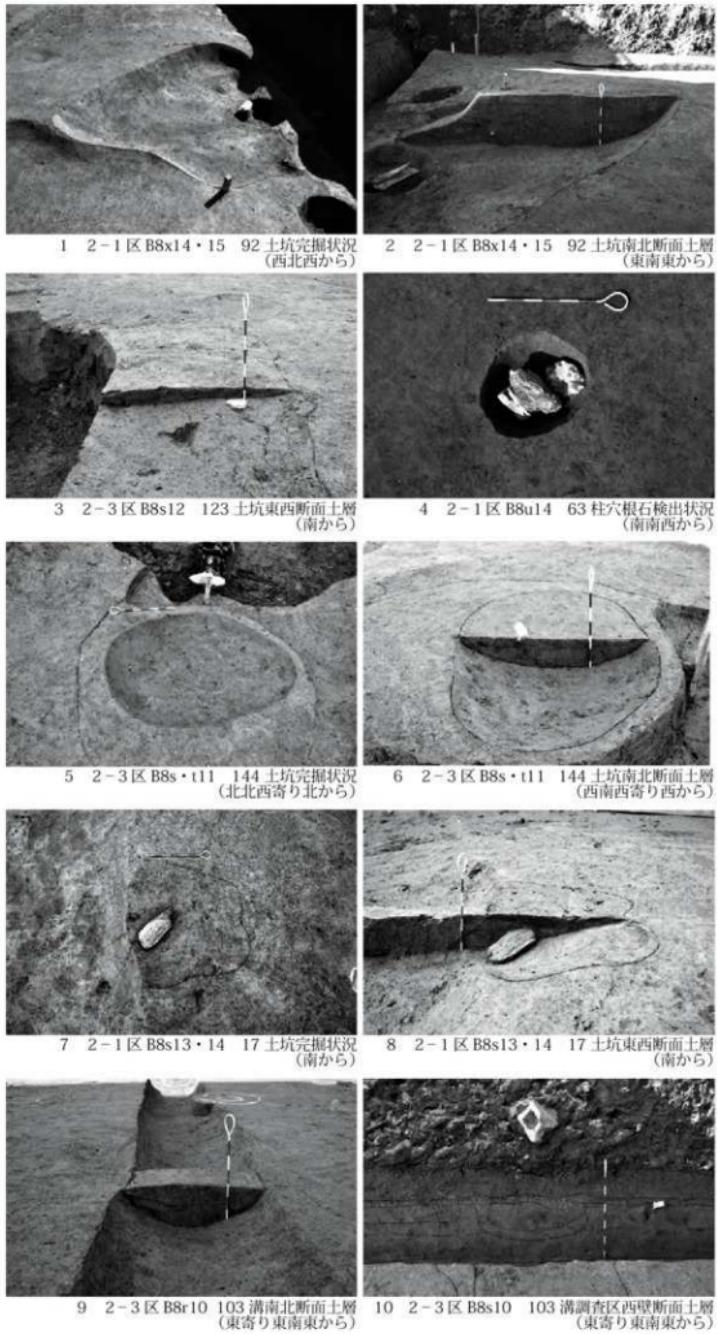
1 2-1区 B8r・s16 16 水溜硬化面完掘状況と調査区東壁断面土層（西北西から）



2 2-1区 B8r・s16 16 水溜調査区東壁断面土層（断ち割り後：西北西から）

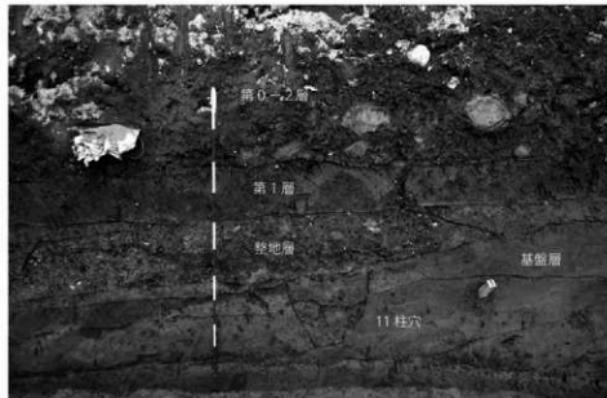


3 2-3区 B8s12 123 土坑完掘状況（東から）

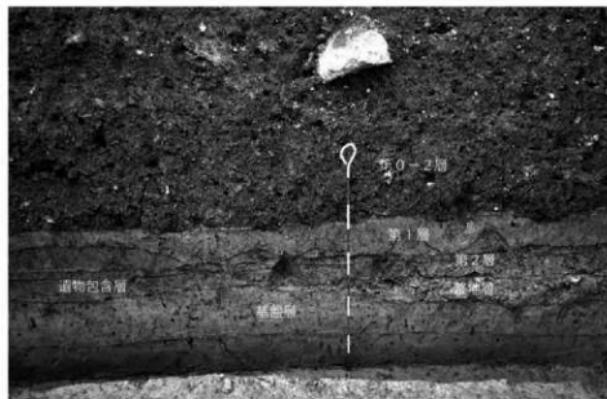




1 2-2区 調査区全景（南東から）



2 2-2区 B8y16 調査区北壁断面土層（南南西から）



3 2-2区 B8y16 調査区西壁断面土層（東南東から）



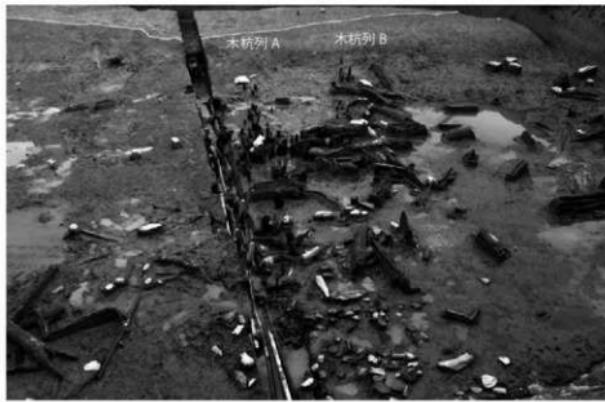
1 1-1区・1-2区 調査地と周辺部の状況（北北東上空から）



2 1-1区 1自然流路第6層系堆積層内 遺物等検出・出土状況(北北西寄り北から)



3 1-1区 1自然流路第6層系堆積層内 遺物等検出・出土状況(南南西から)



1 1-1区 1自然流路第6層系堆積層内 箍状木杭列等検出状況（西北西から）



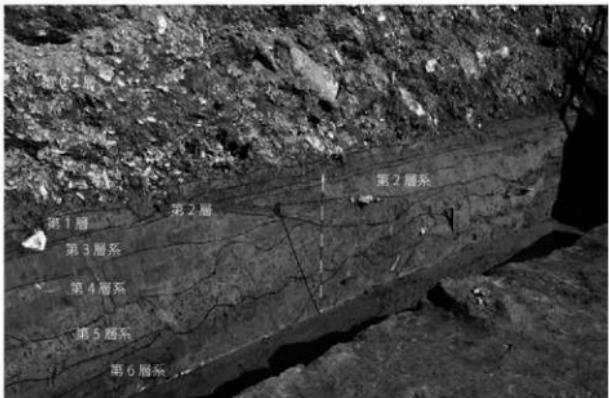
2 1-1区 1自然流路第6層系堆積層内 箍状木杭列等検出状況（東南東から）



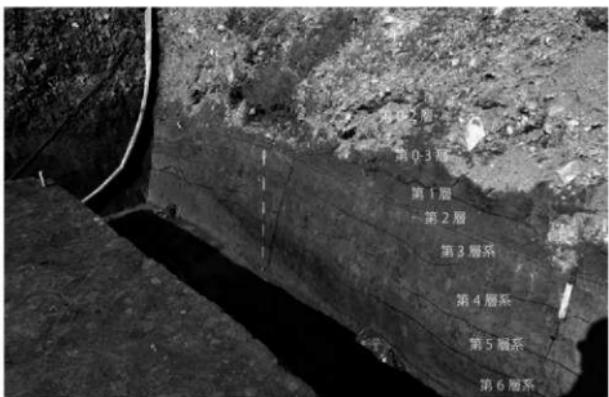
3 1-1区 C8a12・13 1自然流路第6層系堆積層内 箍状木杭列等検出状況細部
(北北東から)



1 1-1区 調査区北壁断面土層（西南西から）



2 1-1区 B8v11-w10-11 (調査区北東側) 調査区北壁断面土層細部（西南西から）



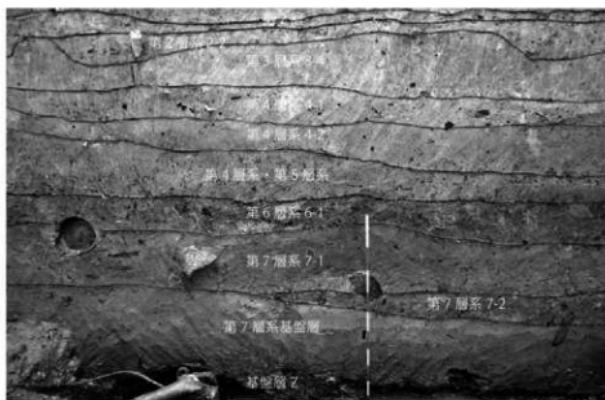
3 1-1区 C8a・b9 (調査区北西側) 調査区北壁断面土層細部（南東から）



1 2-3区 B8v11 1自然流路東肩口調査区北壁断面土層細部（南南西から）



2 1-1区 C8a・b14 調査区南壁上半部断面土層細部（北北東から）



3 1-1区 C8a・b14 1自然流路 調査区南壁下半部断面土層細部（北北東から）



1 1-1区 C8b12 中央～南半 1自然流路第6層系堆積層下端 6-3内遺物
出土状況（北東東から）



2 1-1区 C8b11 南端 1自然流路第6層系堆積層内 3木組み構造物検出状況
(東南東から)



3 1-1区 C8b11 南端 1自然流路第6層系堆積層内 3木組み構造物
杭断ち割り状況（東南東から）



1 1-1区 C8a10 南端 1 自然流路第6層系堆積層内 農具 W8 出土状況（東から）



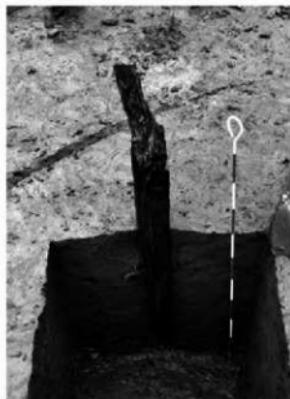
2 1-1区 C8a・b11 南端 1 自然流路第6層系堆積層内 建築部材 W16 出土状況
(南東から)



3 1-1区 C8a13 北東半 1 自然流路第6層系堆積層内 建築部材 W17 出土状況
(北北西から)



1 1-1区 C8a10 西側法面 1 自然流路第6層系堆積層内 遺物等出土状況(東から)



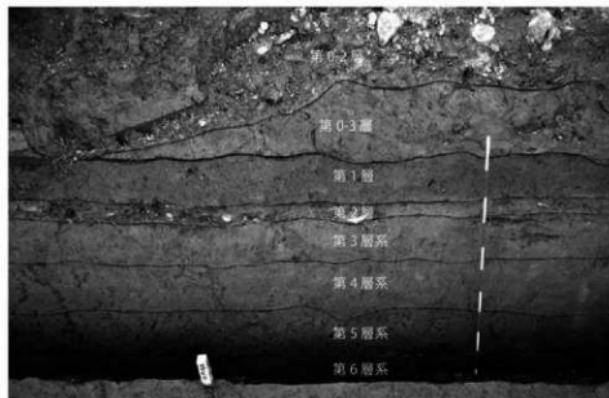
2・3 1-1区 B8y11 北東隅 1 自然流路第6層系堆積層内 土木材 W23 検出状況
(南東から)



4 1-1区 C8a12 中央EWトレンチ南壁断面上層(手前、基盤層断ち割り)
(北北東寄り北から)



1 1-2区 1自然流路第6層系堆積層内 遺物等出土状況（西北西から）



2 1-2区 B8w10 調査区南壁断面土層細部（北北東から）



3 1-2区 B8w9 南東隅 1自然流路第6層系堆積層内 農具W1出土状況(北北西から)

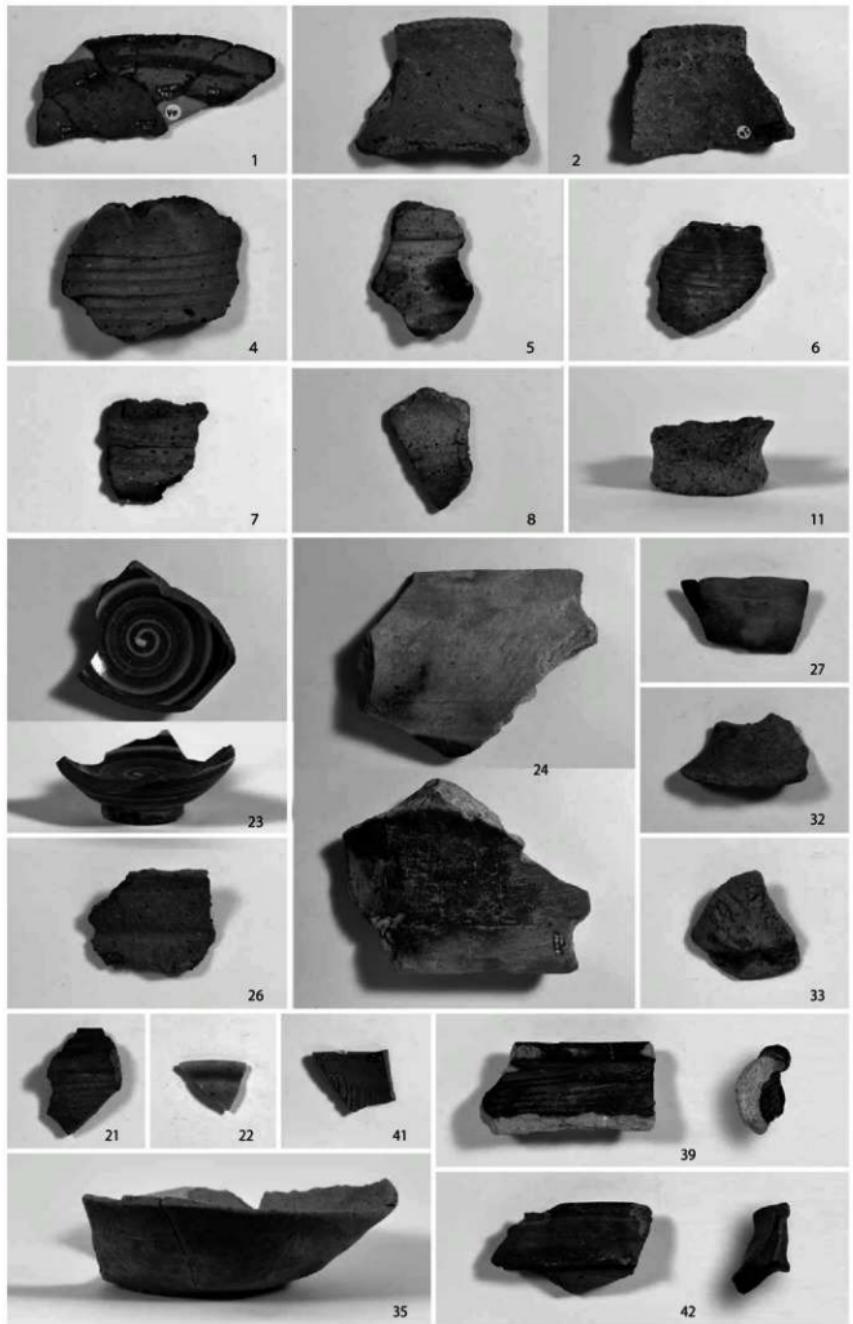


図27・28に対応

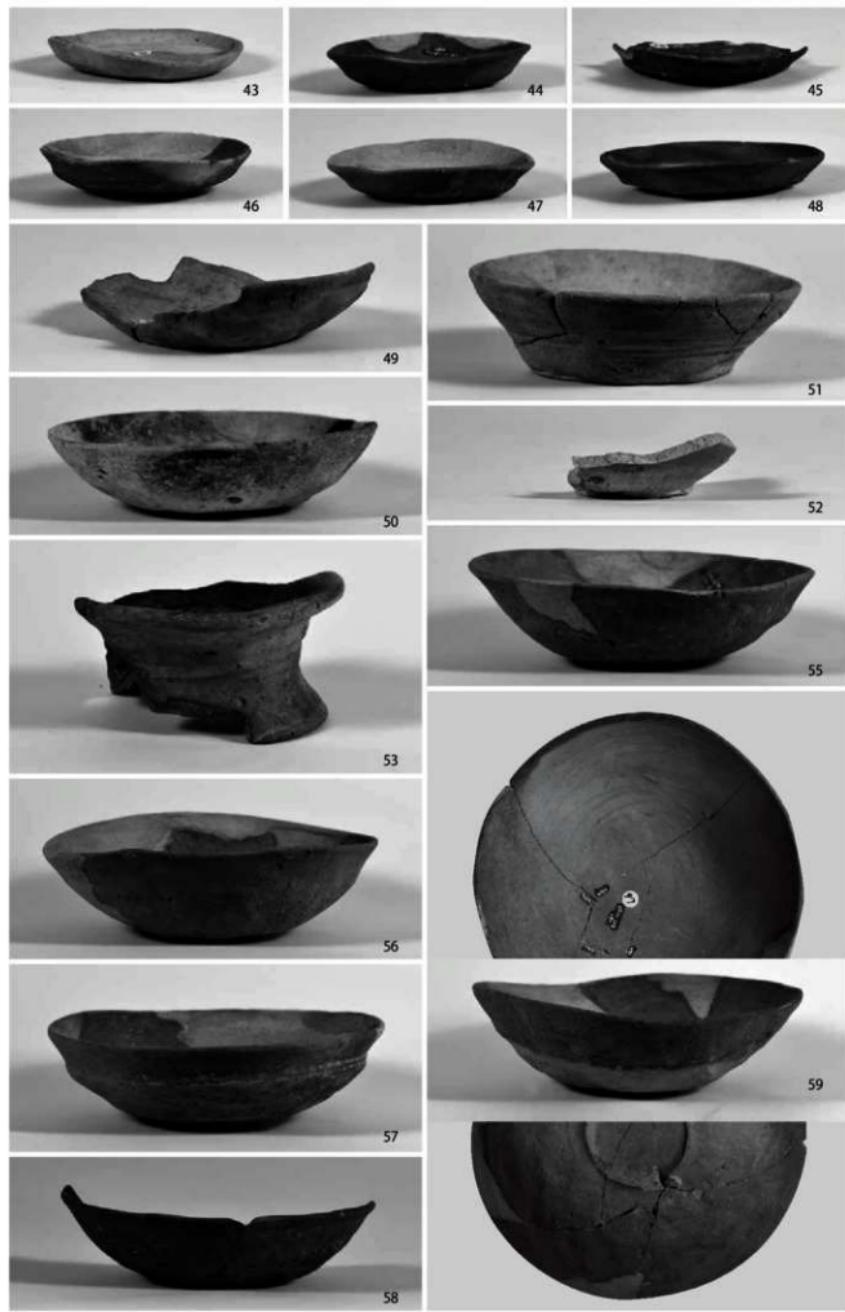


図28に対応

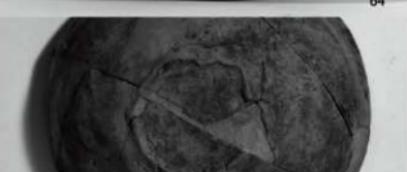
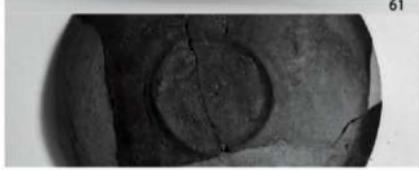
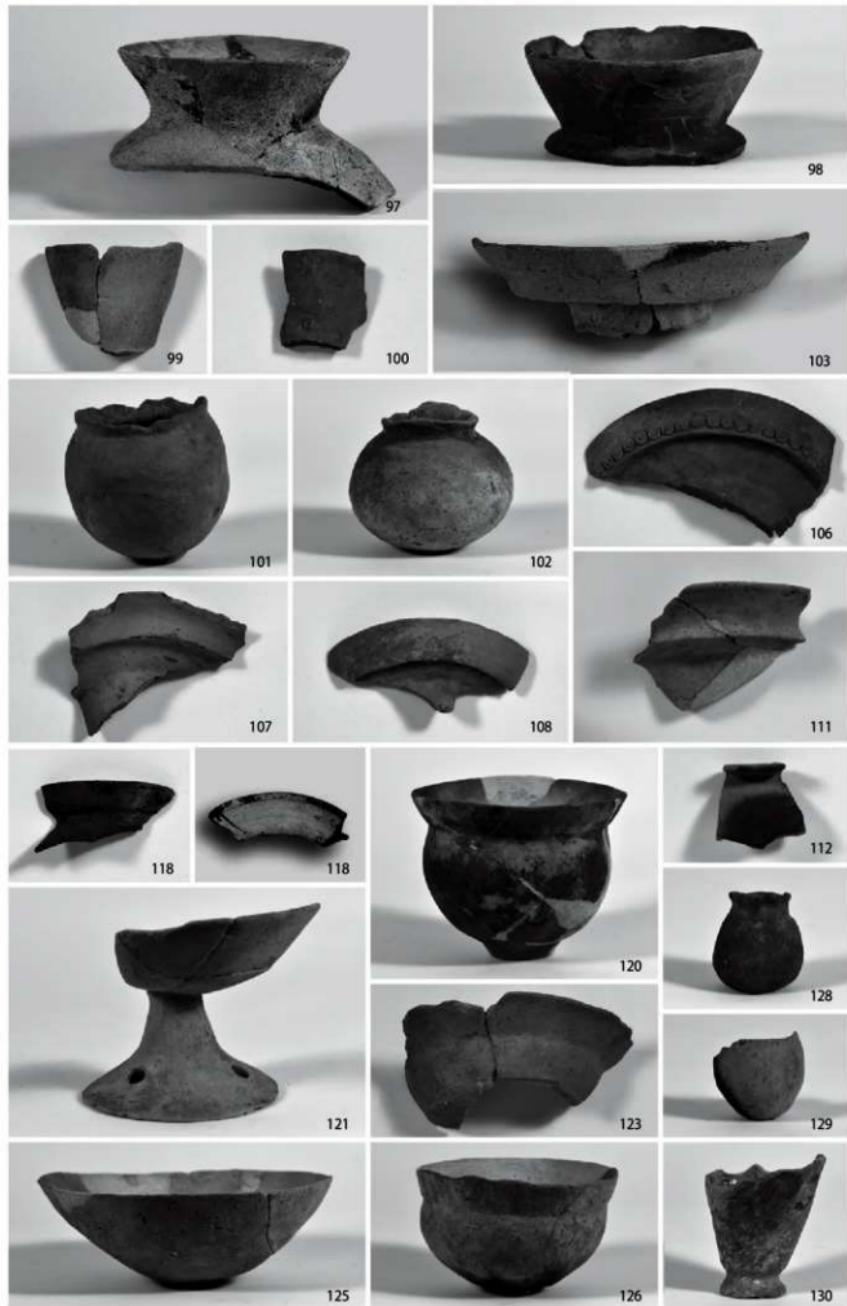




図 37 に対応



写真図版26
1区
1自然流路出土遺物2



図39に対応

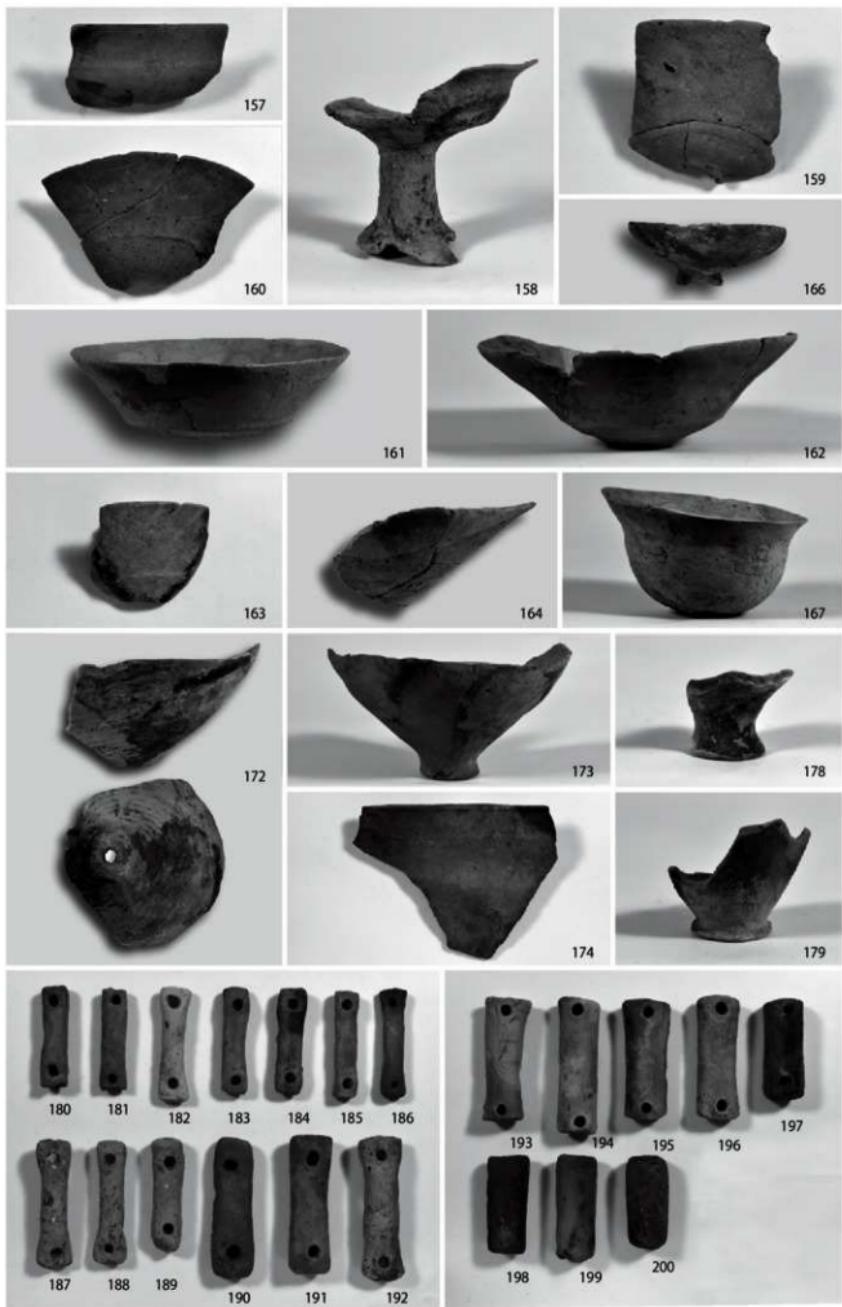


図40・41に対応

写真図版 28
1区
1自然流路出土遺物 4



図 42・43 に対応

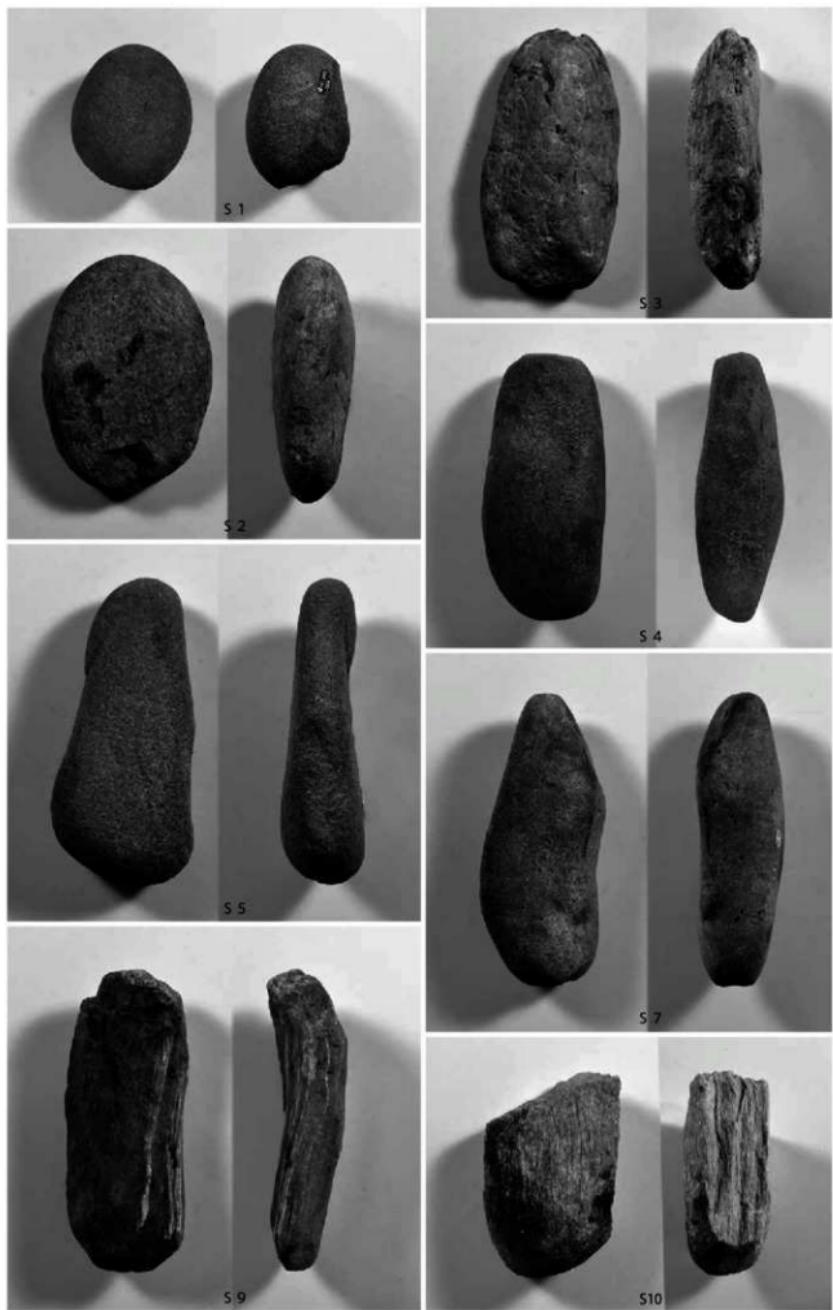
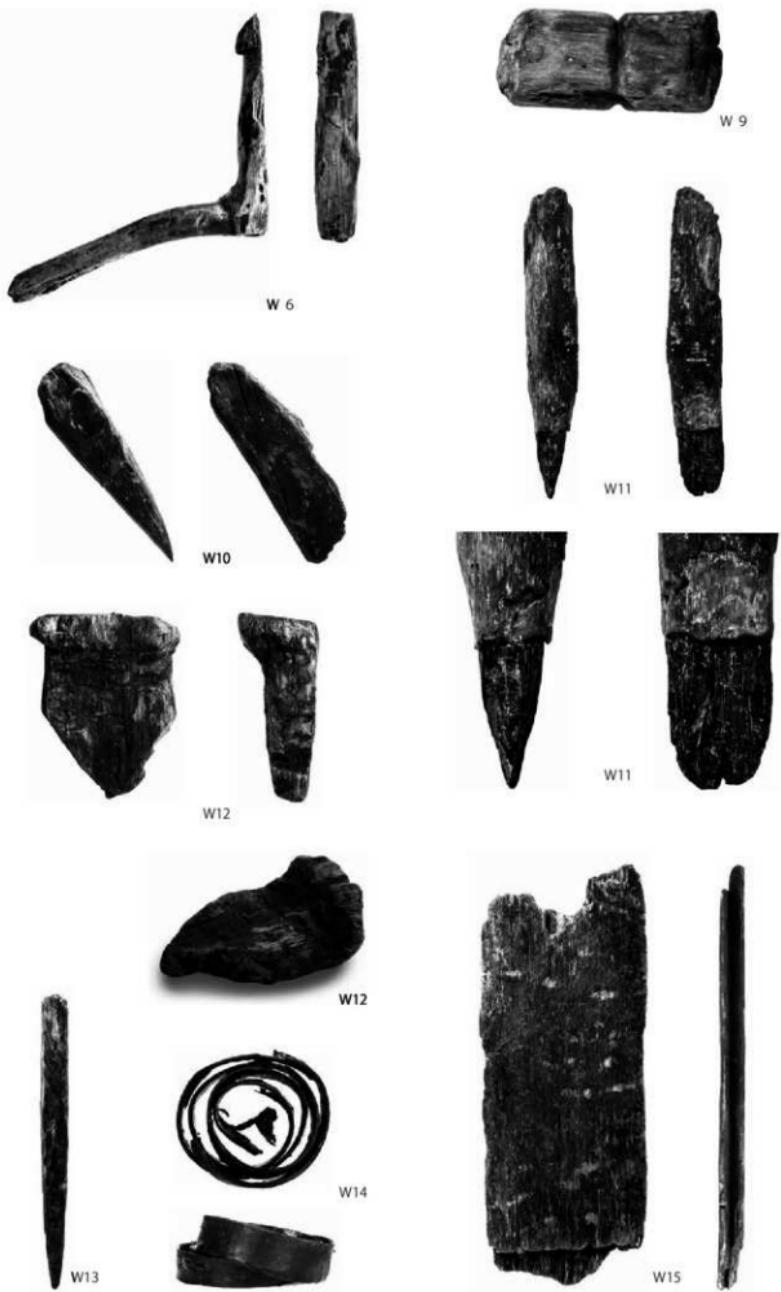


図44に対応

写真図版 30
1区 1自然流路出土木器・木製品1



図45に対応





報告書抄録

和田岩坪遺跡

－和歌山平野農地防災事業
名草排水機場建設工事に伴う発掘調査報告書－

発行年月日：2020年2月28日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター
和歌山県和歌山市岩橋1263番地の1

印刷・製本：白光印刷株式会社
和歌山県和歌山市難賀崎2021-3